

平成30年度(2018年度)開講科目シラバス

Syllabus 2018

もくじ Content

教育課程等の概要(共同学科等)	1	Overview of Academic Programs (Cooperative Academic Discipline)	85
看護学の学問基盤に関する科目群		Subjects Related to Fundamental Nursing Studies	
101 看護研究方法	3	Introduction to Nursing Research Methods	87
102 理論看護学Ⅰ	5	Theories in Nursing I	89
301 理論看護学Ⅱ	7	Theories in Nursing II	91
110 看護倫理	9	Ethics in Nursing	93
111 看護情報統計学	11	Nursing Information Statistics	95
201 保健学的・疫学的研究法	13	Research Methods for Public Health and Epideminology	96
202 看護研究方法論Ⅰ(国際比較研究)	14	Nursing Research Methods I (International)	97
112 看護研究方法論Ⅱ(エスノグラフィー)	16	Nursing Research Methods II (Ethnography)	99
203 看護研究方法論Ⅲ(ケーススタディ・アクションリサーチ)	18	Nursing Research Methods III (Case Studies & Action Research)	101
113 看護研究方法論Ⅳ(グランデッドセオリー)	20	Nursing Research Methods IV (Grounded Theory)	103
114 看護研究方法論Ⅴ(現象学的研究方法)	21	Nursing Research Methods V (Phenomenology)	104
204 看護研究方法論Ⅵ(介入研究・尺度開発含)	23	Nursing Research Methods VI (Intervention Research & Development of Scale)	106
災害看護グローバルリーダーに必要な学際的な科目群		Required Interdisciplinary Subjects for Disaster Nursing Global Leaders	
205 危機管理論	24	Crisis Management Theory	107
115 環境防災学	25	Environmental Disaster Studies	108
211 グローバルヘルスと政策	26	Global Health and Policy-making	109
103 専門職連携実践論	28	Professional Collaboration and Practice Theory	111
104 災害医療学	29	Disaster Medical Science	113
105 災害情報学	31	Disaster Information Science	115
106 災害心理学	32	Disaster Psychology	116
107 災害と文化	34	Disaster and Culture	117
212 災害社会学	35	Disaster Sociology	118
206 災害福祉学	36	Disaster Social Welfare	119
207 Professional writing	37	Professional writing	120
208 Proposal writing (Research proposal writing skill)	39	Proposal writing (Research proposal writing skill)	122
305 Program writing (Program proposal writing skill)	41	Program writing (Program proposal writing skill)	124
災害看護学に関する科目群		Subjects Related Disaster Nursing Studies	
108 災害看護活動論Ⅰ	42	Disaster Nursing Activity I	125
109 災害看護活動論Ⅱ	44	Disaster Nursing Activity II	127
116 災害看護活動論Ⅲ	46	Disaster Nursing Activity III	129
302 災害看護学特論	48	Advanced Disaster Nursing Theory	131
303 災害看護グローバルコーディネーション論	49	Theory in Disaster Nursing Global Coordination	132
306 災害国際活動論	51	International Disaster Response	134
307 災害看護管理・指揮論	53	Disaster Nursing Management	135
308 災害看護倫理	54	Ethics in Disaster Nursing	136
309 災害看護理論構築	55	Buildiing Disaster Nursing Theory	137
災害看護学演習		Disaster nursing seminars	
117 災害看護活動論演習Ⅰ	56	Disaster Nursing Seminar I	138
118 災害看護活動論演習Ⅱ	58	Disaster Nursing Seminar II	140
119 災害時専門職連携演習(災害IP演習)	60	Disaster Professional Collaboration Exercise (Disaster IP Excercise)	142
209 災害看護グローバルリーダー演習	62	Disaster Nursing Global Leader Seminar	144
120 インディペンデントスタディ(演習)A	64	Independent Study A	146
121 インディペンデントスタディ(演習)B	65	Independent Study B	147
122 インディペンデントスタディ(演習)C	66	Independent Study C	148
123 インディペンデントスタディ(演習)D	67	Independent Study D	149
124 インディペンデントスタディ(演習)E	69	Independent Study E	151
災害看護学実習		Disaster Nursing Practical Training	
210 災害看護学実習Ⅰ	70	Disaster Nursing Practium I	152
401 災害看護学実習Ⅱ	72	Disaster Nursing Practicum II	154
402 インディペンデントスタディ(実習)A	74	Independent Study Practicum A	156
403 インディペンデントスタディ(実習)B	75	Independent Study Practicum B	157
404 インディペンデントスタディ(実習)C	76	Independent Study Practicum C	158
405 インディペンデントスタディ(実習)D	77	Independent Study Practicum D	159
406 インディペンデントスタディ(実習)E	79	Independent Study Practicum E	161
災害看護学に関する研究支援科目群		Research Support Courses Related to Disaster Nursing Studies	
213 実践課題レポート	80	Field Research	162
304 災害看護研究デベロップメント	81	Dissertation Research Proposal	163
501 博士論文	82	Dissertation Research	164

教育課程等の概要（共同学科等）												
（共同災害看護学専攻（博士課程））												
科目 区分		授業科目の名称	配当 年次	開設大学	単位数			授業形態			備考	
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実験・ 実習		
看護学 の学問 基盤に 関する 科目群	101	看護研究方法	1前	高知県立大学	2			○			オムニバス／メディアを含む	
	102	理論看護学Ⅰ	1前	千葉大学	2			○			オムニバス／メディアを含む	
	301	理論看護学Ⅱ	3前	高知県立大学	2			○			オムニバス／メディアを含む	
	110	看護倫理	1後	兵庫県立大学		2		○			メディアを含む	
	111	看護情報統計学	1後	東京医科歯科大学		2		○			オムニバス／メディアを含む	
	201	保健学的・疫学的研究法	2前	千葉大学		2		○			メディアを含む	
	202	看護研究方法論Ⅰ（国際比較研究）	2前	東京医科歯科大学		1		○			オムニバス／メディアを含む	
	112	看護研究方法論Ⅱ（エスノグラフィー）	1後	日本赤十字看護大学		1		○			メディアを含む	
	203	看護研究方法論Ⅲ（ケーススタディ・アクションリサーチ）	2前	千葉大学		1		○			オムニバス／メディアを含む	
	113	看護研究方法論Ⅳ（グランデッドセオリー）	1後	東京医科歯科大学		1		○			オムニバス／メディアを含む	
114	看護研究方法論Ⅴ（現象学的研究方法）	1後	高知県立大学		1		○			オムニバス／メディアを含む		
204	看護研究方法論Ⅵ（介入研究・尺度開発含）	2前	兵庫県立大学		1		○			メディアを含む		
		小計（12科目）	－		6	12	0	－			－	
災害 必看護 なグロ ーバル 的バな 科目群 に	205	危機管理論＊	2前	兵庫県立大学		2		○			オムニバス／メディアを含む	
	115	環境防災学＊	1後	千葉大学／高知県立大学		2		○			オムニバス／メディアを含む	
	211	グローバルヘルスと政策＊	2後	東京医科歯科大学		2		○			オムニバス／メディアを含む	
	103	専門職連携実践論＊	1前	千葉大学		2		○			メディアを含む	
	104	災害医療学＊	1前	日本赤十字看護大学		2		○			オムニバス／メディアを含む	
	105	災害情報学＊	1前	兵庫県立大学		2		○			メディアを含む	
	106	災害心理学＊	1前	兵庫県立大学		2		○			メディアを含む	
	107	災害と文化＊	1前	千葉大学		1		○			オムニバス／メディアを含む	
	212	災害社会学＊	2後	高知県立大学		1		○			メディアを含む	
	206	災害福祉学＊	2前	高知県立大学		1		○			メディアを含む	
207	Professional writing＊	2前	高知県立大学		1			○		オムニバス／メディアを含む		
208	Proposal writing（Research proposal writing skill）＊	2前	東京医科歯科大学		1			○		オムニバス／メディアを含む		
305	Program writing（Program proposal writing skill）＊	3後	兵庫県立大学		1			○		メディアを含む		
		小計（13科目）	－		0	20	0	－			－	
災害 看護学 に 関する 科目群	108	災害看護活動論Ⅰ	1前	東京医科歯科大学	2			○			オムニバス／メディアを含む	
	109	災害看護活動論Ⅱ	1前	日本赤十字看護大学	2			○			オムニバス／メディアを含む	
	116	災害看護活動論Ⅲ	1後	千葉大学	2			○			オムニバス／メディアを含む	
	302	災害看護学特論	3前	兵庫県立大学	2			○			メディアを含む	
	303	災害看護グローバルコーディネーション論＊	3前	日本赤十字看護大学		1		○			オムニバス／メディアを含む	
	306	災害国際活動論＊	3後	日本赤十字看護大学		1		○			オムニバス／メディアを含む	
	307	災害看護管理・指揮論＊	3後	高知県立大学		1		○			オムニバス／メディアを含む	
	308	災害看護倫理	3後	兵庫県立大学	1				○		オムニバス／メディアを含む	
	309	災害看護理論構築	3後	高知県立大学／兵庫県立大学	2			○			オムニバス／メディアを含む	
		小計（9科目）	－		11	3	0	－			－	
災害 看護学 演習	117	災害看護活動論演習Ⅰ	1後	東京医科歯科大学	2				○		オムニバス／メディア含む／集中	
	118	災害看護活動論演習Ⅱ	1後	兵庫県立大学	2				○		メディアを含む／集中	
	119	災害時専門職連携演習（災害IP演習）	1後	千葉大学		2			○		オムニバス／メディア含む／集中	
	209	災害看護グローバルリーダー演習	2前	日本赤十字看護大学		2			○		オムニバス／メディアを含む	
	120	インディペンデントスタディ（演習）A	1後	高知県立大学		1			○			
	121	インディペンデントスタディ（演習）B	1後	兵庫県立大学		1			○			
	122	インディペンデントスタディ（演習）C	1後	東京医科歯科大学		1			○			
	123	インディペンデントスタディ（演習）D	1後	千葉大学		1			○			
	124	インディペンデントスタディ（演習）E	1後	日本赤十字看護大学		1			○			
		小計（9科目）	－		4	9	0	－			－	
災害 看護学 実習	210	災害看護学実習Ⅰ	2前	兵庫県立大学	2					○	集中	
	401	災害看護学実習Ⅱ	4前	日本赤十字看護大学	2					○	集中	
	402	インディペンデントスタディ（実習）A	4前	高知県立大学		1				○	集中	
	403	インディペンデントスタディ（実習）B	4前	兵庫県立大学		1				○	集中	
	404	インディペンデントスタディ（実習）C	4前	東京医科歯科大学		1				○	集中	
	405	インディペンデントスタディ（実習）D	4前	千葉大学		1				○	集中	
	406	インディペンデントスタディ（実習）E	4前	日本赤十字看護大学		1				○	集中	
		小計（7科目）	－		4	5	0	－			－	
研究 支援 科目群	213	実践課題レポート	2後	5大学（共同指導）	5				○		各大学1単位／メディアを含む	
	304	災害看護研究デベロップメント	3前	5大学（共同指導）	5				○		各大学1単位／メディアを含む	
	501	博士論文	5前	5大学（共同指導）	5				○		各大学1単位／メディアを含む	
		小計（3科目）	－		15	0	0	－			－	
合計（53科目）			－		40	49	0	－			－	
学位又は称号		博士（看護学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係				
卒業要件及び履修方法					開設大学		開講単位数 （必修）		授業期間等			
標準修業年限の5年以上在籍し、修了要件50単位以上の単位を修得した者で必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び論文の内容や専門分野に関する口述ないし筆記試験に合格することを要件とする。					高知県立大学		16(8)		1学年の学期区分 2期			
					兵庫県立大学		23(11)		1学期の授業期間 16週（試験期間含）			
修了要件50単位のうち、40単位は必修であり、10単位は選択科目または選択必修科目から修得すること。選択必修科目は「災害看護グローバルリーダーに必要な学際的な科目群」から6単位、「災害看護学に関する科目群」から2単位を修得すること。					東京医科歯科大学		16(7)		1時限の授業時間 90分			
					千葉大学		18(7)					
また、それぞれの構成大学において10単位以上を修得すること。					日本赤十字看護大学		16(7)					
					＊は選択必修科目							

授業科目名	看護研究方法 Introduction to Nursing Research Methods	必修の区分	必修
授業コード	101	開講年次	1
単位数	2	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	中山洋子、神原咲子、南裕子	所属	高知県立大学
オフィスアワー・場所	メール	連絡先	nakayama@cc.u-kochi.ac.jp kanbara@cc.u-kochi.ac.jp
講義目的及び到達目標	<p>【講義目的】実践の論拠となる知識の活用のしかたを学ぶと同時に、知識創生過程の適切性・信頼性を分析することができる能力を養う。</p> <p>【到達目標】・看護研究の研究過程、基本的な研究デザインについて学び、それぞれの研究デザインの研究を批判的に分析することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究課題に対して適切な研究デザインを立てることができる。 ・研究と実践との関係を理解し、研究を実践に活用することができる。 		
講義内容・授業計画	<p>1)：理論と実践と研究の関連を踏まえて、看護学の発展にとって看護研究が果たす役割について学習する。(南裕子)</p> <p>2)～3)：基本的な4つの研究の問いのレベルと研究デザインとの関係を踏まえて、実践—研究—理論の関係、研究過程(理論と概念の関係、概念の操作化、測定方法等)について学ぶ。4つの研究デザインと Research Question との関係について学習する。(中山洋子)</p> <p>4)～6)：研究デザインのうち質的研究方法を取りあげ、哲学的な基盤と研究方法を学習するとともに、質的研究方法を用いた文献を取り上げ、Research critique を行う。(中山洋子)</p> <p>7)～11)：量的記述的研究、疫学的思考及び方法を理解し、量的調査及び分析方法について、ダミーサンプルを用いて具体的な方法、注意点を学ぶ。その実践での事例に対して Research critique を行う。(神原咲子)</p> <p>12) 方法論的研究、すなわち、概念から尺度(測定用具、質問用紙)開発のプロセスについて学習する。(中山洋子)</p> <p>13)～15)：仮説検証型研究、準実験研究、実験研究について学習し、それらの研究論文を取り上げて、Research critique を行う。(神原咲子・中山洋子)</p>		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ Burns, N. et al, The Practice of Nursing Research (5th). Elsevier, Inc. 2005. (翻訳版), 黒田裕子監訳、看護研究入門—実践・評価・活用—エルゼビア・ジャパン 2007 ・ Hulley, S. B. et al, Designing Clinical Research, Fourth Edition, Wolters Kluwer, 2013. (翻訳版) Hully, S. B. 他著, 木原雅子・木原正博訳, 医学的研究デザイン, 第4版, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2014. ・ Holloway, I. & Wheeler, S. Qualitative Research in Nursing, Second Edition. Blackwell Science. 2002. (翻訳版) ホロウェイ & ウィラー著, 野口美和子監訳. ナースのための質的研究入門: 研究方法から論文作成まで, 第2版. 医学書院. 2006. ・ Rothman, K. J., Epidemiology: An Introduction, Oxford University Press, 2012. (翻訳版) K. J. Rothman 著, 矢野栄二・橋本英樹・大脇和浩訳. ロスマン 		

	の疫学—科学的思考への誘い, 第2版. 篠原出版新社. 2013.
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> • Crombie, I., The Pocket Guide to Critical Appraisal, Willey-Blackwell, 1996. • Polit, D. F. & Beck, C. T. Nursing Research: Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice. Wolters Kluwer. 2012. (翻訳版) ポーリット, D. F. & ベック, C.T.著, 近藤潤子監訳. 看護研究: 原理と方法, 第2版. 医学書院. 2010.
成績評価	クラス参加度、プレゼンテーション、レポートを総合的に評価する。
履修上の注意・履修要件	特になし
備考	特になし

授業科目名	理論看護学 I Theories in Nursing I	必修の区分	必修
授業コード	102	開講年次	1
単位数	2	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	和住 淑子 山本 利江	所属	千葉大学大学院看護学研究科
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント (火～土)	連絡先	wazumi@faculty.chiba-u.jp
講義目的及び到達目標	<p>【講義目的】 看護学の発達過程を歴史的・方法的・構造的に理解し、諸科学との連関を踏まえつつ、災害看護学を新たな学問として体系化する基礎的能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論とは何かがわかり、その構造分析の方法が理解できる。 2. 既存の看護諸理論の特徴から、看護学の発達過程を、歴史的・方法的・構造的にとらえることができる。 3. 災害看護学を新たな学問として体系化する意義と方法について理解できる。 		
講義内容・授業計画	<p>【第1・2回】和住淑子 看護の理論開発に関する諸概念及び既存の看護諸理論の論理構成の特徴や理論家の経歴・時代背景から、理論開発の過程を分析する方法について講義する。</p> <p>【第3・4回】山本利江 看護理論の看護実践への適用と意義について、具体的事例をもとに講義する。</p> <p>【第5・6回】学生による課題発表と討議① 和住淑子 山本利江 担当学生は、既存の看護諸理論の中から1つの理論をとりあげ、論理構成の特徴や理論家の経歴・時代背景から、理論開発の過程を分析し、実践への適用例を提示する。発表に基づき、学生間で討議をすすめる。</p> <p>【第7・8回】学生による課題発表と討議② 和住淑子 山本利江</p> <p>【第9・10回】学生による課題発表と討議③ 和住淑子 山本利江</p> <p>【第11・12回】学生による課題発表と討議④ 和住淑子 山本利江</p> <p>【第13・14回】学生による課題発表と討議⑤ 和住淑子 山本利江</p> <p>【第15回】課題発表のまとめと災害看護学の体系化に向けた討議 和住淑子 山本利江</p>		
テキスト	<p>F. ナイチンゲール著、湯楨ます他訳、看護覚え書、改訳第7版、現代社、2011.</p> <p>Alligood, M.R., Tomey, A.M., Nursing Theorists and Their Work, 8th ed, Mosby, 2014.</p>		
参考文献	<p>正木治恵、酒井郁子編、看護理論の活用 看護実践の問題解決のために、医歯薬出版、2012.</p>		
成績評価	<p>授業への参加状況、課題レポートの成果から総合的に評価する。</p> <p>授業への出席状況（レスポンスシートの提出）、発表、討議への参加状況、発表 40%、課題レポート 60%</p>		

	<p>課題レポートについて</p> <p>課題：既存の看護諸理論の中から1つの理論をとりあげ、論理構成の特徴や理論家の経歴・時代背景から、理論開発の過程を分析し、実践への適用例を提示する。これらに基づき、選択した理論の実践上の意義、看護学上の意義、災害看護学構築における意義について、自身の考えを述べる。(提出期限：授業終了後3週間以内)</p>
履修上の注意・履修要件	担当課題発表の前には、複数の学生の共同作業による発表準備が必要
備考	なし

授業科目名	理論看護学Ⅱ Theories in Nursing II	必修の区分	必修
授業コード	301	開講年次	3
単位数	2	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	野嶋佐由美・藤田佐和・ 中山洋子	所属	高知県立大学
オフィスアワー・場所	メール	連絡先	nakayama@cc.u-kochi.ac.jp nojimas@cc.u-kochi.ac.jp fujita@cc.u-kochi.ac.jp
講義目的及び到達目標	<p>【講義目的】</p> <p>科学哲学および科学論、科学史等を学び、現代社会における科学と社会との関係を分析する。これらの知識を用いて、看護学および看護に関連している理論を批判的に分析する能力および看護理論の構築に向かう基本的な能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学哲学および科学論の看護への影響について理解できる。 「看護における科学とは」の問いに、自分(学生)の考えをもつことができる。 歴史をふまえながら、科学と看護(ケア)との関係について議論することができる。 看護理論を分析・評価し、その理論の特徴(大理論、中範囲理論等)を説明することができる。 看護における実践・研究・理論の関係を説明することができる。 看護で用いられる概念や自分(学生)の関心ある概念の概念分析ができる。 		
講義内容・授業計画	<p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(中山洋子／7 回)</p> <p>科学哲学および科学論、科学史等を学び、看護学における科学の考え方や現代社会における科学と社会との関係を分析する。また、看護哲学についてふりかえるとともに、看護現象の捉え方や看護実践のための哲学的基盤について検討する。</p> <p>(野嶋佐由美／4 回)</p> <p>看護理論の成り立ち、理論の基盤となる考え方、看護理論の分析・評価の方法を学ぶとともに、実践・研究・理論の関係について実際の理論構築の例をとおして学習する。</p> <p>(藤田佐和／4 回)</p> <p>概念分析の方法を学習し、看護理論で用いられている概念や学生の関心ある概念を取り上げて実際に概念分析を行う。</p> <p>15 回目には、全体をふりかえり、まとめを行う。</p>		
テキスト	特に用いない。		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・村上陽一郎, 人間にとって科学とは何か, 新潮社, 2010. ・A.F.チャルマーズ著, 高田紀代志・佐野正博訳, 新版 科学論の展開—科学と呼ばれているのは何なのか? 恒星者厚生閣, 1983. ・Polifroni, E. C. & Welch, M. Perspectives on Philosophy of Science in Nursing: An Historical and Contemporary anthology, Lippincott, 1999. 		

	<ul style="list-style-type: none"> • Fawcett, J.著, 太田喜久子・筒井真優美監訳, フォーセット看護理論の分析と評価 新改版, 医学書院, 2008. • Walker, L. O & Avant, K. C.著, 中木高夫・川崎修一訳, 看護における理論構築の方法, 医学書院, 2008. • Rodgers, B. L. & Knafl, K. A. Concept Development in Nursing: Foundations, Techniques, and Applications. Second edition. Saunders, 2000. • その他、適宜紹介する。
成績評価	クラスにおける参加度（事前学習，討論，事後学習）およびプレゼンテーション，レポートを総合して評価する。
履修上の注意・履修要件	特になし
備考	特になし

授業科目名	看護倫理 Ethics in Nursing	必修の区分	選択
授業コード	110	開講年次	1
単位数	2	期別	後期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	梅田麻希	所属	兵庫県立大学
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>【講義目的】規範倫理・応用倫理と看護倫理の関係を学び、現場で遭遇する倫理的課題について、自らの立ち位置を理解する。</p> <p>【到達目標】・倫理的課題が浮上する社会的背景について歴史や文化を踏まえ討議することができる。</p> <p>・倫理的課題が生ずる状況の中で、人それぞれの立場での価値観や意見の違いのために生ずる葛藤について、分析することが出来る。</p>		
講義内容・授業計画	<p>【学習内容】</p> <p>1) それぞれの学生自身が持つ看護倫理についての考え方を述べ、学習する基本的立ち位置を共有する。(オリエンテーションを含む)</p> <p>2-3) 規範倫理学と価値の明確化 個人／組織／社会／文化の流れ * 文献を検索しそれぞれの規範倫理学の論点を討議する。</p> <p>4-5) 応用倫理と看護倫理の歴史的流れ 生命／医学／医療／看護／個人 * 各時代の中で、応用倫理学が台頭する背景や課題について焦点を当てて討議を進める。</p> <p>6-7) 医療で用いられる倫理原則 * 各原則についてこれまでの実践で生じた文化的に異なる現象から説明し、討議する。Beneficence/Justice/Autonomy/Veracity/Fidelity</p> <p>8) 看護実践にかかわる倫理的概念の整理 Advocacy/Accountability/Responsibility/Caring/Cooperation</p> <p>9) 看護が直面する倫理問題とケース分析の方法 * 分析の方法を学び看護問題と倫理問題について討議する。</p> <p>10) 研究倫理と研究対象となる人の権利の擁護 * 科学者の倫理、看護学研究者の倫理、人を対象とした研究の倫理についてのレビューを行い、研究のそれぞれにある倫理的視点を学ぶ。</p> <p>11-15) 課題検討と発表（グループワーク・発表） * 現実的社会問題、災害時の課題など、2名ずつテーマを選択し、そのテーマに含まれる主要な倫理問題・概念について基本的考え方と最近の動向をまとめる。テーマの典型例をケース分析し、発表する。全体討議において、各学生の背景や領域を越えて共通あるいは異なる問題の捉え方について考察する。討議後各自のレポートとして提出する。</p>		
テキスト	<p>サラ T.フライ&メガン・ジェーン・ジョンストン著. 看護実践の倫理第3版 Ethics in Nursing Practice, International Council of Nurses, 2009. (翻訳版、日本看護協会出版会)</p>		
参考文献	<p>Davis, AJ; Tschudin, V.; Raeve, L. Eds. 看護倫理を教える・学ぶ-倫理教育の視点と方法- 監訳者 小西恵美子, 日本看護協会出版会, 2008. テーマ毎に検索し、最新の知見の集積を行う。</p>		
成績評価	<p>プレゼンテーション、作成された資料、レポートを総合的に評価する。</p>		

履修上の注意・履修要件	各授業の事前準備はテキスト並びに最新文献の購読を行い備える。基本的に授業はゼミ形式で行い、全体の討議で討議する。
備考	各自が集積した最新の文献リストは最終クラス全体で共有する

授業科目名	看護情報統計学 Nursing Information Statistics	必修の区分	選択
授業コード	111	開講年次	1
単位数	2	期別	後期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	緒方 泰子 ¹⁾ 徳永 伸一 ²⁾ 米倉 佑貴 ³⁾	所属	1) 東京医科歯科大学大学院 2) 東京医科歯科大学教養部 3) 聖路加国際大学大学院
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	yogata.gh@tmd.ac.jp
講義目的及び到達目標	<p>【ねらい】 災害看護の領域におけるエキスパートとしての活動に用いることができるよう、統計に関する知識や手法を学び、看護・医療および近接領域での実践・研究への応用について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 統計に関する基本的知識を学ぶ。 看護・医療および近接領域での実践・研究における統計手法の用いられ方について理解する。 統計ソフトを用いた演習を通じて、看護における実践・研究に応用できる統計解析手法を修得する。 		
講義内容・授業計画	<p>【ねらい】 統計学の基礎知識を学んだ上で、実際のデータを用いて統計解析を行い、その結果をわかりやすく第三者に伝えることを通じて、看護実践や研究に必要な統計解析の知識・技術を修得する。</p> <p>【学習内容】</p> <p>1) オリエンテーション、統計学の基礎的知識</p> <p>2-15) *統計解析の基礎、検定（差の検定など）、相関分析、分散分析、回帰分析、ロジスティック回帰分析、因子分析</p> <p>*統計学の基礎的知識について学び、統計ソフトを用いて統計解析を行う。</p>		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> テキストは随時紹介する。 SPSS : IBM SPSS Statistics Premium Grad Pack 23 (大学生協学生版) (学生自身で購入のこと。配布はしない。) 		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 佐藤敏雄・村松宰. やさしい医療系の統計学, 医歯薬出版, 2002. 木原雅子・木原正博 (翻訳). 医学的研究のデザイン -研究の質を高める疫学的アプローチ- 第3版, メディカルサイエンスインターナショナル, 2009. 丹後 俊郎著. 統計学のセンスーデザインする視点・データを見る目, 朝倉書店, 1998. 石井トク・野口恭子. 看護の倫理資料集, 丸善株式会社, 2004. 福原 俊一. リサーチ・クエスチョンの作り方, 特定非営利活動法人健康医療評価研究機構, 2008. 三輪哲・林雄亮(編著). SPSS による応用多変量解析, オーム社, 2014. 柳井晴夫・緒方裕光(編著). SPSS による統計データ解析—医学・看護学、生物学、心理学の例題による統計学入門, 現代数学社, 2006. 中山和弘. 看護学のための多変量解析入門, 医学書院, 2018. 		

成績評価	授業への参加状況・学習状況（70%）、課題レポートの内容（30%）にもとづいて行う。
履修上の注意・履修要件	受講者は各自 1 台のノート PC（計算機能を付加できる機能を有し、SPSS がインストールされていること）を準備しておくこと。
備考	授業内容や順序は、変更する場合がある。

授業科目名	保健学的・疫学的研究法 Research Methods for Public Health and Epidemiology	必修の区分	選択
授業コード	201	開講年次	2
単位数	2	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	北池 正	所属	千葉大学大学院看護学研究科
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	kitaike@faculty.chiba-u.jp
講義目的及び到達目標	【講義目的】 地域における健康問題を迅速に把握し、介入に向けての対策樹立における根拠資料を作成できる能力を獲得できることを目標とする。 【到達目標】・ 記述疫学に関する手順を理解する。 ・ 分析疫学における情報処理を理解する。 ・ 人口統計や保健統計の活用法を理解する。		
講義内容・授業計画	【ねらい】 保健学・疫学の基礎的事項を理解した上で、地域での活用に向けての実践につながる能力を獲得する。 【学習内容】 1)疫学概論 2)疫学指標 3)疫学研究方法 1（記述疫学） 4)疫学研究方法 2（分析疫学） 5)偏りと交絡 6)因果関係 7)疫学研究と倫理 8)保健統計 9)傷病統計 10)疾病登録とサーベイランス 11)スクリーニング 12)感染症の疫学 13)がんの疫学 14)循環器疾患の疫学 15)健康の疫学		
テキスト	はじめて学ぶやさしい疫学（改訂第 2 版）日本疫学会監修 南江堂（2010 年）		
参考文献	講義の中で適宜紹介する。		
成績評価	クラス参加度、レポートを総合的に評価する。		
履修上の注意・履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業科目名	看護研究方法論Ⅰ (国際比較研究) Nursing Research MethodsⅠ (International)	必修の区分	選択																											
授業コード	202	開講年次	2																											
単位数	1	期別	前期																											
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業																											
講師名	近藤 暁子 ¹⁾ 中村 桂子 ¹⁾ 杉本 敬子 ²⁾ Ezeonwu, MC ³⁾	所属	1) 東京医科歯科大学 2) 筑波大学 3) ワシントン大学																											
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	akondo.ind@tmd.ac.jp																											
講義目的及び到達目標	国際比較に有用な看護・保健領域のデータベースについて幅広く考えを深めるとともに、国際比較研究の提案、調査計画の調整、フィールド調査を含めた方法論、比較分析法、考察および結論の作成について概観する。 看護および近接領域の国際比較研究について複数例を取り上げ、比較分析し、国際比較研究として価値あるテーマの創出について議論する。																													
講義内容・授業計画	<div>1 世界の健康・保健・医療に関わるデータベースの特徴と分析視点について理解を深める。国際比較研究方法論（フィールド調査の実際、量的・質的研究）の概要について学ぶ</div> <div>2 国際比較研究の実際例の提示と分析、看護問題の抽出と概念化、尺度使用・比較分析視点の決定、考察における洗練方法：日本と海外との比較</div> <div>3 国際比較研究のクリティーク方法</div> <div>4 医療経済についての国際比較の方法と意義</div> <table><tr><td></td><td>内容</td><td>担当者</td></tr><tr><td>1</td><td>国際比較研究の紹介</td><td>近藤 暁子</td></tr><tr><td>2</td><td>国際比較研究論文講読</td><td>近藤 暁子</td></tr><tr><td>3</td><td>国際比較研究の意義 1</td><td>杉本 敬子</td></tr><tr><td>4</td><td>国際比較研究論文の クリティーク</td><td>近藤 暁子</td></tr><tr><td>5</td><td>国際比較研究の意義 2</td><td>中村 桂子</td></tr><tr><td>6</td><td>国際比較研究論文の クリティーク</td><td>近藤 暁子</td></tr><tr><td>7</td><td>Example of international study (qualitative study)</td><td>Ezeonwu, MC</td></tr><tr><td>8</td><td>最終課題プレゼンテーション</td><td>近藤 暁子</td></tr></table>				内容	担当者	1	国際比較研究の紹介	近藤 暁子	2	国際比較研究論文講読	近藤 暁子	3	国際比較研究の意義 1	杉本 敬子	4	国際比較研究論文の クリティーク	近藤 暁子	5	国際比較研究の意義 2	中村 桂子	6	国際比較研究論文の クリティーク	近藤 暁子	7	Example of international study (qualitative study)	Ezeonwu, MC	8	最終課題プレゼンテーション	近藤 暁子
	内容	担当者																												
1	国際比較研究の紹介	近藤 暁子																												
2	国際比較研究論文講読	近藤 暁子																												
3	国際比較研究の意義 1	杉本 敬子																												
4	国際比較研究論文の クリティーク	近藤 暁子																												
5	国際比較研究の意義 2	中村 桂子																												
6	国際比較研究論文の クリティーク	近藤 暁子																												
7	Example of international study (qualitative study)	Ezeonwu, MC																												
8	最終課題プレゼンテーション	近藤 暁子																												
テキスト	使用しない																													
参考文献	随時提示																													
成績評価	ディスカッションへの参加 20% 資料作成・プレゼンテーション 40% 最終課題 40% 最終課題 【自分が行ってみたい国際比較研究のテーマとその意義及び方法の概要】																													

履修上の注意・履修要件	講義・ディスカッションは原則としてすべて英語で実施する。 ディスカッションに必要な英会話能力及び英文作成能力があることが 必要である。
備考	授業の順番、内容は変更になることがある。

授業科目名	看護研究方法論Ⅱ（エスノグラフィー） Nursing Research Methods Ⅱ (Ethnography)	必修の区分	選択
授業コード	112	開講年次	1
単位数	1	期別	後期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	筒井 真優美	所属	日本赤十字看護大学看護学研究科
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	tsutsui@redcross.ac.jp
講義目的及び到達目標	<p>【講義目的】 看護学における研究の意味、質的研究の世界観、エスノグラフィー、民族看護学の研究方法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護学におけるエスノグラフィー、民族看護学の位置づけと研究方法を理解する。 フィールドの文化を理解し、フィールドワークにあたっての準備をすることが出来る。 目的にあったフィールドワークを実施することが出来る。 		
講義内容・授業計画	<p>【ねらい】 看護研究におけるエスノグラフィー、民族看護学を理解し、フィールドワークを実施するための準備、方法を検討したうえで、フィールドワークを実施するとともにその課題を明らかにする。</p> <p>【講義内容・計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学における看護研究の位置づけ、質的研究・量的研究の世界観、エスノグラフィーおよび民族看護学の歴史・研究方法・倫理的課題など 2. フィールドワークを実施 3. フィールドノーツの分析および課題の討議 4. // 5. フィールドワークを実施 6. フィールドノーツの分析および課題の討議 7. // 8. エスノグラフィー、民族看護学のまとめ、課題などの討議 <p>実際にフィールドワークを実施し、フィールドノーツを書き、目的に合わせた分析を行い、課題などをクラスで討議する。</p>		
テキスト	<p>Emerson, R., Fretz, R., & Shaw, L. (1995)/佐藤郁哉・好井裕明・山田富秋訳(1998). 方法としてのフィールドノート. 新曜社.</p> <p>Leininger, M. M.(1992)/稲岡文昭監訳(1995). レイニンガー看護論. 医学書院.</p>		
参考文献	<p>Bogdan, R. C. & Biklen, S. K. (2006). Qualitative research for education: An introduction to theory and methods (5th ed.). Boston, MA: Allyn & Bacon. Inc.</p> <p>Burns, N. & Grove, S. K.(2005). The practice of nursing research (5th ed.). Philadelphia, PA: W. B. Saunders Company.</p> <p>Denzin, N. K. & Lincoln, Y. S. (2005). The SAGE handbook of qualitative research(3rd ed.). Thousand Oaks, CA: SAGE.</p> <p>Flick, U. (1995)/小田博志・山本則子・春日常・宮地尚子(2002). 質的研究入門. 春秋社.</p>		

	<p>Gubrium, J. F. & Holstein, J. A. (2001). Handbook of interview research: Context & method. Thousand Oaks, CA: SAGE.</p> <p>Hinshaw, A. S., Feetham, S. L., & Shaver, J. L. F. (1999). Handbook of clinical nursing research. Thousand Oaks, CA: SAGE.</p> <p>Leininger, M. M. (Ed.). (1992). Culture care diversity & universality: A theory of nursing. New York: National League for Nursing press.</p> <p>Lincoln, Y. S. & Guba, E. G. (1985). Naturalistic inquiry. Newbury Park, CA: Sage.</p> <p>箕浦康子(1999). フィールドワークの技法と実際. ミネルヴァ書房.</p> <p>宮本勝・清水芳見(1999). 文化人類学講義. 八千代出版.</p> <p>Munhall, P. L. (2007). Nursing research: A qualitative perspective (4th ed.). Sudbury, MA: Jones & Bartlett Publishers.</p> <p>佐藤郁哉(1992). フィールドワーク. 新曜社.</p> <p>柴山真琴(2006). 子どもエスノグラフィー入門. 新曜社.</p> <p>Streubert, H. J. & Carpenter, D. R. (2011). Qualitative research in nursing(5th ed.). Philadelphia, PA: Lippincott.</p> <p>やまだようこ(2000). 人生を物語るー生成のライフストーリー. ミネルヴァ書房.</p> <p>やまだようこ(2007). 質的心理学の研究ー語りをきくー. 新曜社.</p>
成績評価	クラスの参加度 50%、プレゼンテーション 50%
履修上の注意・履修要件	なし
備考	なし

授業科目名	看護研究方法論Ⅲ(ケーススタディ・アクションリサーチ) Nursing Research Methods Ⅲ (Case Studies & Action Research)	必修の区分	選択
授業コード	203	開講年次	2
単位数	1	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	岩崎 弥生 吉本 照子	所属	千葉大学大学院看護学研究科
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	yiwasaki@faculty.chiba-u.jp yoshimt@faculty.chiba-u.jp
講義目的及び到達目標	<p>【講義目的】 集団やコミュニティ、出来事を事例として、その生活過程や現象について社会文化的背景や現象を取り巻く状況との関連から読み解く事例研究のアプローチについて基本的な知識と技術を学ぶ。また、臨床現場や地域の問題・課題の発見から改善策の計画・実施、効果の検証、新たな改善策への発展に向けて、当事者参加型のアクションリサーチを計画・実施する知識と技術を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① ケーススタディの目的、方法、特徴を理解する。</p> <p>② ケーススタディの意義と限界を理解する。</p> <p>③ アクションリサーチが創出された背景、目的、特徴、多様な類型、研究リーダーの役割と行動、知見の創出と論述方法について、理解する。</p>		
講義内容・授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の学習目標の設定： 各自、これまでの学習と研究に関する成果を統合し、本授業における目標を設定する。 2. 研究方法としてのケーススタディの目的、方法、特徴： ケーススタディ研究の目的、方法、特徴に関する事前学習をもとに、それらについて討議する。また、ケーススタディにおいて必要となる倫理的配慮、研究者の責任等について討議する。 3. ケーススタディの意義と限界①： 災害に関連するケーススタディ（英文献が望ましい）を事前に読み、授業では、各ケーススタディの目的、方法、知見を比較・検討する。また、ケーススタディから得られた知見の一般化の方法やケーススタディにおける信頼性と妥当性について討議する。 4. ケーススタディの意義と限界②： 災害に関連するケーススタディ（英文献が望ましい）を事前に読み、当該研究の強みと弱点を検討し、今後どのような研究に発展させていくことができるか討議する。 5. アクションリサーチの発展過程、特徴、目的、多様なアクションリサーチの考え方と方法： テキスト及び参考文献をもとに事前学習し、授業において討議し、理解を深める。 6. アクションリサーチにおける研究リーダーの役割と行動： 5と同様に行う。 		

	<p>7. アクションリサーチによる知見の創出と論述方法 各自の専門分野及び立場にそって先行文献を選択して研究内容を発表し、得られた知見と災害看護への示唆について討議する。</p> <p>8. アクションリサーチの立案 自分の関心を探究し知見を得るためのアクションリサーチを企画する。</p>
テキスト	<p>Yin, R.K. (2013). Case study research: Design and methods (5th ed.). Sage. 翻訳版：ロバート K イン (2011) ケース・スタディの方法 (第 2 版). 千倉書房.</p> <p>Stringer, Ernest T. (2013). Action Research (4th ed.). Sage. 翻訳版：E. T. ストリンガー (2012). アクション・リサーチ (3rd ed. 目黒輝美, 磯部卓三, 監訳). フィリア.</p>
参考文献	<p>【ケーススタディ】</p> <p>大谷順子 (2006) 事例研究の革新的方法：阪神大震災被災高齢者の五年と高齢化社会の未来像. 九州大学出版会.</p> <p>南博文 (2001) まちの変化と N さんの生活世界. やまだようこ・サトウタツヤ・南博文 (編) カタログ現場心理学—表現の冒険 (pp. 140-147). 金子書房.</p> <p>箕浦康子 (1999) フィールドワークの技法と実際：マイクロエスノグラフィ入門. ミネルヴァ書房.</p> <p>【アクションリサーチ】</p> <p>Kiefer, Christie W. (2010). 文化と看護のアクションリサーチ：保健医療への人類学的アプローチ (木下康仁, 訳). 医学書院.</p> <p>筒井真優美 (2010). アクションリサーチ入門—看護研究の新たなステージへ. ライフサポート社.</p> <p>矢守克也 (2010) アクションリサーチ—実践する人間科学. 新曜社.</p> <p>矢守克也 (2009) 防災人間科学. 東京大学出版会.</p>
成績評価	クラス参加度、プレゼンテーション、レポートを総合的に評価する。
履修上の注意・履修要件	なし
備考	<p>下記のレポート課題を二つ出す。詳細は初回授業で提示する。</p> <p>1) ケーススタディの手法を用いた先行研究を簡潔に紹介（目的、方法、結果）し、当該研究の意義、強みと限界を批評の上、今後どのような研究に発展させていくことができるか、レポートにまとめる（目的と方法、根拠を含める）。</p> <p>2) 自分の関心事に関するアクションリサーチの企画書（目的、方法、期待される成果）を作成する。</p>

授業科目名	看護研究方法論Ⅳ (グランデッドセオリー) Nursing Research Methods IV (Grounded Theory)	必修の区分	選択
授業コード	113	開講年次	1
単位数	1	期別	後期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	佐々木 吉子 萱間 真美	所属	東京医科歯科大学 聖路加国際大学
オフィスアワー・場所	アポイントメント(随時)	連絡先	y-sasaki.dn@tmd.ac.jp
講義目的及び到達目標	<p><u>授業目的</u> グランデッドセオリーの哲学的基盤と分析手法の変遷について理解したうえで、その方法論を応用する質的記述的研究方法について学び、自身の研究に活用できる能力を習得する。</p> <p><u>到達目標</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グランデッドセオリーの哲学的基盤と手法の変遷について理解できる。 ・ グランデッドセオリーの方法論を応用する質的記述的研究方法の特徴が理解できる。 ・ グランデッドセオリー法を含む質的記述的研究方法による基礎的な分析手順について理解できる。 ・ グランデッドセオリー・アプローチにより実施された研究論文をクリティックし、自身の研究への応用可能性について考えることができる。 		
講義内容・授業計画	<p>1) ガイダンス：授業科目の概要、グランデッドセオリーの哲学的基盤と手法の変遷(佐々木)</p> <p>2)-3) グランデッドセオリーを背景とする質的記述的研究方法の概要と分析手法(萱間)</p> <p>4)-6) 質的記述的研究方法による分析ワーク(佐々木)</p> <p>7)-8) グランデッドセオリー・アプローチ法による研究論文のクリティックと研究知見の応用についてのディスカッション(佐々木)</p>		
テキスト	特に指定しない		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ Beck, C.T. Ed. (2013) Routledge International Handbook of Qualitative Nursing Research, Routledge. ・ Corbin, J. & Strauss, A. (2015) Basics of Qualitative Research: Techniques and Procedures for Developing Grounded Theory Approach, 4th ed., SAGE. ・ Charmaz, K. (2014) Constructing Grounded Theory 2nd ed., SAGE ・ 萱間真美.(2007) 質的研究実践ノート, 医学書院 		
成績評価	授業参加度 60%、課題 40%		
履修上の注意・履修要件	事前学習、事前課題等はその都度連絡する。		
備考	授業の内容や順序は変更することがある。		

授業科目名	看護研究方法論Ⅴ (現象学的研究方法) Nursing Research Methods Ⅴ (Phenomenology)	必修の区分	選択
授業コード	114	開講年次	1
単位数	1	期別	後期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	中山洋子, 吉川 孝	所属	高知県立大学
オフィスアワー・場所	メール	連絡先	nakayama@cc.u-kochi.ac.jp yosikawa@cc.u-kochi.ac.jp
講義目的及び到達目標	<p>【講義目的】現象学の歴史的・哲学的潮流、現象学の基本的な前提を理解し、そのうえで、現象把握の方法、看護学研究方法としての現象学的研究方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現象学の哲学的な基盤について理解することができる。 ・現象学を基盤とした現象の捉え方、物の見方、考え方を理解することができる。 ・研究課題と現象学的研究方法との関連を理解することができる。 ・現象学的研究方法を用いた研究論文を Critique することができる。 		
講義内容・授業計画	<p>【第1回～第3回】(吉川 孝)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 歴史的・哲学的潮流からみた現象学の位置づけ 2) 「現象学とは何か」という現象学の哲学的な基盤 3) 現象学の動向と学派によるものの見方、考え方の違い <p>【第4回～第6回】(中山洋子)</p> <ol style="list-style-type: none"> 4) 看護学における質的研究方法としての現象学の位置づけ 5) 看護学研究方法としての現象学的アプローチ 6) 研究課題と現象学的研究方法(研究デザイン)の選択 <p>【第7回・第8回】(中山洋子・吉川 孝)</p> <p>現象学的方法を用いた研究の Critique の方法とその実際</p>		
テキスト	テキストは用いないが、事前学習のための文献を提示する。		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・木田 元, 現象学, 岩波書店, 1970. ・植村玄輝他著、ワードマップ現代現象学、新曜社, 2017. ・Zahavi, D. 著, 工藤和男他訳, フッサールの現象学, 晃洋書房, 2003. ・Spiegelberg, H. 著, 立松弘孝訳, 現象学運動 上・下, 世界書院, 2000. ・Benner, P. & Wrubel, J. 著, 難波卓志訳: 現象学的人間論と看護, 医学書院, 1999. ・Benner, P. Tanner, C. & Chesla, C. 著, 早野 ZITO 真佐子訳: ベナー看護実践における専門性: 達人になるための思考と行動, 医学書院, 2015. ・Giorgi, A. 著, 吉田章宏 訳: 心理学における現象学的アプローチ: 理論・歴史・方法・実践, 新曜社, 2013. ・Benner, P. 他著, 相良 - ローゼマイヤーみはる, 他訳, 解釈的現象学: 健康と病気における身体性・ケアリング・倫理, 医歯薬出版, 2006. ・Cohen, M. Z. 他著, 大久保功子訳, 解釈学的現象学による看護研究: イ 		

	<p>ンタビュー事例を用いた実践ガイド, 日本看護協会出版会, 2005. ・グレッグ美鈴他編著, よくわかる質的研究の進め方・まとめ方: 看護研究のエキスパートをめざして医歯薬出版株式会社, 2007.</p> <p>・ Langdridge, D. 著, 田中彰吾ほか訳, 現象学的心理学への招待: 理論から具体的技法まで, 新曜社, 2016.</p>
成績評価	クラス参加度、プレゼンテーション、レポートを総合的に評価する。
履修上の注意・履修要件	事前学習の課題を提示し、授業では討論を中心に展開していく。
備考	特になし

授業科目名	看護研究方法論Ⅵ(介入研究・尺度開発含) Nursing Research Methods Ⅵ (Intervention Research and Development of Scale)	必修の区分	選択
授業コード	204	開講年次	2
単位数	1	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	高木 廣文	所属	兵庫県立大学看護学研究科 非常勤講師
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	halwin@nifty.com
講義目的及び到達目標	<p>【講義目的】 健康問題と関連すると考えられる要因に対して看護介入を行い、その有効性を検証するための研究方法を学ぶ。さらに、看護介入の効果を客観的に測定するための適切な尺度の構成方法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定の健康問題への看護介入の研究方法を理解する。 ・ 特定の看護介入の効果を検証するための統計学的方法を理解する。 ・ 尺度構成法の基礎となる統計学的方法を理解する。 ・ 概念分析から尺度構成に至る諸問題を理解し尺度開発を行える。 		
講義内容・授業計画	<p>【ねらい】 特定の健康問題の解決のための看護介入の研究計画を科学的に立案し、その効果判定のための尺度開発、および統計学的方法を適切に使用できる能力を養う。</p> <p>【学習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 統計学的標本調査と介入研究 2) 正しい因果推論と研究計画 3) 介入研究における統計学的方法 4) 研究で必要な標本数 5) 尺度開発のための多変量解析の基礎 1 6) 尺度開発のための多変量解析の基礎 2 7) 尺度構成法の基礎 8) 尺度構成法の諸問題 		
テキスト	とくに指定しないが、必要な資料は講義時に配付する。		
参考文献	<p>高木廣文・林邦彦．エビデンスのための看護研究の読み方・進め方、中山書店、2006.</p> <p>高木廣文．ナースのための統計学 第2版、医学書院、2009.</p> <p>D.F.ポーリット&C.T.ベック．看護研究 原理と方法 第2版、近藤潤子監訳、医学書院、2010.</p>		
成績評価	クラス参加度、プレゼンテーション、レポートを総合的に評価する。		
履修上の注意・履修要件	授業で数式が頻出するがそれにとらわれずに、考え方や論理展開に注意を払うこと。		
備考	なし		

授業科目名	危機管理論 Crisis Management Theory	必修の区分	選択必修
授業コード	205	開講年次	2
単位数	2	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	木村玲欧	所属	兵庫県立大学
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	rkimura@shse.u-hyogo.ac.jp
講義目的及び到達目標	<p>【講義目的】危機および危機管理の基本理論を学び、危機管理の観点から、災害時の災害対応・危機管理課題について、日本で発生した災害の実例を通して学習する。</p> <p>【到達目標】危機および危機管理の基本及び根底となる考え方について理解し、社会的な危機である災害の全体像を俯瞰し、本質を見抜き、危機を克服する仕組みを提言できる。</p>		
講義内容・授業計画	<p>【ねらい】</p> <p>災害時の危機管理課題に焦点をあて、危機管理体制のあり方と対策、標準的な危機管理のプロセスと方法を学び、災害の経験と教訓の蓄積、実際の適用方法を習得し、危機管理を成功させる実践的能力を涵養する。</p> <p>【学習内容】</p> <p>危機管理の観点から危機の基本理論を学び、社会的な危機である災害に焦点をあて、災害時の危機管理課題を、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震・中越沖地震、東日本大震災などの実例を踏まえながら学ぶ。また学んだ危機管理課題をもとに、災害時の危機管理体制のあり方とその構築、危機管理のプロセスと方法・行動指針の策定方法について学ぶ。特に標準的な危機管理体制・プロセスである ICS (Incident Command System) の仕組みおよび、災害・危機対応における世界標準である ISO22320 と日本版に翻訳した JIS Q 22320 (社会セキュリティ-緊急事態管理-危機対応に関する要求事項)などを学び、災害場面における適用方法と課題を考える。</p>		
テキスト	<p>林春男他、組織の危機管理入門ーリスクにどう立ち向えばいいのか、丸善、2008</p> <p>木村玲欧、災害・防災の心理学ー教訓を未来につなぐ防災教育の最前線、北樹出版、2015</p>		
参考文献	なし		
成績評価	クラス参加度、プレゼンテーション、レポートを総合的に評価する。		
履修上の注意・履修要件	なし		
備考	なし		

授業科目名	環境防災学 Environmental Disaster Studies	必修の区分	選択必修
授業コード	115	開講年次	1
単位数	2	期別	後期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	近藤昭彦 大村 誠	所属	千葉大学 高知県立大学
オフィスワーカー・場所	随時アポイントメント	連絡先	kondoh@faculty.chiba-u.jp omura@cc.u-kochi.ac.jp
講義目的及び到達目標	<p>【講義目的】地球科学に関する幅広い知識を利用して、地域における開発・保全・防災・環境問題に取り組むための学術的基礎素養と、多様な場における問題解決に応用できる基礎的能力を身につける。</p> <p>【到達目標】災害発生と自然・都市環境との関連を学び、地域減災の方法、災害からの復興計画の考え方や実践の方法について提案できる。</p>		
講義内容・授業計画	<p>【ねらい】 主に自然災害を中心に、災害を引き起こす外力であるハザードの性質を理解し、それを災害（ディザスター）にしないための経験的知識を習得する。</p> <p>【学習内容】 （近藤昭彦／8回）地震、豪雨等のハザードと地域ごとに異なる土地の性質（素因）に関する基礎的知識に基づき、災害の発生機構を理解することにより、発災時の行動のあり方、復興計画に対する指針、平穏時における備え、等について過去の災害事例に基づき講義を行う。</p> <p>（大村誠／7回）前半の学習内容を背景に、近未来に災害看護が直面する自然災害の事例として、おもに都市環境に着目し、「流れ」が引き起こす水害・土砂災害・津波災害、地震の揺れが引き起こす構造物の破壊・火災・地盤災害などの事例を学ぶ。さらに、それらが複合的に発生する南海トラフ巨大地震に対して、少子高齢化が進む社会での対応を考察する。</p>		
テキスト	必要に応じて WEB で資料を公開。		
参考文献	<p>（近藤）水谷武司. 自然災害の予測と対策-地形・地盤条件を基軸として-、朝倉書店、2012.</p> <p>（大村）鎌田浩毅（監修・著）. せまりくる「天災」とどう向き合うか、ミネルヴァ書房、2015.</p>		
成績評価	授業参加度、レポートを総合的に評価する。		
履修上の注意・履修要件	なし		
備考	なし		

授業科目名	グローバルヘルスと政策 Global Health and Policy-making	必修の区分	選択必修
授業コード	211	開講年次	2
単位数	2	期別	後期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	駒形 朋子 ¹⁾ ・藤原 武男 ¹⁾ 深堀 浩樹 ²⁾ 新福 洋子 ³⁾ 井筒 節 ⁴⁾ 川添 高志 ⁵⁾ 錦織 信幸 ⁶⁾	所属	1) 東京医科歯科大学 2) 前東京医科歯科大学 3) 京都大学 4) 東京大学 5) ケアプロ株式会社 6) WHO 本部
オフィスアワー・場所	メール	連絡先	komadn@tmd.ac.jp
講義目的及び到達目標	<p>講義目的 グローバルヘルスに関連する組織・制度および政策決定プロセスを理解する。 さらに、グローバルヘルス課題を整理し、解決策を提示する能力を習得する。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバルヘルスに関連する組織・制度・政策および政策の決定プロセスを理解できる。 ・グローバルヘルスに関連する制度・政策上の課題や問題点を整理し、解決のための戦略を立案することができる。 ・グローバルヘルスに関連する課題の解決に向けた自らの考えを他者に伝えることができる。 ・グローバルヘルスに関連する課題に対して、自身が将来どのように関与していきたいかを明言できる。 		
講義内容・授業計画	<p>【学習内容】</p> <p>1) ガイダンス・看護政策学概論①（駒形・深堀） 2) 看護政策学概論②（深堀） 3・4) グローバルヘルスにおける看護職の役割（新福） 5・6) グローバルな健康課題解決の方法：社会疫学概論（藤原） 7・8) グローバルヘルスに関する政策過程（井筒） 9) グローバルな健康課題解決の方法：訪問看護の展開（川添） 10・11) グローバルな健康課題解決の方法：国際機関の役割（錦織） 12) 医療・看護政策提言の実践（選定中、駒形） 13) 政策過程演習（駒形） グループワークにて以下の演習を行う。 ①課題の明確化：現在のグローバルヘルス課題・問題点のうち、グループで関心の高いものを選定し、現状の分析等から課題を明確にする。 ②解決に向けた戦略の検討：明確になった課題を取り巻く状況を分析し、解決に向けた戦略を立案する。 ③プレゼンテーションの準備 明確にした課題、課題を取り巻く環境、および解決に向けた戦略を聴衆に効果的に伝えるためのプレゼンテーションを準備する。 14) 政策過程演習プレゼンテーション（新福、駒形）</p>		

	<p>13) の成果を原則英語でプレゼンテーションする。</p> <p>15) 政策形成の実際（選定中、駒形）</p> <p>実際に政策形成に携わる看護系の国会議員等を訪問し、政策形成やリーダーシップに関するディスカッションを行う予定である。</p> <p>注）非常勤講師の予定に併せて日程調整を行うため講義の順序は変更される予定である。</p>
テキスト	必須テキストは指定しない
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・私の仕事（緒方貞子、2017） ・危機の現場に立つ（中満泉、2017） ・社会疫学 上・下（イチロー・カワチ、2017） ・日本の医療 制度と政策（島崎謙治、2011） ・看護職者のための政策過程入門 第2版（見藤隆子ほか、2017）
成績評価	<p>講義への参加姿勢（30%）</p> <p>プレゼンテーション内容と取り組み（30%）</p> <p>第15回のディスカッションの内容（10%）</p> <p>講義終了後のレポート（30%）</p>
履修上の注意・履修要件	<p>講師の都合による日程変更および授業形態の変更（集合授業）となる可能性がある。変更によって講義参加が難しくなった場合は、その都度、代替措置を検討する。</p>
備考	特になし

授業科目名	専門職連携実践論 Professional Collaboration and Practice Theory	必修の区分	選択必修
授業コード	103	開講年次	1
単位数	2	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	酒井 郁子	所属	千葉大学大学院看護学研究科
オフィスアワー・場所	火曜日 I, II 限	連絡先	ikusakai@faculty.chiba-u.jp
講義目的及び到達目標	<p>【講義目的】組織の協働的实践の方略、課題、解決法などについて比較検討でき改善するための基本的知識技術を理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ IPE に価値を置き、他職種の意見や見方を尊重する態度を理解する ・ 各専門職の役割と関係、協働を促進している状況について国レベルから地域レベルまで理解できる。 ・ 協働を改善するための戦略や理論モデルを理解できる ・ 他職種、自組織において改善の必要性がある協働実践を判別し、改善策を企画実施するためのスキルを理解する。 ・ 多機関との連携協働に関する知識、および目的に応じた実行および評価のためのスキルを理解する 		
講義内容・授業計画	<p>【ねらい】</p> <p>IPW に関連する概念と類型、理論枠組みを概説する。また IPW の改善を目指した教育的介入、実践介入、組織管理について論述し、チームパフォーマンスの評価方法について概観する。</p> <p>【学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション、IP 実践能力を理解する。(1-4 回) ・ IPE の歴史、必要となった背景、これから解決すべき社会的課題、IP 実践能力の獲得過程などについて、自己学習および講義をもとに討議する。 ・ 協働実践を改善するための態度と知識を理解する。(5-10 回) ・ チームビルディング、組織開発、組織間連携、コミュニケーション、倫理的態度、プロフェッショナリズムに関する自己学習および講義をもとに討議する。 ・ 他職種と協働してサービス改善を行うための知識、理論、戦略を理解する。(11-15 回) ・ 講義をもとに自己の IPW 実践事例を分析、評価し、討議する。 		
テキスト	講義開始前に文献リストを提示する。		
参考文献	講義開始前に文献リストを提示する。		
成績評価	授業への参加 60%(自己学習をもとに積極的に発言することを評価する)。最終レポート 40%(レポート課題：自己の専門職連携実践能力の自己評価と今後の課題)		
履修上の注意・履修要件	災害時 IP 演習の履修希望者は本科目を履修することが望ましい。		
備考	特になし		

授業科目名	災害医療学 Disaster Medical Sciences	必修の区分	選択必修
授業コード	104	開講年次	1
単位数	2	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	田村由美 小原 真理子 丸山 嘉一 林 宗博 上田 耕蔵 小淵 岳恒	所属	日本赤十字看護大学看護学研究科 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師
オフィスアワー・場所	右記メールアドレスに連絡	連絡先	田村由美 y-tamura@redcross.ac.jp
講義目的及び到達目標	<p>【講義目的】</p> <p>災害医療活動に取り組むための医学的基礎素養と、多様な災害現場の災害医療体制の立ち上げに応用できる基礎的能力について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害医療学と災害看護学との関連、活動上の連携について理解する。 2. 災害の種類、災害サイクル、災害現場に伴う医療活動に必要な知識について説明できる。 3. 災害医療コーディネーターの役割について理解し、看護コーディネーターのあり方を構築する。 4. 災害時の外傷の病態や治療の基本について理解する。 5. 被曝医療の病態や治療の基本、患者対応、看護のあり方について理解する。 6. 災害関連死の背景と病態、予防対策について理解する。 		
講義内容・授業計画	<p>【ねらい】</p> <p>既に有している災害医療活動に関する基礎的知識をさらに深め、災害医療活動の場面で、看護の視点からリーダーとして役割を行使できるように実践的能力を養う。</p> <p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害医療学の授業展開オリエンテーション（田村）、大規模災害の医療支援活動を通しての課題と対策（小原①） 2. 災害医療活動現場の特徴とその構造（丸山①） 3. 災害種類別の疾病構造、サイクル及び災害現場に伴う疾病構造（丸山②） 4. 医療対応である災害医療の3T、3Tを支えるCSCAの仕組み（丸山③） 5. 災害医療コーディネーターの役割と課題（丸山④） 6. シミュレーション：局所災害と大規模災害におけるCSCA3Tによる医療対応（丸山⑤） 7. 災害時における危機的疾患と救急外科的対応Ⅰ（林①） 8. 災害時における危機的疾患と救急外科的対応Ⅱ（林②） 9. 被災地における巡回診療による医療ニーズの発見と対応（林③） 10. 災害時のフィジカルアセスメント：START方式、医療トリアージ、搬送トリアージ、シミュレーションによる優先度の検討（小原②） 		

	11. 被曝医療の概念と基本、東日本大震災における活動、住民対応（小淵①） 12. 急性期の被曝医療における看護のあり方（小淵②） 13. 災害関連死とは、法律上の意味、阪神淡路大震災と東日本大震災との比較（上田①） 14. 災害関連死のメカニズム：避難生活との関連、避難所と自宅避難の違い（上田②） 15. 災害関連死の予防、看護・介護との連携（上田③）
テキスト	事前に授業関連の資料を配布する予定。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災 石巻災害医療の全記録：石井正，ブルーバックス，2012. 第3版 MIMMS 大事故災害への医療対応：MIMMS 日本委員会訳，永井書店，2012. 災害医学：山本保博等，NPO 災害人道医療支援会，2011. War Surgery:ICRC,2011. Nuclear, Chemical,and Biological Terrorism,Emergency Response And Public Protection:Mark E.Byrness, etc.,Lewis Publishers. 基礎からわかる被曝医療ガイド：箱崎幸也等，日経メディカル開発，2011. 低線量・内部被曝の危険性：編医療問題研究会，プライム，2011. 東日本大震災 医療と介護に何が起こったのか／震災関連死を減らすために：上田耕蔵，萌文社，2012. お前らはよ逃げてくれ、阪神淡路大震災 神戸医療生協の活動記録：神戸医療生活協同組合編（ネット上で公開）
成績評価	各講師から出題される筆記試験、または課題レポート、授業への参加態度等で総合的に評価する。
履修上の注意・履修要件	<ul style="list-style-type: none"> オムニバス授業であるが、各授業内容の特性と共に、災害医療学の全体像を捉える。シミュレーションや演習に積極的に参加する。
備考	<ul style="list-style-type: none"> 災害医療活動に関連する実話の著書を数冊読破し、授業に望む。 日頃から、災害について新聞やホームページ、TV等を通して、被害の大きさ、被災者、医療救護活動の実際について、情報収集を得ておく。 講師の都合上、授業の曜日が変更することがあるので留意すること。

授業科目名	災害情報学 Disaster Information Science	必修の区分	選択必修
授業コード	105	開講年次	1
単位数	2	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	相河 聡	所属	兵庫県立大学工学研究科
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	aikawa@eng.u-hyogo.ac.jp
講義目的及び到達目標	<p>【講義目的】 人間社会における情報・コミュニケーションの意味や役割と災害時におけるそのあり方、および ICT（情報通信技術）の基礎を学習する。</p> <p>【到達目標】・情報・コミュニケーションの意味について理解する。</p> <p>・情報伝達の問題点から災害時における情報伝達・通信手段について考察できる。</p> <p>・ICT 技術を用いた通信手段に関する知識を身に付け、災害時における情報伝達の方法について検討できる。</p>		
講義内容・授業計画	<p>【ねらい】 人間社会における情報の意味と伝達手段のもつ課題を理解し、災害時などの困難な状況においても情報通信システムを使いこなす能力をみにつける。</p> <p>【学習内容】</p> <p># 0 1 : 導入、コミュニケーションとは</p> <p># 0 2 : 情報・コミュニケーションのモデル</p> <p># 0 3 : コミュニケーション・意志疎通・規約に関する討論</p> <p># 0 4 : 心の階層と領域モデル</p> <p># 0 5 : 心の階層と領域モデルに関する討論</p> <p># 0 6 : 簡便な判断（情報量が少ない場合の判断基準）</p> <p># 0 7 : 簡便な判断に関する討論</p> <p># 0 8 : メタメッセージ・安全安心・災害時の情報伝達</p> <p># 0 9 : メタメッセージに関する討論</p> <p># 1 0 : 情報伝達とメディア・放送法</p> <p># 1 1 : 情報操作に関する討論</p> <p># 1 2 : ICT 技術</p> <p># 1 3 : 医療情報工学(1)</p> <p># 1 4 : 医療情報工学(2)</p> <p># 1 5 : 総括討論</p>		
テキスト	なし		
参考文献	<p>・西垣通著『基礎情報学』NTT 出版, 2004</p> <p>・矢守克也著『巨大災害のリスクコミュニケーション』ミネルヴァ書房, 2013</p> <p>・船津衛著『コミュニケーション入門・改訂版』有斐閣アルマ, 2010</p> <p>・西澤真理子著『リスクコミュニケーション』エネギ・フォーラム新書, 2013</p> <p>・ロバート・チャルティニー著『影響力の武器』誠信書房, 1991</p>		
成績評価	クラス参加度、レポートを総合的に評価する。		
履修上の注意・履修要件	なし		
備考	なし		

授業科目名	災害心理学 Disaster Psychology	必修の区分	選択必修
授業コード	106	開講年次	1
単位数	2	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	土田 昭司	所属	兵庫県立大学非常勤講師
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	tsuchida@kansai-u.ac.jp
講義目的及び到達目標	<p>【講義目的】緊急事態や災害を体験した人々に見られる心理的反応と行動の特徴を知ると同時に、これらに基づき災害への備えや対応を含む方略を考える。</p> <p>【到達目標】・自然災害や事故などの緊急事態・災害に遭遇したときの人間の心理と行動を正しく理解できる。</p> <p>・緊急事態・災害に備える心理として、災害をリスクとみる視点を獲得する。</p> <p>・緊急事態・災害時の具体事例について自らが検討し理解を深める。</p>		
講義内容・授業計画	<p>【ねらい】</p> <p>災害における人間の心理と行動を、災害に備える段階(災害前)、災害の渦中にある段階、災害後の心の問題に分けて理解する。特に、具体的な災害事例を心理学的視点から理解する能力を養う。</p> <p>【学習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) リスク・安全(safety, security)などの概念を整理する 2) 緊急事態・危機・災害・事故などの概念を整理する 3) 災害時における心理 [制御可能性、感情と理性、パニック神話] 4) 災害時における危機対応 [リーダーの役割、危機コミュニケーション、自助・共助・公助] 5) 災害のリスク認知 [多様な認知バイアス、感情ヒューリスティック] 6) 喪失体験 [親密な人間関係、愛の対象を失うこと] 7) 惨事ストレスと罪悪感 8) 福島第一原発事故についてのリスクコミュニケーション【事例】 9) 緊急事態・災害時の具体事例【受講生によるレポート発表にもとづいて討論を行う】 		
テキスト	特に用いない		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・土田昭司(編)『安全とリスクの心理学』培風館(近刊) ・広瀬弘忠『人はなぜ逃げおくれるのか：災害の心理学』集英社新書 ・関西大学社会安全学部(編)『東日本大震災 復興 5 年の検証』ミネルヴァ書房 ・関西大学社会安全学部(編)『防災・減災のための社会安全学』ミネルヴァ書房 ・関西大学社会安全学部(編)『事故防止のための社会安全学』ミネルヴァ書房 ・平川秀幸・土田昭司・土屋智子『リスクコミュニケーション論』大阪大学出版会 		
成績評価	クラス参加度、プレゼンテーション、レポートを総合的に評価する。		
履修上の注意・履修要件	講義中心の授業を行うが、受講生との討論を随時行う。また、受講生各自		

	のレポート発表にもとづく討論も行う。
備考	なし

授業科目名	災害と文化 Disaster and Culture	必修の区分	選択必修
授業コード	107	開講年次	1
単位数	1	期別	前期
授業種別	講義、フィールドワーク	授業方法	第1～8回：遠隔授業 (第6～8回は対面・集合でも受講可能)
講師名	正木 治恵 岩崎 寛 望月 由紀	所属	千葉大学大学院看護学研究科 千葉大学大学院園芸学研究科 東都医療大学ヒューマンケア学科
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	hmasaki@faculty.chiba-u.jp
講義目的及び到達目標	<p>【講義目的】災害支援に必要な文化的視点を理解し、文化的感受性を高める。また、関連する概念や理論について概観すると共に、文化的アプローチについて実践例をもとに理解を深める。</p> <p>【到達目標】災害支援に必要な文化的視点と感受性が獲得できる。被災地域の文化を取り込んだケア、コミュニケーションができる。</p>		
講義内容・授業計画	<p>オムニバス方式（正木治恵／3回、望月由紀／2回、岩崎寛／3回）</p> <p>【遠隔授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害看護における文化的ケアの基礎 2) 文化看護とケア 3) 災害看護における文化の視点 4) 実践例をもとにした文化的ケアの方法(1) 5) 実践例をもとにした文化的ケアの方法(2) <p>【遠隔授業（対面、集合でも可）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 6) 被災地域の風土や文化をツールとしてケアに取り込む方法 7) コミュニケーションツールとしての植物を用いたワークの実践 8) 植物を通じた地域文化の体験 		
テキスト	なし		
参考文献	<p>正木担当回：Christie W. Kiefer 著、木下康仁訳：文化と看護のアクションリサーチ 保健医療への人類学的アプローチ、医学書院、2010</p> <p>岩崎担当回：広井良典編：「環境と福祉」の統合、有斐閣、2008</p> <p>望月担当回：マデリン M. レイニンガー：レイニンガー看護学、医学書院、1995</p>		
成績評価	クラス参加度とプレゼンテーション（30点）、事前・事後レポート（70点）を総合的に評価する。		
履修上の注意・履修要件	岩崎担当回（第7～8回）で用いるハーブの栽培を各自で行います。		
備考	第6～8回は対面・集合での受講も可とする。		

授業科目名	災害社会学 Disaster Sociology	必修の区分	選択必修
授業コード	212	開講年次	2
単位数	1	期別	後期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	似田貝香門	所属	東京大学名誉教授
オフィスアワー・場所	集中講義の日の終了時	連絡先	nitagai@l.u-tokyo.ac.jp
講義目的及び到達目標	災害時における被災者の支援の考え方について、1995 年阪神・淡路大震災と東日本大震災の支援活動から、新しい支援の考え方、被災者の「声」の聴き方、等について、実施の支援活動とそこから生み出された支援論、ケア論について考える。		
講義内容・授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害時・危機時における人間を社会学はどう捉えるか (本講義の introduction) 社会の微細な、微弱な変化を捉えるには方法がなければならない 2. 支援論 1. 〈実践知〉とは何か 理性（形而上学）と技術知、経験知との相違 3. 支援論 2. 被災者と支援者；〈「語る」－「聴く」〉という関係 根源的コミュニケーションとはなにか 4. 支援論 3. 〈co-presence〉；傍らに在るということとは何か 「傍らに在ること」の困難さとその対応 5. 被災者の「声」 1. 足湯ボランティアと被災者の「つぶやき」 被災者の「つぶやき」とはなにか。そこから何を聴き取るか。 6. 被災者の「声」 2. 〈こころの自律〉と〈社会の中での自立〉 〈こころの問題〉へのケアと〈こころの自律〉、 7. 被災者の「声」 3. 共感という方法をめざして 被災者と支援者の双方向的な関係性の中で、取得される共振と共感の方法を考える 8. 支援とケア 支援の実践を考える。支援の社会的仕組みづくり 専門知の閉鎖性から越境する知へ。 多様な試みとその繋がりをめざして 		
テキスト	なし		
参考文献	似田貝香門、2008『自立支援の実践知－阪神・淡路大震災と共同・市民社会』（東信堂）、似田貝香門編、2006『ボランティアが社会を変える』関西看護出版、似田貝香門・吉原直樹編著『震災と市民－自立と復興』（第 2 巻支援とケア）、似田貝香門・村井雅清編『被災者と足湯ボランティア－被災者の自立へ向かう新たなケアの試み』（生活書院）		
成績評価	レポート		
履修上の注意・履修要件	質問はいつでも。講師の方も質問をする。討論重視。		
備考	なし		

授業科目名	災害福祉学 Disaster Social Welfare	必修の区分	選択必修
授業コード	206	開講年次	2
単位数	1	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	室崎益輝	所属	兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科
オフィスアワー・場所	随時・メールで問い合わせ	連絡先	y.murosaki@mist.ocn.ne.jp
講義目的及び到達目標	災害の構造や特質を理解させたいうえで、それによる被害軽減の方向や対策を、予防、応急、復興の減災サイクルに即して、具体的に理解させる。とくに、社会福祉、災害看護、生活保護等の分野については、その有るべき姿を減災との関わりで、深く理解させる。		
講義内容・授業計画	<p>(1) 災害概論・・・災害事例の考察を通して、災害の構造や特質を知る</p> <p>1. 災害の事例と分類</p> <p>2. 災害の構造と特質</p> <p>(2) 防災対策総論・・・防災対策の戦略や体系の全体像を理解する</p> <p>3. 大災害に学ぶ防災の教訓</p> <p>4. 防災対策の基本フレーム</p> <p>5. 減災の考え方とその具体化</p> <p>(3) 防災対策各論・・・災害種別、時系列別に対策のあり方を学ぶ</p> <p>6. 災害対応と社会福祉</p> <p>7. 応急対応と災害看護</p> <p>8. 復興対応と生活支援</p> <p>(4) 災害福祉論・・・減災という視点から福祉のあり方を学ぶ</p> <p>9. 生命と生活を守る福祉</p> <p>10. 要援護者と災害福祉</p> <p>11. 生活復興と災害福祉</p> <p>12. 災害福祉と災害看護</p> <p>13. 災害福祉と関連法制度</p> <p>(5) まとめ</p>		
テキスト	なし		
参考文献	メディカ出版「災害の統合と実践③災害看護」		
成績評価	レポートの提出		
履修上の注意・履修要件	災害事例をよく学習しておくこと		
備考	特になし		

Class title	Professional Writing	Section	Elective Course
Class code	207	Year of study	2
Credits	1	Semester	1
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance learning
Instructor	Hyeon Ju Lee	Affiliation	University of Kochi
Office hours / location	Appointments <u>upon request</u>	Contact details	hyeonster@gmail.com
Class objectives and attainment targets	<p>1) Students will learn to be able to compose paragraphs, academic essays, synopses, and abstracts in English for academic/professional purposes. Students will gain skills to differentiate academic writing from everyday English expressions and put the skills to practice in written communication.</p> <p>2) Students will gain appropriate knowledge on technical nursing writing style, and the “Disaster Lexicology” (main technical terms in use in disaster/humanitarian field) and methodology to communicate or publish one's work.</p>		
Class description	<p>Writing is an essential element of academic career. Particularly for those who are interested in global/international collaboration/career/engagement, it is essential to be well versed in professional/academic English. The demands for English writing has heightened in recent years due to increased use of electronic communication technology, such as email, SNS, and other online devices, and not to mention the crucial responsibility to engage in academic activities by publishing and exchanging idea in writing. Thus it is crucial for DNGL students to be fluent in academic English expressions to perform excellence in the field of global disaster nursing. This course offers the basic tools for creating better sentences and critical thinking for formulating ideas for writing academic papers.</p> <p>Week 1: Semantics, vocabulary, and phrases in academic English writing</p> <p>Week 2: Effective sentence writing</p> <p>Week 3: Technical terminology for disaster nursing</p> <p>Week 4: Syntax: Technical tools for writing (1)</p> <p>Week 5: Syntax: Technical tools for writing (2)</p> <p>Week 6: Writing paragraphs</p> <p>Week 7: Writing process: from paragraphs to an essay</p> <p>Week 8: Transition and connecting expressions.</p> <p>Week 9: Structure of a research paper (1)</p> <p>Week 10: Structure of a research paper (2)</p> <p>Week 11: Writing summaries, part 1</p> <p>Week 12: Writing summaries, part 2</p> <p>Week 13: Writing abstract, part 1</p> <p>Week 14: Writing abstract, part 2</p> <p>Week 15: Writing annotated bibliography</p>		
Textbooks	<p>1) Swales, J. and C. Feak. 2004. Academic Writing for Graduate Students. Michigan University Press;</p> <p>2) Bailey. S. 2001. Academic Writing: A Handbook for International Students. London and New York: Routledge.</p>		

Reference materials	1) Glenn and Grey. 2012. The Hodges Harbrace Handbook. International Edition. Heinle. 2) Roget's 21st Century Thesaurus, 3rd Edition. Princeton Language Institute
Grading	Assessments criteria: weekly assignments and in-class performance.
Cautions and prerequisites	Students are required to know how to write sentences in English. Students are expected to know how to type in English in order to participate in-class discussion and complete assignments. All assignments must be submitted by specified deadlines. No late submissions are accepted.
Notes	Course materials and contents are open to changes. The language of instruction for this class is English with some Japanese explanations, only when necessary.

授業科目名	Proposal writing (Research proposal writing skill)	必修の区分	選択必修
授業コード	208	開講年次	2
単位数	1	期別	前期
授業種別	演習	授業方法	遠隔授業
講師名	近藤 暁子 ¹⁾ 大田 えりか ²⁾ Ann Eckhardt ³⁾	所属	1) 東京医科歯科大学 2) 聖路加国際大学 3) Illinois Wesleyan University
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	akondo.ind@tmd.ac.jp
講義目的及び到達目標	主として博士論文の研究計画書を想定し、研究計画書の構成要素、各項目を英文で作成する際の専門用語および writing skill を学ぶ。実際の研究計画書のクリティークと、研究計画書の英作文演習についてプレゼンテーション・ディスカッションを通して内容を深めつつ、実地的な英作文能力の習得をめざす。		
講義内容・授業計画	1 地域や海外など、多職種・他国の専門職との国際共同研究を目標とし、専門職・非専門職への研究計画提案の際の留意点、学術専門用語と日常英語の表現の相違などに配慮した簡潔明快な表現方法を理解する。		
	2 米国の看護研究助成のシステム、研究助成申請書（Research Proposal）の審査および採点方法を学ぶ。優れた Proposal および研究成果物の実例を分析し、優れた Research Proposal の特徴について理解を深める。		
	3 Research Proposal の概要・根拠（文献レビューの方法とまとめ方）・倫理的配慮・期待される成果等の構成要素別に実際の作成過程を体験する。フルページの Research Proposal を発表すると同時に、学生相互でクリティークとディスカッションを行い、内容を洗練する。		
		内容	担当者
	1	オリエンテーション、英語プレゼンの方法	近藤 暁子
	2	Proposal の書き方	近藤 暁子
	3	Proposal の例、サブストラクション	近藤 暁子
	4-5	システムティックレビューの方法とまとめ方	大田 えりか
	6	英文論文の書き方、投稿時のポイント 投稿した論文の例	近藤 暁子
	7	研究テーマの選定・背景	近藤 暁子
	8	研究テーマの選定・背景 理論的枠組み、用語の定義	近藤 暁子
	9	理論的枠組み、用語の定義	近藤 暁子
	10	デザイン、対象、データ収集方法、 分析方法	近藤 暁子
	11	デザイン、対象、データ収集方法、 分析方法	近藤 暁子
	12	期待される成果、研究の限界、倫理的配慮	近藤 暁子
13	The system of US nursing research grants and the evaluation and grading method for research proposals	Ann Eckhardt 近藤 暁子	

	14	Proposal プレゼンテーションと ディスカッション	近藤 暁子 Ann Eckhardt
	15	Proposal プレゼンテーションと ディスカッション	近藤 暁子 Ann Eckhardt
テキスト	使用しない		
参考文献	エリザベス・M. トーンキスト（著），園城寺康子他（訳） 看護論文を英語で書く，医学書院，2007.		
成績評価	ディスカッションへの参加 20% 資料作成・プレゼンテーション 30% 作成した最終 Proposal 50%		
履修上の注意・履修要件	講義、ディスカッション、プレゼンテーション、Proposal の作成等、 原則としてすべて英語で実施する。ディスカッションに必要な英会話、 および英文作成能力があることが必要である。受講希望者は受講動機を A4 で 1 枚程度事前に英語で書いて提出すること。 また、Proposal を作成するためには、ある程度研究テーマが明確に なっていることが望ましいが、仮想的に研究テーマを作成してもよい。		
備考	授業の順番、内容は変更になることがある。		

Class title	Program Writing (Program proposal writing skill)	Section	Required elective
Class code	305	Year of study	3
Credits	1	Semester	2
Class type	Seminar	Mode of instruction	Distance learning
Instructors	Arturo Pesigan	Affiliation	WHO South East Asia Regional Office (University of Hyogo)
Office hours / location	Appointment bases	Contact details	c/o sonoe_mashino@cnas.u_hyogo.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<p><u>Objectives</u> In many organizations, new agenda or necessary activity plan need to be proposed on the table before accepted as the organizational activity. This course will focus on not only how to write the proposal, but to understand what is the program.</p> <p><u>Attainment targets</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Students will be able to state what the unit and structure necessary for composed of the WHO program. 2. Students will be able to make a successful proposal for given agenda. 		
Class description	<p>The class will be offered in concentrated schedule in late October via TV system.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction of WHO actions which require proposal for project and/or program will be given as an example of international organization. Several example will be given according to the nature of the division of Health Emergency and Humanitarian Effort. 2. What is the program component according to the purpose. 3. What kind of proposal would move the acceptance. 4. Exercise for the skill aquisition to write the proposal. <p>Dr. Pesigan is a WHO officer specialized in Health Emergencies and Humanitarian Action.</p>		
Textbooks	Announce in later time.		
Reference materials	Announce in later time.		
Grading	Draft of project proposal in English.		
Cautions and prerequisites	None		
Notes	None		

授業科目名	災害看護活動論 I Disaster Nursing Activity I	必修の区分	必修
授業コード	108	開講年次	1
単位数	2	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	佐々木 吉子 ¹⁾ 、大友 康裕 ¹⁾ 、 駒形 朋子 ¹⁾ 、 高村 ゆ希 ²⁾ 、 石井 美恵子 ³⁾ 、 福島 芳子 ⁴⁾	所属	1) 東京医科歯科大学 2) 東京医科歯科大学医学部 附属病院 3) 国際医療福祉大学 4) 長崎大学
オフィスアワー・場所	アポイントメント（随時）	連絡先	y-sasaki.dn@tmd.c.jp
講義目的及び到達目標	<u>授業目的</u> 主要な災害の災害準備期における減災・防災対策、災害急性期～亜急性期に至るまでの時期における医療・看護・保健活動等の原則と活動の実践について学ぶ。特に、災害医療における看護の役割、家族や遺族へのケア、避難者や帰宅困難者への対応、被災医療機関や災害支援者等への支援について深く理解する。さらに、想定される大規模災害の減災・防災に向けた、産官学が連携する活動、連携のための看護の役割について学ぶ。 <u>到達目標</u> 1. 主要な自然災害、特殊災害の災害準備期～亜急性期に至るまでの時期における災害の特徴（種類別傷病者の疾病構造を含む）と対応の原則がわかる。 2. 災害発生に固有な危機的疾患に対する救命救急活動の概要と看護の役割がわかる。 3. 被災しつつ、負傷者の受け入れや避難先として求められる医療施設の役割がわかる。 4. 災害現場、避難所における人々の健康問題と生活支援、地域医療との連携システムがわかる。		
講義内容・授業計画	<u>授業内容</u> 【第1回】（佐々木） ・オリエンテーション ・災害の定義、主要な自然災害、特殊災害の分類と国内外での発生状況 ・災害急性期～亜急性期に至るまでの時期における災害種類別傷病者の疾病構造の特徴、被災者・支援者にもたらされる健康問題と生活への影響 【第2回】（佐々木） ・災害看護の定義、災害と災害看護に関する歴史と国の政策変遷 ・災害サイクルに伴う看護師の役割と、看護活動に必要な能力 【第3回】（佐々木） ・災害急性期～亜急性期に至るまでの時期における、災害対応（減災・防災、急性期医療・看護、遺族対応）の原則 ・災害準備期における大都市の大規模災害への減災・防災対策の基本的な考え方、産官学の取り組み、連携において看護に期待される役割		

講義内容・授業計画	<p>【第4・5回】(石井)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内災害における急性期の看護活動、海外の異文化な環境における災害急性期の看護活動 <p>【第6回】(駒形)</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害急性期～亜急性期における感染症と対策 <p>【第7・8回】(大友)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内外の大規模災害発生時の医療対応の構造と機能 (国際緊急援助隊医療チーム (JDR)、災害派遣医療チーム (DMAT) の活動の原則ほか) <p>【第9・10回】(大友)</p> <ul style="list-style-type: none"> 主な NBC 災害の概要と病院における医療活動 (化学災害を中心に) <p>【第11・12回】(高村)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内外における医療救援チームの活動と看護の役割 (DMAT、JDR 等における看護活動) <p>【第13・14回】(福島)</p> <ul style="list-style-type: none"> 放射線災害における急性期の医療・看護活動の原則と実際 <p>【第15回】(駒形)</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害が慢性疾患をもつ人々、母子、高齢者にもたらす健康問題と急～亜急性期における支援
テキスト	指定なし
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 石井美恵子 (2013) . 幸せをつくる、ナースの私にできること. 廣済堂出版 國井修 (2012) . 国家救援医 私は破綻国家の医師になった. 角川書店. 國井修編集 (2012) . 災害時の公衆衛生—私たちにできること. 南山堂. 日本集団災害医学会編修 (2015) . DMAT 標準テキスト改訂第2版. へるす出版. 山本保博, 鵜飼卓, 杉本勝彦監修 (2002) . 災害医学. 南山堂. International Disaster Nursing / edited by Robert Powers and Elaine Daily; Cambridge University Press, 2010.
成績評価	授業への参加姿勢 30%、事後課題 70%
履修上の注意・履修要件	事前課題がある場合、指定された期限までに LMS に提出する。
備考	授業の内容・スケジュールは変更になることがある。

授業科目名	災害看護活動論Ⅱ Disaster Nursing Activity Ⅱ	必修の区分	必修
授業コード	109	開講年次	1
単位数	2	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	田村 由美、内木 美恵 小原 真理子	所属	日本赤十字看護大学 非常勤講師
オフィスアワー・場所	毎授業後 1 時間・メールまたは教員研究室	連絡先	y-tamura@redcross.ac.jp m-naiki@redcross.ac.jp
講義目的及び到達目標	<p>【講義目的】</p> <p>災害サイクルにおける亜急性期以降、復旧復興期にむけての病院防災、地域防災に焦点を当て、災害マネジメントのパブリック・ヘルス（Public Health）に関する知識や災害看護マネジメントの知識を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害時のパブリック・ヘルスに関する知識を修得し、災害看護マネジメントにおける重要な視点として理解できる。 看護のマネジメント論、リーダーシップ論、組織論、人的資源活用論などの看護管理論の基盤知識を災害マネジメントの視点で深めることができる。 災害への備え、災害時の対応と情報管理、災害時要配慮者の支援活動と関連する法制度、避難所設営と運営等、実践的な知識を修得することができる。 		
講義内容・授業計画	<p>【ねらい】</p> <p>パブリック・ヘルスの視点が災害看護活動において重要な視点であることを認識し活動ができるようになる。そのために必要な知識を修得する。</p> <p>【講義内容】 オムニバス方式</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害対応におけるヘルスマネジメント①（田村） 2) 災害対応におけるヘルスマネジメント②（田村） 3) 災害対応におけるパブリック・ヘルス①（田村） 4) 災害対応におけるパブリック・ヘルス②（田村） 5) 災害関連サーベイランス、ハザードアセスメント、脆弱性分析、リスクアセスメントおよび迅速ヘルスアセスメント（田村） 6) 災害マネジメントと IPW①（田村） 7) 災害マネジメントと IPW②（田村） 8) 災害時要配慮者の特性とケア（内木） 9) 災害支援活動をする看護職の備えと実践活動技法①（内木） 10) 災害支援活動をする看護職の備えと実践活動技法②（内木） 11) 避難所におけるパブリック・ヘルスの重要性と実際（小原） 12) 被災病院におけるリーダー看護職の初期対応（小原） 13) 避難所アセスメント、避難行動要支援者の対応と基盤となる法制度（小原） 14) 災害への備え ①病院防災上の他部署・他施設・他機関との連携と協働（小原） 15) 災害への備え ②地域防災上の官民学との連携と協働（小原） 		
テキスト	特に指定せず、授業関連の資料を提示する。		

参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ WHO : 「Framework for Action on Inter Professional Education & Collaborative Practice」 2010 ・ Tener Goodwin Veenema Editor: Disaster Nursing and Emergency Preparedness 3rd Edition, Springer Publishing Company,2013. ・ Linda Young Landesmann :Public Health Managements of Disasters 3rd Edition: American Public Health Association,2011. ・ IFRC: The John Hopkins and Red Cross Red Crecent Public health guide in Emergencies, 2nd.edi, 2008 ・ シリーズ 災害と社会第 1 巻～第 8 巻, 弘文堂, 2007. ・ 勝見敦・小原真理子編集: 災害救護―災害サイクルから考える看護実践、ヌーベル廣川, 2012.
成績評価	クラス参加度(10%)、プレゼンテーション(20%)、レポート(70%)
履修上の注意・履修要件	看護管理の基礎知識が必要です。映像多用、シミュレーション学習をします。積極的な自己学習を求めます。
備考	日頃から、災害について新聞やホームページ、TV等を通して、被害の大きさ、被災者、救護活動の実際について、情報収集を心がける。

授業科目名	災害看護活動論Ⅲ Disaster Nursing Activity Theory Ⅲ	必修の区分	必修
授業コード	116	開講年次	1
単位数	2	期別	後期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	宮崎 美砂子 伊藤 尚子	所属	千葉大学大学院看護学研究科
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	miyamisa@faculty.chiba-u.jp tito@chiba-u.jp
講義目的及び到達目標	<p>【講義目的】 災害時に中長期的な視野で対応すべき健康課題ニーズを明らかにし、活動体制を構築していく方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ単位にニーズを持続的に把握・分析する方法が理解できる。 ・必要とされる活動を連携協働、仕組み・施策化、コミュニティの健康文化創成につなげていく方法が理解できる。 ・災害時の健康課題に中長期的に対応するために必要なリーダーとしての役割について理解できる。 		
講義内容・授業計画	<p>【ねらい】 災害時の健康ニーズを、コミュニティ単位に持続的に把握・分析し、管理的かつ体制的な側面から活動を計画し、推進・評価していく視点を養う。</p> <p>【学習内容】（全 15 回）</p> <p>（1 回）コミュニティを単位とした看護活動の基本的な考え方及び方法（宮崎）</p> <p>（2 回）災害時におけるコミュニティを単位とした活動体制構築の方法（宮崎）</p> <p>（3 回）災害時における行政（国・都道府県・市町村）の対応体制と看護職の役割（宮崎）</p> <p>（4 回）災害時における活動の施策化、地域の健康文化の創生（宮崎）</p> <p>（5 回）プライマリーヘルスケアの概念と災害時の連携協働体制（伊藤）</p> <p>（6 回）コミュニティ再建に活用する PCM（プロジェクトサイクルマネジメント）（伊藤）</p> <p>（7 回）疫学的視点を用いた災害時の情報収集、分析の方法（伊藤）</p> <p>（8 回）対象地域のアセスメント（伊藤）</p> <p>（9 回）コミュニティにおける文化の再生（伊藤）</p> <p>（10 回）在日外国人への災害時支援（伊藤）</p> <p>（11 回～15 回）災害時の活動事例を用い、コミュニティを単位に中長期的な視野で捉えるべき健康ニーズを検討し、それらに対応するために、管理的かつ体制的な側面から活動体制を構築していく方法を検討する。授業回ごとに、事前準備（個人ワーク）、授業当日の討議・振り返りを行う。</p> <p>11～14 回は「潜在化する健康ニーズ」、「被災者の自立支援とコミュニティ再生」、「支援者・関係者の疲弊と支援」、「災害経験の意味づけ・伝承」を取り上げる。11 回～12 回は伊藤が担当し、13～14 回は宮崎が担当する。15 回は宮崎・伊藤の 2 名で担当し全体総括を行う。</p>		
テキスト	国井修：災害時の公衆衛生 私たちにできること、南山堂、2012		

参考文献	<p>宮崎美砂子、北山三津子、春山早苗、田村須賀子編集：最新公衆衛生看護学 総論．日本看護協会出版会、2014.</p> <p>ローレンス・W. グリーン、マーシャル・W. クロイター：実践ヘルスプロモーション—PRECEDE - PROCEED モデルによる企画と評価．Health Program Planning: An Educational and Ecological Approach 4thed. 2005.（翻訳版、医学書院）</p> <p>関西学院大学出版会 COE 災害復興制度研究会：災害復興—阪神・淡路大震災から 10 年．関西学院大学出版会、2005.</p> <p>日本国際保健医療学会編集：国際保健医療学 第 3 版、杏林書院、2013.</p>
成績評価	クラス参加度、プレゼンテーション、レポートを総合的に評価する。
履修上の注意・履修要件	なし
備考	なし

授業科目名	災害看護学特論 Advanced Disaster Nursing Theory	必修の区分	必修
授業コード	302	開講年次	3
単位数	2	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	山本あい子	所属	兵庫県立大学
オフィスアワー・場所	火曜日	連絡先	a_yamamoto@cnas.u-hyogo.ac.jp
講義目的及び到達目標	<p>〔講義目的〕 災害・災害看護とは何かについて、情緒・認知・感覚等を用いて探求する。さらに災害看護に関連する概念分析を行い、災害看護学を探究する。</p> <p>〔到達目標〕 ①災害・災害看護・安心とは何かについて、具体例を用いながら述べ、或いは他者の意見を聞き、討議することを通して探求する。 ②災害看護に関係する概念の中から、各自の関心のある概念を選び、その概念分析を行なう。 ③災害看護とは何かについて、記述する。</p>		
講義内容・授業計画	<p>〔授業計画〕</p> <p>1 回 オリエンテーション</p> <p>2 回－7 回 第一段階：自己の体験、漫画、絵、詩、エッセイ等から（専門書/専門的な文献は除く）、下記の①－③について、各自が端的に表現していると思う記述を持ち寄り発表する。その時、なぜそれを選んだのかについても説明する。またそれぞれの発表に対して、積極的に意見を述べ合う。</p> <p> ①災害とは何か（2 回－3 回） ②災害看護とは何か（4 回－5 回） ③安心とは何か（6 回－7 回）</p> <p>8 回－9 回 第二段階：専門書や専門的な文献を用いて、災害ならびに災害看護とは何かについて、統合し端的に記述する。またそれぞれの発表に対して、積極的に意見を述べ合う。</p> <p>10 回－13 回 第三段階：各自にとって関心のある概念を選び、概念分析を行う。また下記の理論について要約する。</p> <p> ①各自が選んだ概念の分析（10 回－12 回） ②Situation-specific theory（13 回）</p> <p>14 回－15 回 各自が考える災害看護とは何か記述し、発表する。</p>		
テキスト	なし		
参考文献	理論看護学Ⅱで提示されている書籍		
成績評価	授業中のプレゼンテーション内容、レポート内容による総合評価		
履修上の注意・履修要件	なし		
備考	特になし		

授業科目名	災害看護グローバルコーディネーション論 Theory in Disaster Nursing Global Coordination	必修の区分	選択必修
授業コード	303	開講年次	3
単位数	1	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔（ほぼ隔週講義）
講師名	東浦 洋 田村 由美	所属	日本赤十字看護大学看護学研究科
オフィスアワー・場所	毎授業後 1 時間・601 教室	連絡先	h-higashiura@redcross.ac.jp y-tamura@redcross.ac.jp
講義目的及び到達目標	<p>【講義目的】 複合災害時を含む国際救援活動を展開する際に不可欠となる諸条約（国際人道法、難民条約、国際災害対応法など）、赤十字・国際 NGO の行動規範、スフィア・プロジェクトなど必要な知識・技術を学ぶ。また、災害時に活躍する国連、国際赤十字、国際 NGO など国際諸機関のポリシー・活動の実際を検討する。グローバルリーダーに求められる役割について、これら国際諸機関との連携・協働に関連付けて考察する。</p> <p>【到達目標】 ・国際救援活動の基盤となっている枠組み（諸条約、行動規範、救援の最低基準など）について、知悉し、必要な場合活用しうようになる。 ・国際救援活動の主要なアクターの活動内容・特色などを検討し、救援に際し、各機関・組織との連携・協働ができるようになる。</p>		
講義内容・授業計画	<p>【講義内容 1】（田村） 1）オリエンテーション、災害看護とグローバルコーディネーション概説</p> <p>【講義内容 2-8】（東浦） 国際救援活動の主要なアクターである国連機関、国際赤十字運動、国際 NGOs の概要について学ぶ。被災者や難民に関する諸条約、救援者に関する行動規範や救援活動の原則、救護と開発の Continuum について考える。また、活動に必要な法規、規範を実際の活動の中で、どのように活用するのかについて学びを深める。</p> <p>【授業計画】 2）国連機関と災害（OCHA, UNICEF, UNHCR, WFP, UNISDR ほか） 3）国際赤十字運動（ICRC, NSs, IFRC）及び国際 NGOs（MSF, CARE, World Vision, Save the Children ほか）と災害 4）国際人道法と医療スタッフの権利と義務、難民条約（難民と IDPs） 5）クラスター・アプローチ、赤十字・国際 NGO の行動規範；スフィア・プロジェクト（1） 6）スフィア・プロジェクト（2） 7）民軍連携、救護と開発の Continuum 8）国連・ICRC/IFRC・国際 NGOs の活動の実際から学ぶ</p>		
テキスト	特に指定しない		
参考文献	<p>Alma Baccino-Astrada: Manual on the Rights and Duties of Medical Personnel in Armed Conflicts, 1982 Sphere Project, 2018（予定） The Journal of Humanitarian Studies, Vol.1—IV, 2011-2015</p>		

	赤十字国際機関(ICRC/IFRC/日本赤十字社)、国連機関(UNHCR, UNICEF, WHO, OCHA など)、国際 NGO(OXFAM, Save the Children, MSF など)の WEB サイト
成績評価	参加度 (10%)、プレゼンテーション(50%)、レポート(40%)
履修上の注意・履修要件	まず担当毎にプレゼンテーションを行い、教員が補足し、さらに討議を行うので、事前学習を前提とする。
備考	各自の担当ヵ所については、事前に割り当てを行うこととする。

授業科目名	災害国際活動論 International Disaster Response	必修の区分	選択必修
授業コード	306	開講年次	3
単位数	1	期別	後期
授業種別	講義	授業方法	遠隔(ほぼ隔週講義)
講師名	田村 由美 東浦 洋	所属	日本赤十字看護大学看護学研究科
オフィスアワー・場所	毎授業後 1 時間・601 教室	連絡先	y-tamura@redcross.ac.jp h-higashiura@redcross.ac.jp
講義目的及び到達目標	<p>[講義目的] 国連機関、国際赤十字、国際 NGOs など国際救援のシステム、ツールについて掌握し、被災状況の査定、並びに他チーム・被災地の行政や住民代表等とのコーディネーションについて学ぶ。</p> <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害救援に関わる国際機関のシステム、ツールについて習得する。 ・被災状況の査定方法を取得する。 ・他チーム・被災地の行政や住民代表との調整・交渉を体得し、実際に行動に移せるようになる。 ・危機管理について習熟する。 		
講義内容・授業計画	<p>(田村由美／1 回)</p> <p>[講義内容] 国際的災害支援活動における IPW の意味、効果的な IPW 活動</p> <p>[授業計画] 1) Inter-agency collaboration (東浦洋／7 回)</p> <p>[講義内容] 国際救援において活動するシステム、情報収集・分析などのツールなどについて検討し、実体験に基づく話により、それら知識の定着を図る。また、ストレス下における交渉の手法、危機管理上考えておくべき事項について考え、災害救援におけるグローバルコーディネーターの役割について学ぶ。</p> <p>[授業計画] 2) リスク管理のための指標 (INFORM)、国連災害評価調整チーム (UNDAC)、国際捜索救助諮問グループ (INSARAG)、緊急医療チーム (EMTs) 3) 被災状況の査定情報管理のためのツール 4) UN/赤十字/国際 NGOs での災害救援の実際 5) ストレス下における交渉① 6) ストレス下における交渉② 7) 危機管理 8) グローバルコーディネーターの役割</p>		
テキスト	特に指定しない		
参考文献	INFRORM, UNDAC, INSARAG, EMTs,被災状況の査定情報管理のためのツール, Effective Negotiation and Influencing, Persuasive Negotiation,危機管理等の各種文献、関連 Web サイト		
成績評価	クラス参加度(10%)、プレゼンテーション(50%)、レポート(40%)		

履修上の注意・履修要件	各担当カ所についてのプレゼンテーションを行い、教員が補足し、さらに討議を行うので、事前学習を前提とする。交渉などについてはロールプレイなどを織り交ぜて実施する。
備考	各自の担当カ所については、事前に割り当てを行う。

授業科目名	災害看護管理・指揮論 Disaster Nursing Management	必修の区分	選択必修
授業コード	307	開講年次	3
単位数	1	期別	後期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	山田覚、神原咲子	所属	高知県立大学
オフィスアワー・場所	右記メールアドレスに連絡	連絡先	yamada@cc.u-kochi.ac.jp kanbara@cc.u-kochi.ac.jp
講義目的及び到達目標	<p>【目的】災害看護グローバルリーダーとしての視点から、災害対応システムを理解し、多職種連携や被災直後の被災者の健康と生活の確保、および復旧・復興に向け、管理・指揮のあり方について学ぶ。</p> <p>【目標】被災者の健康と生活の確保、発災前から復旧・復興までの災害対応システムの検討ができ、保健医療における業務継続計画などの提案ができる。</p>		
講義内容・授業計画	<p>災害看護グローバルリーダーとしての視点から、IPW（多職種の連携・協同）の重要性や、災害対応システムを理解し、被災直後の被災者の健康と生活の確保、および復旧・復興に向け、ヒト、モノ、カネ、情報等のマネージメント資源を如何に活用して行くか、管理・指揮のあり方について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(山田覚/4回)</p> <p>災害看護管理・指揮論概論、災害看護グローバルリーダー、IPWとチームビルディング、マネージメント論</p> <p>(神原咲子/2回)</p> <p>論理的ヘルスリスクコミュニケーションの基礎と災害時実践への応用、ソーシャルキャピタルの醸成とリーダーの役割</p> <p>(山田覚、神原咲子/2回)(共同)</p> <p>実際の国内外の事例を用いて、災害時の課題を分析した後、管理・指揮のあり方について検討し、アクションプランを作成する。</p>		
テキスト	必要な資料は、講義時に配付する		
参考文献	<p>・林春男、危機対応標準化研究会、世界に通じる危機対応—ISO22320:2011(JIS Q22320:2013)社会セキュリティ-緊急事態管理-危機対応に関する要求事項解説、日本規格協会</p> <p>・林春男、田村圭子、井ノ口宗成、牧紀男、組織の危機管理入門—リスクにどう立ち向えばいいのか、丸善</p>		
成績評価	クラス参加度、レポート等を総合的に評価する		
履修上の注意・履修要件	講義ばかりではなく、討議も重視する。		
備考	特になし		

授業科目名	災害看護倫理 Ethics in Disaster Nursing	必修の区分	必修
授業コード	308	開講年次	3
単位数	1	期別	後期
授業種別	演習	授業方法	クラス討議を含むゼミ形式
講師名	片田範子	所属	兵庫県立大学
オフィスアワー・場所	必要時アポイントメント	連絡先	katadan@hirakata.kmu.ac.jp cnaskatada@gmail.com
講義目的及び到達目標	<p>【講義目的】災害に関連して生ずる倫理的課題について現状を理解し、状況から生ずる人々の体験を理解する。人の安全保障の理念に基づき、看護がどう対応すべきかを思索する。</p> <p>【到達目標】災害時に遭遇する人々の置かれている状況で、人の安全保障に基づき看護者として行動することができると確信する。</p>		
講義内容・授業計画	<p>【講義内容】この授業においては、看護者として、看護研究者として災害に遭遇した人々の体験やその事態を理解する倫理的感受性を刺激し、倫理的に思考し、実践することを支援することを狙っている。そのため、授業展開は、討議セミナーの形式をとり、それぞれの事前学習を基盤としてクラスで討議を進める形式とする。</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション:看護倫理についての基本原則や理論分析の方法についてのレビューを行う。 2. 非日常時の倫理や法律 3. 災害に関連した倫理的課題 4. 災害看護に関連し倫理的課題と感じている事象 5. 支援する際の文化と倫理観 6. それぞれの焦点領域における倫理的現象についてプレゼンテーションを行い、クラス討議を展開する。 		
テキスト	<p>Fry, TS and Johnstone, M-J. International Council of Nurses Ethics in Nursing Practice 3rded.(Chapter 10.)Blackwell, 2008.</p> <p>Veenema, TG, Disaster Nursing and Emergency Preparedness, Springer Publication, 2013.</p>		
参考文献	適宜クラストピックスについての文献を各自検索すること。		
成績評価	授業時の討議に向けての事前学習資料、討議への参加度、各自受け持った課題についての最終レポート。別途資料を授業開始時に提示する。		
履修上の注意・履修要件	学生は基本的看護実践の倫理を習得していることが期待される。		
備考	特に無し		

授業科目名	災害看護理論構築 Building Disaster Nursing Theory	必修の区分	必修
授業コード	309	開講年次	3
単位数	2	期別	後期
授業種別	講義(クラス討議含む)	授業方法	遠隔授業
講師名	南 裕子 片田 範子	所属	高知県立大学 関西医科大学
オフィスアワー・場所	アポイントメント	連絡先	minami@cc.u-kochi.ac.jp katadan@hirakata.kmu.ac.jp
講義目的及び到達目標	<p>【講義目的】 災害看護に必要な理論は何かについて探求し、自ら気になる現象を理論化する方法を思索することを目的としている。</p> <p>【到達目標】 1. 災害に関連して人々の体験や環境で生じている現象について、語ることができる。</p> <p>2. 理論分析する方法を学び、その構造をクリティカルに分析できる。</p> <p>3. 現象描写や研究過程で用いる概念の明確さを確保するための概念分析を行う。</p>		
講義内容・授業計画	<p>【講義内容】 事前学習内容をクラスで他の学生に説明し、討議しながら学びを深める方法をとる。理論とは何か、自分の言葉で語ることができるようになることを目的としている。自分が関心のある現象を解釈しうる概念や理論の構築を行う。</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション:授業展開について2コマ続けるところを含め進行の確認を行う 2. 理論分析の方法について、これまで理解していることについての再確認する 3. 災害について明らかにすべき現象について討議する 4. 理論構築の方法についてテキストを用いて理解する 5. 概念選択と分析、理論構築の実際（各学生が自分の気になる概念を選択し、分析する） 		
テキスト	Meleis, AI (2017). Theoretical Nursing: Development and Progress Sixth Edition, Wolters Kluwer, ISBN/ISSN 9780060000424		
参考文献	適宜提示		
成績評価	事前準備内容、プレゼンテーション、授業内討議、		
履修上の注意・履修要件	看護理論ⅠとⅡの履修		
備考	特になし		

授業科目名	災害看護活動論演習 I Disaster Nursing Seminar I	必修の区分	必修
授業コード	117	開講年次	1
単位数	2	期別	後期
授業種別	演習	授業方法	遠隔授業
講師名	佐々木 吉子 ¹⁾ 、駒形 朋子 ¹⁾ 石井 美恵子 ²⁾ 、 杉浦 康夫 ³⁾ 河嶌 譲 ⁴⁾ 福島 芳子 ⁵⁾ 尾立 篤子 ⁶⁾ DNGL5 大学SimPTメンバー ⁷⁾	所属	1) 東京医科歯科大学 2) 国際医療福祉大学 3) 国立国際医療研究センター 4) 災害医療センター 5) 長崎大学 6) 前) 防衛医科大学校 7) DNGL 構成 5 大学
オフィスワーカー・場所	アポイントメント (随時)	連絡先	y-sasaki.dn@tmd.ac.jp
講義目的及び到達目標	<u>授業目的</u> 1. 主要な災害について、原因・要因と発生機序、過去事例における医療・看護活動の実績と課題、救済制度と根拠法、あらたな防災に向けた備えの現状について理解する。 2. それぞれの災害における看護の役割の拡大・向上を目指し、国内外で過去に発生した大規模災害事例について分析し、支援活動の概要、経験からの教訓を明らかにするとともに、今後の看護活動の展望について考察する。 3. 大地震や特殊災害等の発生を想定した仮想事例についてシミュレーションやワークショップを行い、看護アセスメント、被災地における医療救護、被災者・支援者への心身のケア、看護支援活動について仮想環境において経験し、災害支援における看護リーダーの役割について考察する。 <u>到達目標</u> 1. 各種災害の急性期の医療活動の原則と、チーム医療活動における看護の役割がわかる。 2. 被災地における医療救護に必要な知識・技術を習得する。 3. 看護リーダーの視点で、必要な支援内容（政策への提言を含む）について考察できる。		
講義内容・授業計画	<u>授業内容</u> 【第 1-2 回】 (佐々木・駒形) ・オリエンテーション、テーマ確認とプランニング ・特徴的な災害例における過去事例や先行研究の活用方法 【第 3-12 回】 (佐々木、駒形) ・授業に先立ち、各学生が関心のある災害を 1 つ選択し、それに関連のある英語の原著論文 1 編を選出する。 ・取り上げる災害は、テーマが偏らないように、教員の助言と学生間での相談・調整により決定する。 例；地震・津波、台風・水害、土砂災害を含む)、雪害、交通災害（鉄道、バス・自動車、旅客機・船舶ほか）、放射線災害、化学災害、爆発、テロ、大気汚染、感染症大流行（パンデミック）、火山災害など ・選択した英語論文の内容と関連情報（その災害の原因・要因と発生機序、過去事例における医療・看護活動の実績と課題、当該論文の研究手法に関することなど）についてプレゼンテーションを行い、それに基づいて全員でディス		

講義内容・授業計画	<p>カッションを行う。</p> <p>【第 13・14 回】(河嶌、佐々木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災者（子どもを含む）と遺族の心理反応とメンタルケア ・災害支援者の心理反応とメンタルケア（講義、ワークショップ／遠隔 by TV） <p>【第 15・16・17 回】(佐々木、駒形、5 大学シミュレーションコンテンツ開発プロジェクトチームの教員・技術者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重症被災者への医療対応；二次評価、急変対応、遠隔搬送に向けた支援（ラボ・シミュレーション／遠隔 by Skype） <p>【第 18・19 回】(石井)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内災害急性期における看護活動のプランニングと実施・評価（講義、机上シミュレーション／遠隔 by TV） <p>【第 20・21 回】(佐々木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害発生時に被災しながら医療活動を担う医療施設での看護対応（机上シミュレーション／遠隔 by TV） <p>【第 22・23 回】(福島)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放射線災害時における緊急被ばく者への医療対応（講義、机上シミュレーション／遠隔 by TV） <p>【第 24・25 回】(尾立)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際災害支援活動における看護マネジメント（講義、机上シミュレーション／遠隔 by TV） <p>【第 26・27 回】(杉浦、駒形)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外での感染症アウトブレイクへの保健医療対応（講義、机上シミュレーション／遠隔 by TV） <p>【第 28・29 回】(選定中、駒形)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内での大規模災害における行政への支援（講義、机上シミュレーション／遠隔 by TV） <p>【第 30 回】(佐々木、駒形)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終ディスカッションとまとめ（遠隔 by TV）
テキスト	指定なし
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・日本集団災害医学会（2015）.DMAT 標準テキスト増補版、へるす出版. ・日本外傷学会（2012）. 外傷初期診療ガイドライン-JATEC 改訂第 4 版、へるす出版. ・JPTEC 協議会（2010）. JPTEC ガイドブック、へるす出版. ・International disaster nursing / edited by Robert Powers and Elaine Daily; Cambridge University Press, 2010.
成績評価	授業への参加姿勢 30%、プレゼンテーション 50%、課題レポート 20%
履修上の注意・履修要件	シミュレーションについては、受講生のレディネスに応じて目標設定する。
備考	授業の内容・スケジュールは変更になることがある。

授業科目名	災害看護活動論演習Ⅱ Disaster Nursing Seminar Ⅱ	必修の区分	必修
授業コード	118	開講年次	1
単位数	2	期別	後期
授業種別	演習	授業方法	遠隔授業
講師名	増野園恵、佐々木美絵、 小西美和子、千葉理恵、 DNGL5 大学 SimPT メンバー	所属	兵庫県立大学 DNGL 構成 5 大学
オフィスワーカー・場所	随時アポイントメント	連絡先	sonoe_mashino@cnas.u-hyogo.ac.jp miwako_konishi@cnas.u-hyogo.ac.jp rie_chiba@cnas.u-hyogo.ac.jp
講義目的及び到達目標	<p><u>講義目的</u></p> <p>災害中・長期における被災者並びに被災地域の生活と健康状態の査定を行い、個や地域にとって必要なケア提供を検討する。また平常時の医療機関や地域における災害への備えについて、行政や医療機関、住民組織、ボランティアグループ等との連携調整を学び、政策提言できる能力を養う。</p> <p><u>到達目標</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 過去の災害事例から、災害中・長期における被災者並びに被災地域の生活と健康の課題、これらの課題を査定する視点を明らかにできる。 2. 被災後の仮設住宅における被災者の健康状態を査定し、必要なケアが検討できる。 3. 災害中・長期における被災地域の健康課題に対して、他の機関／団体との連携調整の具体的方策を検討し提案できる。 4. 災害時の人々の健康維持の観点から、地域の災害への備えに向けた具体的な施策提言を提案できる。 		
講義内容・授業計画	<p>【第1回】オリエンテーション（増野・佐々木）</p> <p>【第2回】災害中・長期における生活と健康の課題の概観（増野・佐々木）</p> <p>【第3-4回】災害中・長期における健康課題と看護実践 ：災害とこころのケア（千葉）</p> <p>【第5-10回】災害中・長期における生活と健康の課題（増野・佐々木） ＜学生によるプレゼンテーションとディスカッション＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生は災害中・長期における被災者・被災地域の生活と健康の課題について、関心のある事象・テーマを1つ選択し、過去の災害事例等からその具体的な状況、背景・関連要因等を整理し、プレゼンテーションする。 ・ 各学生からのプレゼンテーションをもとにしながら、それぞれの事象・テーマについて、被災者・被災地域の生活と健康課題の査定の視点やポイントについて、クラス全体でディスカッションを行い、理解を深める。 <p>【第11-13回】被災地域の健康課題の査定におけるデータ活用（佐々木）</p> <p>【第14-18回】災害後の個の健康状態の査定と必要なケア（増野・小西）</p> <p>第14回：シミュレーションの導入</p> <p>第15-17回：遠隔シミュレーション『仮設住宅における対応』 (5 大学 Sim 開発 PT の教員・技術者)</p>		

	<p>第 18 回：仮設住宅等で生活する被災者への支援、他機関等との連携</p> <p>【第 19-21 回】災害中・長期における組織間連携（増野・佐々木）</p> <p>第 19 回：災害対応に関わる代表的な組織・機関</p> <p>第 20-21 回：組織間の連携調整（事例検討）</p> <p>【第 22-24 回】災害マネジメントにおけるリーダーシップ（増野）</p> <p>第 22 回：災害における効果的なリーダーシップ</p> <p>第 23-24 回：リーダーシップスキルの向上（ワークショップ）</p> <p>【第 25-30 回】地域の災害への備え（増野・佐々木）</p> <p>第 25-26 回：災害時の人々の健康維持の観点からの備え（事例検討）</p> <p>第 27-29 回：新たな備えの取り組みに向けた具体案の作成・提案 （グループワーク）</p> <p>第 30 回：地域の災害への備えに向けた施策提言に向けて（発表）</p>
テキスト	随時提示
参考文献	随時提示
成績評価	授業への参加姿勢（ディスカッション等での発言の積極性など） 30% プレゼンテーション 40%、レポート 30% で総合的に評価する
履修上の注意・履修要件	特になし
備考	授業スケジュールは変更になることがあります。

授業科目名	災害時専門職連携演習 (災害 IP 演習) Disaster Inter-Professional Collaboration Exercise (Disaster IP Exercise)	必修の区分	選択
授業コード	119	開講年次	1
単位数	2	期別	後期
授業種別	演習	授業方法	オリエンテーション： 遠隔(10月) 情報収集・課題学習・グループ ワーク： 遠隔(10月-3月) 集中・集合教育： (3日間連続、3月上旬)
講師名	酒井郁子、近藤昭彦、岩崎寛	所属	千葉大学大学院看護学研究科、 千葉大学環境リモートセンシン グ研究センター、千葉大学園芸 学研究科
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	ikusakai@faculty.chiba-u.jp
講義目的及び到達目標	<p>【講義目的】 災害の種類及び局面に応じた被災者中心の専門職連携を実践できる能力を獲得する。(共同・オムニバス方式/全30回)</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職連携に関する理論や知見をもとに災害の種類及び局面ごとに必要となる IPW の類型を理解できる。 ・災害時専門職連携を行う際に必要となる態度およびコミュニケーションスキルを理解し実際に行うための自己の課題を明らかにできる。 ・災害時に必要となる多機関との交渉、自組織の連携実践の構築、運営を行う力および評価・改善する能力を理解しシミュレーションで実践できる。 		
講義内容・授業計画	<p>【ねらい】 災害の種類や局面に応じ、IPW (interprofessional work) が実践できるようになるための態度、知識、思考力、行動力を養う。発災から復旧・復興に至る過程生じる様々な課題に対して、複数の専門分野の教員が協働指導のもと、複数の専門分野の大学院生がチームを組み、連携協働して成果を産出していく実践型授業により、専門職連携実践能力の向上をねらう。</p> <p>【学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月1-2回(担当：酒井郁子) 演習オリエンテーション、ケースの説明およびグループ分けと分担の決定 課題提示および見学先決定のうえ、グループごとに課題学習計画を立案。 ・10月-1月 3-15回(担当：酒井郁子、近藤昭彦、岩崎寛) A 発災時、B 復興期、それぞれのケースについて、多角的な情報の分析のために必要な情報収集を行うとともに発災時の意思決定および復興期の合意形成に関する知識とスキルを理解する。 ・2018年2-3月 16-30回(担当：酒井郁子、近藤昭彦、岩崎寛) 災害の局面ごとに状況設定型図上演習を行う。デブリーフィング教員、協力者からのフィードバックをもとに被災者中心の災害時専門職連携、災害支援時の自己の IP 実践能力および所属組織やチームのパフォーマンス改善のた 		

	めの課題を明らかにする。この集中・集合演習の日程は時間割で指示する。
テキスト	特になし
参考文献	特になし
成績評価	グループワークへの参加度(学習内容をもとに、積極的に議論に参加しチームメンバーと協働する)50%、プレゼンテーション(多職種チームで意見をまとめ、皆が理解できる表現・方法で発表する)30%、最終レポート20%
履修上の注意・履修要件	専門職連携実践論(1年前期)を合わせて履修しておくことが望ましい。
備考	特になし

授業科目名	災害看護グローバルリーダー 演習 Disaster Nursing Global Leader Seminar	必修の区分	選択
授業コード	209	開講年次	2
単位数	2	期別	前期
授業種別	演習	授業方法	遠隔
講師名	田村 由美、内木 美恵 小原真理子	所属	日本赤十字看護大学 非常勤講師
オフィスアワー・場所	毎授業後 1 時間・601 教室または 教員研究室	連絡先	y-tamura@redcross.ac.jp m-naiki@redcross.ac.jp
講義目的及び到達目標	<p>【講義目的】</p> <p>本科目は、過去の国内外の大規模災害や複合災害事例を素材として、災害特性や地域特性のデータ分析、実際の支援とその評価方法を学び、グローバルリーダーとしての対応能力を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>仮想事例の中で自身のコーディネーション力、コラボレーション力、ネゴシエーション力、ポリシーメイキングの力を、パフォーマンス(行動)で示すことができる。</p>		
講義内容・授業計画	<p>【ねらい】</p> <p>オムニバス形式（全 30 回）の演習展開の中で、上記グローバルリーダーに必要な能力開発をふまえたシナリオ、課題、デブリーフィングを体験的に学ぶ。</p> <p>【学習内容】</p> <p>①② オリエンテーション、災害対応とリーダーシップ(田村)</p> <p>③④⑤ 事例から病院マネージメントを検討する(内木)</p> <p>⑥⑦⑧ 事例から救援組織のマネージメントを検討する(内木)</p> <p>⑨⑩⑪ 事例から災害支援組織化とそのマネージメントを検討する(内木)</p> <p>⑫⑬⑭ 事例から海外の紛争地または災害地でのマネージメントを検討する(内木)</p> <p>⑮⑯⑰ 国際的な災害対応事例から IPW の視点でグローバルリーダーの行動を検討する (田村)</p> <p>⑱⑲ 避難所の立ち上げと運営およびリーダーの役割、トイレの管理(小原)</p> <p>⑳㉑ 避難所における災害時要配慮者の部屋割りマネージメント (小原)</p> <p>㉒㉓㉔ 急性期医療現場におけるコマンドシステムの構築とリーダーの役割Ⅰ (小原)</p> <p>㉕㉖㉗ 急性期医療現場におけるコマンドシステムの構築とリーダーの役割Ⅱ (小原)</p> <p>㉘㉙㉚ 学生プレゼンテーション (田村・内木)</p>		
テキスト	なし		
参考文献	なし、必要資料は適宜提示、配布する		
成績評価	参加度 10%、演習課題の発表 30%、課題レポート (各教員 20%)		
履修上の注意・履修要件	看護管理の基礎知識が必要です。シナリオベースの事例検討です。求められる能力開発について自己の強みと弱みを理解して、積極的に課題に取り		

	組むことを期待します。
備考	学習の進捗状況を見て授業の順序を変更することがある。

授業科目名	インディペンデントスタディ（演習）A Independent Study A	必修の区分	選択
授業コード	120	開講年次	1
単位数	1	期別	後期
授業種別	演習	授業方法	セミナー及びフィールドワーク
講師名	神原咲子・中山洋子 南裕子	所属	高知県立大学
オフィスアワー・場所	メール	連絡先	kanbara@cc.u-kochi.ac.jp
目的及び到達目標	<p>【目的】災害看護学領域の現象をとりあげ、その現象に関連するこれまでに蓄積されてきている研究や情報を収集、分析し、それを活用して災害対策や減災計画を立てていくことができる基礎的な能力を修得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. とりあげた現象に関する情報や文献（資料を含む）を収集する方法を修得する。 2. 収集したこれまでの研究や情報の蓄積を分析する方法を修得する。 3. 分析した情報をどのように使って災害対策や減災計画を立てていくのか、そのプロセスを理解する。 4. 産官学の関連機関との連携のあり方、看護職の役割について理解する。 5. 実際のフィールドワークをと通してリーダーとしての役割について学ぶとともに、リーダーの役割が担える能力を養う。 		
講義内容・授業計画	<p>学生の関心ある現象を取り上げ、教員と目的・内容・展開方法等を相談し、計画する。演習は3人の教員が共同ですすめていくが、取り組むテーマによって主たる担当教員を学生と話し合って決める。</p> <p>【演習のテーマの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々、家族、組織における減災計画の立案 ・脆弱性を有する人々の避難所での生活をサポートするシステムの構築 ・災害が人々の精神的健康に及ぼす影響の分析と支援システムの構築 ・異なる国や文化における災害・被災の捉え方の違いを理解しての支援準備 <p>【学習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回：取り上げる災害状況の分析 2回～3回：情報・文献収集とその分析 4回～5回：フィールドワーク 7回～9回：災害対策や援助方法、減災計画の立案 9回～13回：フィールドワーク（産官学連携を含む） 14回～15回：学生が立案した災害対策や援助方法、減災計画の評価と看護職の役割についての検討 		
テキスト	学生のテーマに合わせて適宜、提示する。		
参考文献	学生のテーマに合わせて適宜、提示する。		
成績評価	プレゼンテーション、レポート、フィールドワークの展開内容等を総合的に評価する。		
履修上の注意・履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業科目名	インディペンデントスタディ（演習）B Independent Study B	必修の区分	選択
授業コード	121	開講年次	1
単位数	1	期別	後期
授業種別	演習	授業方法	対面
講師名	増野園恵、梅田麻希 佐々木美絵	所属	兵庫県立大学
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	sonoe_mashino@cnas.u-hyogo.ac.jp
講義目的及び到達目標	<p>【講義目的】 この科目は、学生が情報収集・分析・統合する方法を含めて、研究に必要な学習を展開することを通して、災害看護領域でさらに深めたい領域を見出すことを目的としている。</p> <p>【到達目標】</p> <p>学生は、自己の関心領域における既存の知識を系統的に探究し、批判的に検討し、新たな知識等と統合し、論理的に論述することができる。</p>		
講義内容・授業計画	<p>本演習は、学生の関心のある現象をもとに、教員と目的・内容・展開方法等を相談し計画する。学生の関心領域に応じて、演習形態は文献検索・フィールドワーク・インターンシップ等を含める。</p> <p>【 1 回】オリエンテーション</p> <p>学生の関心領域／現象・テーマを検討する。</p> <p>【2-3 回】 演習で取り組むテーマを決定し、取り組みの目的・内容・実施方法を定め、計画書を作成する。</p> <p>【4-10 回】 文献検討</p> <p>系統的な文献検索を行い、文献を批判的に検討し、知見を系統的に整理する。</p> <p>フィールドワーク（学生のテーマによっては、フィールドワークやヒアリングなども計画・実施する）</p> <p>【11-14 回】 関心領域の知見を分析・統合しその結果を論述してまとめ</p> <p>【 15 回】 まとめた内容を発表し、他の学生と建設的に討議する。</p>		
テキスト	随時提示		
参考文献	学生の必要に応じ提示		
成績評価	全過程における課題に対する取り組み資料、ならびにレポート		
履修上の注意・履修要件	なし		
備考	なし		

授業科目名	インディペンデントスタディ（演習）C Independent Study (seminar) C	必修の区分	選択
授業コード	122	開講年次	1
単位数	1	期別	後期
授業種別	演習	授業方法	対面授業
講師名	佐々木 吉子、駒形 朋子	所属	東京医科歯科大学
オフィスアワー・場所	アポイントメント（随時）	連絡先	y-sasaki.dn@tmd.ac.jp
講義目的及び到達目標	<p><u>授業目的</u> 学生にとって関心のある災害看護領域において、過去の被害や対応事例、防災・減災対策の現状について、文献からの情報を分析し、多様な組織や個人の災害対策や対応に関するニーズと問題点について検討する。これらの分析、考察を通して災害看護の実践や研究上の課題を見出し、災害看護グローバルリーダーとしての基礎的能力を養う。</p> <p><u>到達目標</u> 1. 国内外において過去に起こった大災害での対応事例や、今後予想されている災害への備えの現状等について情報収集、分析を行い、多様な組織や個人のニーズと問題点の抽出ができる。 2. 新たな災害関連ケア提供システムの構築に向けた実践や研究上の課題について述べることができる。</p>		
講義内容・授業計画	<p><u>学習内容</u> 【第1回】オリエンテーション、テーマの確認とプランニング（佐々木） 【第2-11回】情報収集と分析（佐々木、駒形） ・国内外の災害の過去事例や、今後の災害への備えに関する文献の分析を行い、多様な組織や個人のニーズと問題点について整理する。 ・災害拠点病院の災害対策会議や地域の自主防災組織等の活動等に参加し組織における防災・減災への取り組みや多職種連携の現状を理解する。 ・必要に応じて、災害に対する自治体、医療機関、企業における備えの現状や課題を把握する（視察・ヒアリング） ・情報の解釈や理解を深めるために、適宜専門家への相談を行う。 【第12-13回】情報の統合とディスカッション（佐々木、駒形） 【第14-15回】成果発表（佐々木、駒形） ・文献検討のまとめ ・新たな災害関連ケア提供システムの構築に向けた実践や研究上の課題</p>		
テキスト	別途提示する		
参考文献	別途提示する		
成績評価	学習姿勢 70%、レポート 30%		
履修上の注意・履修要件	授業日時については、別途提示する		
備考	内容やスケジュールは必要に応じて変更する場合がある		

授業科目名	インディペンデントスタディ（演習）D Independent Study D	必修の区分	選択
授業コード	123	開講年次	1
単位数	1	期別	後期
授業種別	演習	授業方法	対面
講師名	岩崎 弥生 伊藤 尚子	所属	千葉大学大学院看護学研究科
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	yiwasaki@faculty.chiba-u.jp tito@chiba-u.jp
講義目的及び到達目標	<p>【目的】災害看護の実践に関する研究成果や理論を統合し、災害看護実践のあり方について「人間の安全保障」及びリーダーシップの視点を含めて検討する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>(1) 文献検討及びフィールドワーク（またはインターンシップ）をとおして、災害看護の実践に関する事象や情報を探究・分析・統合し、系統立ててまとめる。</p> <p>(2) 災害看護の実践について「人間の安全保障」及びリーダーシップの観点から検討する。</p>		
講義内容・授業計画	<p>【1～5 回】学生は、指導教員と相談しながら、災害看護の実践に関する課題を明瞭化し、課題解決に向けた文献検討とフィールドワーク（またはインターンシップ）の計画を立て、計画書にまとめる。</p> <p>計画書には、次の項目を含める。①タイトル、②取り組みたい課題とその背景、③文献検討及びフィールドワーク（またはインターンシップ）の目的、目標、④目標を達成するための具体的な方法、⑤フィールドワーク（またはインターンシップ）の依頼状等、⑥目標達成の行程表、⑦中間報告およびスーパービジョンのスケジュール、⑧報告書の発表および提出スケジュール、⑨自己学習の評価方法、⑩引用文献リスト。</p> <p>※ 計画書の章立て等は研究計画書に準じる。</p> <p>※ 学生は、学習を進める過程においてリサーチクエスチョンを明確にし、主要な概念の分析を行い、概念枠組を構築する。</p> <p>※ 教員は適時、文献レビュー、概念分析、情報の分析と統合、論文の作成等に関して助言する。</p> <p>【6～14 回】学生は計画に基づき文献検討とフィールドワーク（またはインターンシップ）を進め、災害看護の実践に関する情報や事象を探究・分析・統合し、系統立てて報告書にまとめる。</p> <p>※ 教員は適時、文献検討およびフィールドワークの進め方について相談に乗り、必要な指導を行なう。</p> <p>【15 回】学生は、文献検討及びフィールドワーク（またはインターンシップ）の成果と災害看護実践上の示唆をレポートにまとめる。また、災害看護実践のあり方について「人間の安全保障」及びリーダーシップの視点を含めて発表、討議する。</p>		
テキスト	<p>Gray JR, Grove SK, & Sutherland S (2016) Burns and Grove's The Practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence (8th ed). Elsevier.</p> <p>Veenema TG (2013) Disaster nursing and emergency preparedness: for chemical, biological, and radiological terrorism and other hazards (3rd ed). Springer.</p> <p>Walker LO & Avant KC (2004) Strategies for Theory Construction in Nursing. Prentice</p>		

	Hall.
参考文献	American Psychological Association. Publication Manual of the American Psychological Association. The Sphere Handbook 2018 -- Draft 2. http://www.sphereproject.org/handbook/revision-sphere-handbook/draft-ready-for-feedback/#download
成績評価	学習目標に照らして、自己学習の計画、実施、報告、発表の内容を評価する。
履修上の注意・履修要件	なし
備考	なし

授業科目名	インディペンデントスタディ（演習） E Independent Study E	必修の区分	選択
授業コード	124	開講年次	1
単位数	1	期別	後期
授業種別	演習	授業方法	対面
講師名	内木 美恵 田村 由美	所属	日本赤十字看護大学看護学研究科
オフィスアワー・場所	毎授業後の 1 時間・601 教室	連絡先	y-tamura@redcross.ac.jp m-naiki@redcross.ac.jp
講義目的及び到達目標	<p>【講義目的】 災害看護グローバルリーダーに必要な能力（知識、スキル、態度）を養うために、災害看護におけるグローバルな重要課題を文献、フィールドワーク等から明らかにし、特に被災者の健康問題とケアのマネジメントについて探求する。</p> <p>【到達目標】 過去の国内外の災害看護実践報告・研究等ならびにフィールドワーク等から、被災者の健康と暮らしの課題についてのマネジメントを批判的に分析できる。</p>		
講義内容・授業計画	<p>【ねらい】 様々な組織・機関が公表している過去の災害看護実践報告や研究報告（映像を含む）を批判的レビューする。また、フィールドワークの経験を通して、予測される災害に備えて提案できる能力を養う。</p> <p>【学習内容】 演習の目的、内容、展開方法は指導教授との相談し計画する。演習は、教授のスーパービジョンを受けながら進行する。 学生は、次の事柄について計画・実施する：</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 演習の目的設定（第 1 回～2 回） ② 対象とする災害報告書・研究論文等（動画や VTR・DVD 等も含む）の共有（第 3 回～5 回） ③ 分析視点の設定（第 6 回～7 回） ④ 検討（フィールドワークや短期インターンシップも含む）（第 8 回～11 回） ⑤ 分析、検討結果をプレゼンテーションする（第 12 回～13 回） ⑥ 演習課題成果の共有（小論文 6000 字程度）（第 14 回～15 回） 		
テキスト	なし		
参考文献	なし		
成績評価	授業の準備状況（20%）、小論文（80%）		
履修上の注意・履修要件	フィールドワークや短期インターンシップ先は学生主体で選択・依頼等手続きを行うことになるので、自己学習を含め積極的な参加を期待する。		
備考	なし		

授業科目名	災害看護学実習 I Disaster Nursing Practicum I	必修の区分	必修
授業コード	210	開講年次	2
単位数	2	期別	前期
授業種別	実習	授業方法	実習
講師名	増野園恵、佐々木美絵	所属	兵庫県立大学
オフィスアワー・場所	事前アポイント	連絡先	sonoe_mashino@cnas.u-hyogo.ac.jp
講義目的及び到達目標	<p>【目的】</p> <p>災害後の中・長期的な時期における災害サバイバーの生活と健康問題/健康課題を理解し、必要なケアを提供する。この過程において、関連職種等との連携・調整も学ぶ。また、実習を行う地区/地域における人々の生活と健康問題/健康課題の解決に向けて必要な体制/システムを検討する。本実習で実施したケア・連携・調整・システム構築等の評価も試みる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 災害後の中・長期的な時期におけるサバイバーの生活と健康問題/健康課題を理解する。</p> <p>② 災害中・長期におけるサバイバーや被災地区等における生活・健康問題/健康課題に対する査定力、必要なケアを計画し提供する実践力、関連職種等との連携力や調整力を学ぶ。</p> <p>③ 専門職として実施したケアを評価する。</p>		
講義内容・授業計画	<p>A 実習計画（実習の進め方）</p> <p>1. 実習は 2 週間の予定であり、事前学習、実習オリエンテーション、最終カンファレンス、記録等の時間を含んでいる。</p> <p>2. 実習地域の特徴を事前に調べ、その時の人口動態・健康状態等の基礎情報を得る。</p> <p>3. 実習中は、日々の実習記録を記載する。書式は自由であるが、活動内容、生活や健康問題/健康課題に関する情報、査定、それに基づく計画、実施等を含めること。</p> <p>B 実習内容・方法</p> <p>1) 本実習は災害後の中・長期に焦点をあてている。</p> <p>2) 実習場所において、家庭訪問や健康相談等を通して、あるいはイベント等があればそれに参加しながら、生活状況や被災地における人々やその地域を集団としての健康問題/課題を明らかにする。</p> <p>3) 健康ニーズに沿って、個或いは地域等を対象としてケアを提供する。その際、地域住民や関係者と連携・調整・相談等も行う。</p> <p>4) 実習中は、教員や現地の看護職と相談し合い、支援を受けること。また実習の進捗状況、疑問点、倫理的課題等についても随時相談をすること。</p> <p>5) 実習レポートは、事例レポートとする（この事例とは、個人或いは地域等集団もさしている）。</p> <p>C 実習場所</p> <p>国内の被災地域（仮設住宅等を含む）で、具体的には後日提示</p>		
テキスト	適時提示		
参考文献	適時提示		

成績評価	企画・実施・評価についてまとめ、実習レポートとして提出する。実習への取り組み（30%）と実習レポート（70%）で評価する。
履修上の注意・履修要件	学生個人の課題／実習目標や実習フィールドの特徴によって、実習地での活動の時期・時間が異なる場合が生じる。学生は教員とともに定めた到達目標に合わせて、実習時間を確保する。
備考	なし

授業科目名	災害看護学実習Ⅱ Disaster Nursing Practicum Ⅱ	必修の区分	必修
授業コード	401	開講年次	4
単位数	2	期別	前期
授業種別	実習	授業方法	実習
講師名	田村 由美 内木 美恵	所属	日本赤十字看護大学看護学研究科
オフィスアワー・場所	Email	連絡先	y-tamura@redcross.ac.jp m-naiki@redcross.ac.jp
講義目的及び到達目標	<p>【講義目的】</p> <p>災害時あるいは備えにおける国際機関の活動について、当該国や地域の文化や規範を尊重しつつ、減災対策や人的資源開発の実施支援等の実際を学ぶことを通して、グローバルリーダーに必要なマネジメント能力を開発する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 実習施設である国際機関や施設における災害対応の実際と課題を知る。</p> <p>② 災害対応に関わる国際機関や被災地実習施設の地域の文化や規範を尊重した、被災者の健康を守る活動をマネジメントする具体的な方略および実施上の困難について知る。</p> <p>③ 当該実習機関や施設が行っている（行った）災害時の被災者支援における他国の組織を含む健康と生活支援に関する事象・事例を取り上げ、関係者との話し合いを設定・実施し、話し合いの内容、課題解決策や提言等を報告文書にすることができる。</p> <p>④ 上記③を通して、自己のネゴシエーション、コーディネーション、コラボレーション、ポリシーメイキング等のマネジメントスキルについて、批判的に分析できる。</p>		
講義内容・授業計画	<p>【学習概要】</p> <p>1) 実習期間：平成 29 年 6 月～9 月末までに実施する。</p> <p>2) 実習施設・機関は、国内外の災害対応組織等とする。</p> <p>3) 現地の災害マネジメント責任者やカウンターパート（実習施設・機関の担当者）のもとで実習を進める。</p> <p>4) 原則として、実習時間は、実習施設・機関の開所時間に従う。</p> <p>5) 実習計画を立てて実習施設・機関と交渉し、時に柔軟に計画を変更するなどして進める。</p> <p>6) 国内外を問わず、実習最終日には実習受け入れ施設・機関の担当者との振り返りを行う（学びの発表をする機会を持つ）</p> <p>8) 履修学生全員の実習終了後、学びの公表と共有のために実習報告会を実施する。</p> <p>9) 実習経費は、学生個々が所属する本籍大学が負担する。</p> <p>【実習内容・方法】</p> <p>1) 実習施設・機関の概要、災害関連の事業や活動についてのレポートを作成する。（事前学習）</p> <p>2) 実習施設・機関における災害マネジメントの事例の一つ取り上げて、分析して課題の明確化と改善案を提示する。（実習中、到達目標 3 に相当）</p> <p>3) 上記 2) についてプレゼンテーションやディスカッションの機会を設け、フィードバックを得て、報告書を作成する。（実習中、到達目標 3 に相</p>		

	<p>当)</p> <p>4) 実習中は自らカウンターパートである実習施設・機関の担当者や教員に目標達成の助言を得る。</p> <p>5) 毎日実習の終わりに、担当者の出席を得て短い振り返りの時間を持つ。</p> <p>6) 日々の実習において、到達目標、個人の目標を達成していくための活動を計画的に行い、実習記録を書く。実習記録の書式は自由だが、活動内容についてリフレクティブに記述する。</p> <p>7) 日々、身の安全（健康管理を含む）に留意し行動する。</p> <p>【実習中の学生の安全確保について】（安全の手引き）</p> <p>・DNGLの安全管理について、規定の手続きを取る他に、自大学の安全管理に関する規定を遵守すること。特に海外の場合は、双方の安全管理の基準を遵守すること（実習期間中は、学生の本籍大学で担当者を明確にし、科目責任者と密に連携をとれるようにしておくこと）。</p> <p>*詳細については4月中に説明会を行う。</p>
テキスト	なし
参考文献	なし
成績評価	実習への取り組み(50%)、プレゼンテーション(30%)、実習レポート(20%)
履修上の注意・履修要件	実習計画、実習先との連絡や調整等は学生主体で手続きを行うことになるので、自己学習を含め積極的な参加を期待する。
備考	なし

授業科目名	インディペンデントスタディ（実習）A Independent Study Practicum A	必修の区分	選択
授業コード	402	開講年次	4
単位数	1	期別	前期
授業種別	実習	授業方法	フィールドワーク
講師名	神原咲子・中山洋子・南裕子	所属	高知県立大学
オフィスアワー・場所	メール	連絡先	kanbara@cc.u-kochi.ac.jp nakayama@cc.u-kochi.ac.jp minami@cc.u-kochi.ac.jp
目的及び到達目標	<p>【目的】防災・減災あるいは被災地の支援・復興にかかわる活動に参加し、実際にかかわることを通して、災害看護グローバルリーダーに求められる情報収集能力、状況把握・分析能力、産官学との連携能力、災害状況におけるマネジメント・支援能力、コーディネーションおよびコンサルテーション能力、政策提言能力等の修得をめざす。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 参加することができる災害関連の活動について、そこで問題になっていることや住民および関連機関・関係者のニーズを、文献・資料のみならず、住民や関係機関・関係者等と話し合いながら把握し、状況の分析を行うことができる。 2. 活動現場にコミットメントしながら、課題を明らかにし、課題解決に向けた提案や動きを関係機関・関係者等と協働して検討することができる。可能な場合には、課題解決に向けて実践する。 		
内容・授業計画	<p>本実習は、学生の関心のある災害関連の現象や課題をもとに、目的・内容・展開方法等を相談し計画する。例えば、地域の個人・家族・組織における防災・減災、脆弱性を有する人々の避難や避難所での生活、災害が人々の精神的健康に及ぼす影響、被災地の中長期支援と復興、支援する看護職等の教育訓練等について、実際に国内外の現場に入って実習する。</p> <p>実習方法は、産官学の関連機関、行政や民間組織、病院等の施設におけるフィールドワーク（インターンシップを含む）とする。</p>		
テキスト	なし		
参考文献	必要に応じて提示する。		
成績評価	レポート、フィールドワークの展開内容等を総合的に評価する。		
履修上の注意・履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業科目名	インディペンデントスタディ（実習）B Independent Study Practicum B	必修の区分	選択
授業コード	403	開講年次	4
単位数	1	期別	前期
授業種別	実習	授業方法	フィールドワーク
講師名	増野園恵、梅田麻希 佐々木美絵	所属	兵庫県立大学
オフィスアワー・場所	メール	連絡先	sonoe_mashino@cnas.u-hyogo.ac.jp
目的及び到達目標	<p>【目的】</p> <p>学生の関心や課題をもとに、強化が必要な能力の向上が可能となるように実習課題を設定し、看護専門職として防災・減災あるいは災害への対応、中長期的な復興等への取り組みの実践活動を通し、災害看護グローバルリーダーとなるために必要な能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の学習課題を明確にし、課題に沿った災害看護の実践における実習を計画することができる。 2. 計画に沿った実践活動を関係者・機関との連携・協働を通して遂行できる。 3. 実習を通して、自己の災害看護分野の関心領域について理解を深めることができる。 4. 実習遂行により強化・向上できた能力を、根拠をもって説明できる。 		
内容・授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の関心や課題を元に、実習の目的・内容・展開方法等を教員と相談し、実習計画を立案する。 2. 教員の支援を受けながら、実習場所を確定する。この過程で交渉や調整についても学ぶ。 3. 実習計画に沿って、実践の場で活動を展開する。活動は、実習場所の関係者や教員からスーパーバイズを受けつつ行う。 4. 自己の活動およびその成果を評価し、実習場所の関係者等に報告する。 		
テキスト	なし		
参考文献	必要に応じて提示する。		
成績評価	レポート、実習の展開内容等を総合的に評価する。		
履修上の注意・履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業科目名	インディペンデントスタディ（実習）C Independent Study Practicum C	必修の区分	選択
授業コード	404	開講年次	4
単位数	1	期別	前期
授業種別	実習	授業方法	実習
講師名	佐々木 吉子、駒形 朋子	所属	東京医科歯科大学
オフィスアワー・場所	アポイントメント(随時)	連絡先	y-sasaki.dn@tmd.ac.jp
講義目的及び到達目標	<u>授業目的</u> 学生にとって関心のある災害看護領域において、これまでの学習や研究を通して見出した災害看護の実践や研究上の課題について、より深い探究や介入を行うことを目標としてフィールドワークを行い、災害看護グローバルリーダーとしての能力を養う。 <u>到達目標</u> 1. 対象とする組織、個人の災害看護のニーズや問題点について、関係者との関係を構築し議論しながら課題の整理ができる。 2. 課題に対して、関係者と協働しながら、具体的な看護実践もしくは研究活動ができる。		
講義内容・授業計画	<u>学習内容</u> 1. オリエンテーション、テーマの確認とプランニング（佐々木、駒形） 2. フィールドワークに関する事前学習と具体的な計画立案 3. フィールドワークに関する学内ディスカッション 4. フィールドワークの実施 ・対象組織の関係者との関係構築 ・関係者への活動に関する説明、相談、交渉 ・調査、介入等の実施 ・評価 5. 成果と当該看護領域における提言（レポート）		
テキスト	適宜紹介する		
参考文献	適宜紹介する		
成績評価	学習姿勢 70%、レポート 30%		
履修上の注意・履修要件	内容やスケジュールは変更する場合がある。		
備考	フィールドワークの時期と期間については、個別に設定する。		

授業科目名	インディペンデントスタディ (実習) D Independent Study Practicum D	必修の区分	選択
授業コード	405	開講年次	4
単位数	1	期別	前期
授業種別	実習	授業方法	対面
講師名	岩崎 弥生 伊藤 尚子	所属	千葉大学大学院看護学研究科
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	yiwasaki@faculty.chiba-u.jp tito@chiba-u.jp
講義目的及び到達目標	<p>【目的】国内外の機関におけるインターンシップ（またはフィールドワーク）をととして、防災・復興・人道支援等に関する政策策定能力、グローバルリーダーとしての能力、あるいは産官学連携に求められる能力を開発する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>(1) 災害看護のグローバルリーダーとして自身が伸ばしたい能力を明瞭にして、当該能力の育成に適した機関において防災・復興・人道支援等に係るインターンシップ（またはフィールドワーク）を計画、実施する。</p> <p>(2) インターンシップ（またはフィールドワーク）をととして得られた経験と能力を分析、統合、評価し、災害マネジメントにおける看護リーダーの役割を検討する。</p>		
講義内容・授業計画	<p>【1～5 回】学生は、指導教員と相談しながら、災害看護のグローバルリーダーとして自身が開発したい能力を明瞭化し、インターンシップ（またはフィールドワーク）の計画を立て、計画書にまとめる。</p> <p>計画書には、次の項目を含める。①タイトル、②伸ばしたい能力とその理由、③インターンシップ（またはフィールドワーク）の目的、目標、④インターンシップの場所と期間、⑤目標を達成するための具体的な方法、⑥インターンシップ（またはフィールドワーク）の依頼状等、⑦目標達成の行程表、⑧中間報告及びスーパービジョンのスケジュール、⑨報告書の発表及び提出スケジュール、⑩自己学習の評価方法、⑪引用文献リスト。</p> <p>計画書の章立て等は企画書やインターンシップ計画書等に準じる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>インターンシップの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災計画や復興計画の策定への参画 ・ 学際的なチームによる防災や復興に係る事業の計画・実施・評価 ・ 住民や行政との協働、連携による防災の町づくり ・ 病院、学校などとの連携による防災訓練の計画、実施、評価 </div> <p>【6～14 回】学生は計画にインターンシップ（またはフィールドワーク）を進め、日々の活動と経験を内省的に記録する。</p> <p>※ 教員は適時、インターンシップ（またはフィールドワーク）に関する相談に乗り、必要な指導を行なう。</p> <p>【15 回】学生は、インターンシップ（またはフィールドワーク）をととして得られた経験及び能力を報告書にまとめ、評価し、災害マネジメントにおける看護リーダーの役割を検討する。</p>		
テキスト	<p>Gray JR, Grove SK, & Sutherland S (2016) Burns and Grove's The Practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence (8th ed). Elsevier.</p> <p>University of Cambridge Institute for Sustainability Leadership (2017) Global definitions of leadership and theories of leadership development: Literature review.</p>		

	https://www.britishcouncil.org/sites/default/files/final_leadership_literature_review.pdf 内島典子（2012）産学連携の現状に対する課題認識．産学連携学， https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjsip/9/1/9_1_27/_pdf/-char/en
参考文献	Sendai Framework for Disaster Risk Reduction 2015-2030 http://www.unisdr.org/we/inform/publications/43291 United Nations Plan of Action on Disaster Risk Reduction for Resilience http://www.preventionweb.net/files/49076_unplanofaction.pdf Incident Command System (ICS) https://training.fema.gov/emiweb/is/icsresource/assets/reviewmaterials.pdf
成績評価	学習目標に照らして、自己学習の計画、実施、報告、発表の内容を評価する。
履修上の注意・履修要件	なし
備考	なし

授業科目名	インディペンデントスタディ（実習） E Independent Study Practicum E	必修の区分	選択
授業コード	406	開講年次	4
単位数	1	期別	前期
授業種別	フィールドワーク	授業方法	対面
講師名	内木 美恵 田村 由美	所属	日本赤十字看護大学看護学研究科
オフィスアワー・場所	Email	連絡先	y-tamura@redcross.ac.jp m-naiki@redcross.ac.jp
講義目的及び到達目標	<p>【講義目的】 災害看護グローバルリーダーに必要な能力（知識、スキル、態度）を養うために、災害看護におけるグローバルな重要課題を、文献、フィールドワーク等から明らかにし、特に被災者の健康問題とケアのマネジメントについて探求する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 過去の国内外の災害看護実践報告。研究ならびにフィールドワーク等から、被災者の健康や暮らしの課題についてのマネジメントを批判的に検討することができる。 2. 上記1の学びを通して、自己の災害看護実践向上につなげる方略を見出すことができる。 3. 自己の課題や疑問、関心のある現象に関して探求するための方法を具体化することができる。 		
講義内容・授業計画	<p>【学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の目的、展開方法は指導教員と相談し、主体的に計画する。 ・実習は、教員のスーパービジョンを受けながら進行する。 ・学生は次の事柄について計画・実施する。 <ol style="list-style-type: none"> ①本実習の詳細についてオリエンテーション時に、学生はオリエンテーション時に自己の計画を発表する。 ②報告会を企画・運営する。 <p>＊学生個々の詳細な実習計画は、オリエンテーション日に学生と教員との相互対話によって決定する。</p>		
テキスト	なし		
参考文献	なし		
成績評価	実習への取り組み 50%、発表 30%、レポート 20%		
履修上の注意・履修要件	フィールドワーク先は学生主体で選択・依頼等手続きを行うことになるので、自己学習を含め積極的な参加を期待する。		
備考	なし		

授業科目名	実践課題レポート Field Research	必修の区分	必修
授業コード	213	開講年次	2
単位数	各大学 1 単位（全 5 単位）	期別	後期
授業種別	演習	授業方法	対面、フィールドワーク
講師名	南裕子 中山洋子 神原咲子 増野園恵 梅田麻希 佐々木美絵 岩崎弥生 伊藤尚子 佐々木吉子 駒形朋子 田村由美 内木美恵	所属	高知県立大学 高知県立大学 高知県立大学 兵庫県立大学 兵庫県立大学 兵庫県立大学 千葉県大学 千葉県大学 東京医科歯科大学 東京医科歯科大学 日本赤十字看護大学 日本赤十字看護大学
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	上記教員のメールアドレス
講義目的及び到達目標	<p>【目的】 これまでに学修した理論、演習や実習等を基に、学生が関心をもった災害看護上の課題を取り上げ、課題についての情報を収集・分析、あるいは課題に取り組むための災害支援活動を計画・実施し、学際的な視点から評価、考察することができる能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 災害状況を把握し、看護上の問題（課題）を明らかにして探究することができる。 ② 収集した災害状況の情報を分析することができる。 ③ 災害状況のなかで「その人らしく健康に生きる」ための方策（支援活動計画）を立て、実践あるいは提言することができる。 ④ 課題についての情報の分析や支援活動の実施を研究的なレポートとしてまとめることができる。 <p>なお、ここでいう「災害状況」には、防災・減災に関することも含み、「災害支援活動」には、病院や地域との連携の在り方など組織的な支援体制や組織づくり等も含む。</p>		
講義内容・授業計画	各学生の課題に沿って、主指導教員 1 名および副指導教員 4 名と計画を立てて実施する。		
テキスト	学生のテーマに合わせて適宜紹介する。		
参考文献	学生のテーマに合わせて適宜紹介する。		
成績評価	プロセスならびに最終提出されたレポート内容にて、指導を担当する 5 大学の教員で評価を行う。		
履修上の注意・履修要件	本籍大学の専任教員と実践課題レポートの内容についてよく相談した上で履修すること。		
備考	実践課題レポート（の単位取得*）は、Preliminary Examination の審査申請時の要件の一つである。		

授業科目名	災害看護研究デベロップメント Dissertation Research Proposal	必修の区分	必修
授業コード	304	開講年次	3
単位数	各大学 1 単位（全 5 単位）	期別	前期
授業種別	演習	授業方法	遠隔授業
講師名	南裕子・中山洋子・神原咲子 増野園恵・梅田麻希・佐々木美絵 岩崎弥生・伊藤尚子 佐々木吉子・駒形朋子 田村由美・内木美恵	所属	高知県立大学 兵庫県立大学 千葉大学 東京医科歯科大学 日本赤十字看護大学
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	上記教員のメールアドレス
講義目的及び到達目標	<p>【目的】</p> <p>各自の博士論文作成に向け、研究計画立案のプロセスを、本教育課程に関わる教員ならびに学生との議論を通して進める。研究計画立案に際しては、十分な文献検討や事前の情報収集を行い、研究の意義や倫理的配慮について十分検討するとともに、教員や当該領域の専門家へ積極的に相談・助言を求め、実行可能性についても十分に検討する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①DNGL としての博士論文に求められる要件を理解できる。</p> <p>②災害看護の現象を研究課題として学際的あるいはグローバルな視点から絞り込んでいくプロセスを理解できる。</p> <p>③研究課題から適切な研究デザインを選び、新たな知や他の学問領域の知を取り入れて、研究方法を決めていくことができる。</p> <p>④博士論文に向けた研究計画書案のドラフトが作成できる。</p> <p>⑤学生および教員等との議論を通して研究計画書案を洗練させていくことができる。</p>		
講義内容・授業計画	<p>博士論文作成の要点となる事項については、TV 会議による授業を行って説明する。その後、各学生の研究計画に沿って、主指導教員 1 名および副指導教員 4 名と計画を立てて実施する（各指導教員の専門は、履修の手引きを参照する）。また、学生間で研究計画案を議論し、計画立案のプロセスを共有しながら進めていく。</p>		
テキスト	なし		
参考文献	必要に応じて提示する。		
成績評価	研究計画書案の作成プロセスを支援する 5 大学の指導教員で評価する。		
履修上の注意・履修要件	学生主体の議論は TV 会議システムを用いて行う。		
備考	<p>この科目が 3 年前期科目として置かれるのは、博士論文の作成への助走を支援するためである。博士論文作成の過程は複数の指導教員等が継続的に関わり研究を支援する体制をとるため、この科目では学生が様々な教員から得る意見を自分の判断を持ってまとめる訓練の一助ともなることをねらっている。</p>		

授業科目名	博士論文 Dissertation Research	必修の区分	必修
授業コード	501	開講年次	4 年次～5 年次
単位数	各大学 1 単位（全 5 単位）	期別	前期または後期
授業種別	演習	授業方法	遠隔授業
講師名	南裕子・中山洋子・神原咲子 増野園恵・梅田麻希・佐々木美絵 岩崎弥生 佐々木吉子・駒形朋子 田村由美・内木美恵	所属	高知県立大学 兵庫県立大学 千葉大学 東京医科歯科大学 日本赤十字看護大学
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	上記教員のメールアドレス
目的及び到達目標	<p>【目的】博士論文研究計画書および研究倫理審査結果に基づいて調査研究を行い、博士論文作成を通して、独り立ちして学術的な研究を行う能力を培う。特に、この科目では、データ収集とデータ分析のプロセス、およびそのプロセスにおいて必要となる倫理的な配慮について、研究指導教員の助言・指導を受けながら具体的に学修する。</p> <p>【「博士論文」の評価の視点】</p> <p>① 研究目的を達成するための方法論が明確に示され、データ収集およびデータ分析の方法などが具体的に検討されている。</p> <p>② データ収集およびデータ分析のプロセスにおける倫理的配慮が十分に検討されている。</p> <p>③ データ収集およびデータ分析の過程において、信頼性や妥当性、あるいは信用性・真実性（trustworthiness）が確保されている。</p> <p>④ 研究結果が根拠に基づいて記述されている（記述されることが見込まれている）。</p> <p>⑤ 研究指導体制を構成している教員の能力を活用し、綿密にデータ収集とデータ分析のプロセスを踏むことができています。</p>		
講義内容・授業計画	博士論文作成過程において、学生は、TV 会議システム等を活用し、副研究指導教員からも十分な指導が受けられるように、計画すること。		
テキスト	なし		
参考文献	必要に応じて提示する。		
成績評価	博士論文指導体制のうち、5 大学の主研究指導教員 1 名と副研究指導教員 4 名が科目担当として評価する。		
履修上の注意・履修要件	本科目の履修は、Qualifying Examination を終えていることを基本とする。前年度の後期に Qualifying Examination を受け、合格した学生は、前期科目として履修し、今年度の前期に Qualifying Examination を受ける予定の学生は、後期科目として履修登録をしておくこと。		
備考			

Disaster Nursing Global Leader Degree Program

Syllabus 2018

Overview of Academic Programs (Cooperative Academic Discipline)												
(Cooperative Doctoral Program for Disaster Nursing)												
Classification	Name of course		Years	University offering the course	Credits			Type of class			Notes	
					R e q u i r e d	E l e c t i v e	O p e n	L e c t u r e	S e m i n a r	/ P r a c t i c a l L a b		
Subjects related to fundamental nursing studies	101	Introduction to Nursing Research Methods	1 yr. (early)	University of Kochi	2			○			Including omnibus/media	
	102	Theories in Nursing I	1 yr. (early)	Chiba Univ.	2			○			Including omnibus/media	
	301	Theories in Nursing II	3 yr. (early)	University of Kochi	2			○			Including omnibus/media	
	110	Ethics in Nursing	1 yr. (latter)	University of Hyogo		2		○			Including media	
	111	Nursing Information Statistics	1 yr. (latter)	Tokyo Medical and Dental Univ.		2		○			Including omnibus/media	
	201	Research Methods for Public Health and Epideminology	2 yr. (early)	Chiba Univ.		2		○			Including media	
	202	Nursing Research Methods I (International)	2 yr. (early)	Tokyo Medical and Dental Univ.		1		○			Including omnibus/media	
	112	Nursing Research Methods II (Ethnography)	1 yr. (latter)	Japanese Red Cross Coll. of Nursing		1		○			Including media	
	203	Nursing Research Methods III (Case Studies & Action	2 yr. (early)	Chiba Univ.		1		○			Including omnibus/media	
	113	Nursing Research Methods IV (Grounded Theory)	1 yr. (latter)	Tokyo Medical and Dental Univ.		1		○			Including omnibus/media	
	114	Nursing Research Methods V (Phenomenology)	1 yr. (latter)	University of Kochi		1		○			Including omnibus/media	
	204	Nursing Research Methods VI (Intervention Research & Developmer	2 yr. (early)	University of Hyogo		1		○			Including media	
		Subtotal (12 subjects)		—		6	12	0	—			—
Required interdisciplinary subjects for Disaster Nursing Global Leaders	205	Crisis Management Theory	2 yr. (early)	University of Hyogo		2		○			Including omnibus/media	
	115	Environmental Disaster Studies	1 yr. (latter)	Chiba Univ./ University of Kochi		2		○			Including omnibus/media	
	211	Global Health and Policy-making	2 yr. (latter)	Tokyo Medical and Dental Univ.		2		○			Including omnibus/media	
	103	Professional Collaboration and Practice Theory	1 yr. (early)	Chiba Univ.		2		○			Including media	
	104	Disaster Medical Science	1 yr. (early)	Japanese Red Cross Coll. of Nursing		2		○			Including omnibus/media	
	105	Disaster Information Science	1 yr. (early)	University of Hyogo		2		○			Including media	
	106	Disaster Psychology	1 yr. (early)	University of Hyogo		2		○			Including media	
	107	Disaster and Culture	1 yr. (early)	Chiba Univ.		1		○			Including omnibus/media	
	212	Disaster Sociology	2 yr. (latter)	University of Kochi		1		○			Including media	
	206	Disaster Social Welfare	2 yr. (early)	University of Kochi		1		○			Including media	
	207	Professional Writing	2 yr. (early)	University of Kochi		1			○		Including omnibus/media	
	208	Proposal Writing	2 yr. (early)	Tokyo Medical and Dental Univ.		1			○		Including omnibus/media	
	305	Program Writing	3 yr. (latter)	University of Hyogo		1			○		Including media	
	Subtotal (13 subjects)		—		0	20	0	—			—	
Subjects related disaster nursing studies	108	Disaster Nursing Activity I	1 yr. (early)	Tokyo Medical and Dental Univ.	2			○			Including omnibus/media	
	109	Disaster Nursing Activity II	1 yr. (early)	Japanese Red Cross Coll. of Nursing	2			○			Including omnibus/media	
	116	Disaster Nursing Activity III	1 yr. (latter)	Chiba Univ.	2			○			Including omnibus/media	
	302	Advanced Disaster Nursing Theory	3 yr. (early)	University of Hyogo	2			○			Including media	
	303	Theory in Disaster Nursing Global Coordination	3 yr. (early)	Japanese Red Cross Coll. of Nursing		1		○			Including omnibus/media	
	306	International Disaster Response	3 yr. (latter)	Japanese Red Cross Coll. of Nursing		1		○			Including omnibus/media	
	307	Disaster Nursing Management	3 yr. (latter)	University of Kochi		1		○			Including omnibus/media	
	308	Ethics in Disaster Nursing	3 yr. (latter)	University of Hyogo	1				○		Including omnibus/media	
	309	Building Disaster Nursing Theory	3 yr. (latter)	University of Kochi/ University of Hyogo	2			○			Including omnibus/media	
		Subtotal (9 subjects)		—		11	3	0	—			—
Disaster nursing seminars	117	Disaster Nursing Seminar I	1 yr. (latter)	Tokyo Medical and Dental Univ.	2				○		Including omnibus/media/intensive	
	118	Disaster Nursing Seminar II	1 yr. (latter)	University of Hyogo	2				○		Including media/intensive	
	119	Disaster Professional Collaboration Exercise (Disaster IP Excercis	1 yr. (latter)	Chiba Univ.		2			○		Including omnibus/media/intensive	
	209	Disaster Nursing Global Leader Seminar	2 yr. (early)	Japanese Red Cross Coll. of Nursing		2			○		Including omnibus/media	
	120	Independent Study A	1 yr. (latter)	University of Kochi		1			○			
	121	Independent Study B	1 yr. (latter)	University of Hyogo		1			○			
	122	Independent Study C	1 yr. (latter)	Tokyo Medical and Dental Univ.		1			○			
	123	Independent Study D	1 yr. (latter)	Chiba Univ.		1			○			
	124	Independent Study E	1 yr. (latter)	Japanese Red Cross Coll. of Nursing		1			○			
	Subtotal (9 subjects)		—		4	9	0	—			—	
Disaster nursing Practical Training	210	Disaster Nursing Practium I	2 yr. (early)	University of Hyogo	2					○	Intensive	
	401	Disaster Nursing Practicum II	4 yr. (early)	Japanese Red Cross Coll. of Nursing	2					○	Intensive	
	402	Independent Study Practicum A	4 yr. (early)	University of Kochi		1				○	Intensive	
	403	Independent Study Practicum B	4 yr. (early)	University of Hyogo		1				○	Intensive	
	404	Independent Study Practicum C	4 yr. (early)	Tokyo Medical and Dental Univ.		1				○	Intensive	
	405	Independent Study Practicum D	4 yr. (early)	Chiba Univ.		1				○	Intensive	
	406	Independent Study Practicum E	4 yr. (early)	Japanese Red Cross Coll. of Nursing		1				○	Intensive	
	Subtotal (7 subjects)		—		4	5	0	—			—	
Research support courses related to disaster nursing studies	213	Field Research	2 yr. (latter)	5 universities (collaborative)	5				○		1 credit from each university/including media	
	304	Dissertation Research Proposal	3 yr. (early)	5 universities (collaborative)	5				○		1 credit from each university/including media	
	501	Dissertation Research	5 yr. (early)	5 universities (collaborative)	5				○		1 credit from each university/including media	
		Subtotal (3 subjects)		—		15	0	0	—			—
Total (53 courses)			—		40	49	0	—			—	
Degree or title		Doctor of Philosophy in Nursing (Disaster Nursing Global Leader)			Area of degree and academic field					Health and hygiene studies		
Graduation Requirements and Registration Procedures					University		Credits offered (mandatory)		Period of classes, etc.			
Students must complete a standard course of study of 5 years or more, acquire 50 or more degree-related credits, receive necessary research guidance, have their doctoral dissertation (or thesis) pass review without issue as to its content or subject area, and pass written exams.					University of Kochi		16(8)		2 semesters per academic year			
					University of Hyogo		23(11)		16 weeks of classes per semester (including exam season)			
Of the 50 credits, 40 must be from required courses and 10 from electives or selected required courses.					Tokyo Medical and Dental Univ.		16(7)		90-minute classes			
6 credits of selected required courses must be from "Required interdisciplinary courses for Disaster Nursing Global Leaders," and 2 credits from "Courses related to disaster nursing studies."					Chiba Univ.		18(7)					
					Japanese Red Cross College of Nursing		16(7)					
In addition, 10 credits or more must be from each constituent university.												
And asterisk (*) designates selected required courses.												

Class title	Introduction to Nursing Research Methods 看護研究方法	Section	Required
Class code	101	Year of study	1
Credits	2	Semester	1
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance learning
Instructors	Yoko Nakayama, Sakiko Kanbara Hiroko Minami	Affiliation	University of Kochi
Office hours / location	E-mail	Contact details	nakayama@cc.u-kochi.ac.jp kanbara@cc.u-kochi.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<p><u>Objectives</u></p> <p>While learning how to apply knowledge, the theoretical grounds on which practice is based, students develop the ability to analyze the appropriateness and reliability of the knowledge creation process.</p> <p><u>Attainment targets</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • Students learn about the processes and basic design of nursing research and can critically analyze research based on each type of research design. • Students can create appropriate research designs for research assignments. • Students understand the relationship between research and practice, and can apply research to practice. 		
Class description	<p>【Lectures 1】 Hiroko Minami</p> <p>Students learn about the role of nursing research in the development of nursing science with reference to the relationship among theory, practice, and research.</p> <p>【Lectures 2 – 3】 Yoko Nakayama</p> <p>Students study the relationship among practice, research and theory, and the research process (relationship between theory and concept, manipulation of concepts, measurement methods, etc.) with reference to the relationship between the four major types of research questions and design. Students learn about the relationship between the four types of research design and research questions.</p> <p>【Lectures 4 – 6】 Yoko Nakayama</p> <p>Students examine qualitative research methods in research design and critique examples of research based on qualitative methods while studying the philosophical foundations and methods of qualitative inquiry. (Yoko Nakayama)</p> <p>【Lectures 7 -11】 Sakiko Kanbara</p> <p>Students understand the approach and methods of quantitative descriptive research and epidemiology. Students learn about the specific methods and important points of quantitative surveys and analytical methods using dummy samples. Students critique examples of research in which these methods have been applied.</p> <p>【Lecture 12】 Yoko Nakayama</p> <p>Students learn about methodological research by studying its processes from conceptualization to the development of scales (measuring tools, questionnaire)</p> <p>【Lectures 13 – 15】 Sakiko Kanbara, Yoko Nakayama</p> <p>Students learn about hypothesis testing, quasi-experimental research and experimental research. Then critique those research papers.</p>		
Textbooks	<ul style="list-style-type: none"> • Burns, N. et al, The Practice of Nursing Research fifth edition. Elsevier, Inc. 2005. • Hulley, S. B. et al, Designing Clinical Research, Fourth Edition, Wolters Kluwer. 2013. • Holloway, I. & Wheeler, S. Qualitative Research in Nursing, Second Edition. Blackwell 		

	<p>Science. 2002.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Rothman, K. J., Epidemiology: An Introduction. Oxford University Press. 2012.
Reference materials	<ul style="list-style-type: none"> • Crombie, I. The Pocket Guide to Critical Appraisal. Willey-Blackwell. 1996. • Polit, D. F. & Beck, C. T. Nursing Research: Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice. Wolters Kluwer. 2012.
Grading	Comprehensive evaluation of class participation, presentations, and reports
Cautions and prerequisites	Not required
Notes	None

Class title	Theories in Nursing I 理論看護学 I	Section	Required
Class code	102	Year of study	1
Credits	2	Semester	1
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance Learning
Instructors	Yoshiko Wazumi Toshie Yamamoto	Affiliation	Graduate School of Nursing, Chiba University
Office hours / location	Appointments as required (Tuesday - Saturday)	Contact details	wazumi@faculty.chiba-u.jp
Class objectives and attainment targets	<u>Objectives</u> Students understand the process through which nursing science developed from historical, methodological, and structural perspectives and develop the basic ability to build disaster nursing as a new discipline on the basis of its relationship with other scientific disciplines. <u>Attainment targets</u> 1. Students understand the meaning of nursing theory and its method of structural analysis. 2. Students understand the development process of nursing science from historical, methodological, and structural perspectives based on the characteristics of existing nursing theories. 3. Students understand the significance and methods of systematizing disaster nursing as a new discipline.		
Class description	<p>【Lectures 1 & 2】 Yoshiko Wazumi Lectures focus on methods of analyzing the theoretical development process based on various concepts of theoretical development in nursing, the structural characteristics of existing nursing theories, and the careers and historical backgrounds of theorists.</p> <p>【Lectures 3 & 4】 Toshie Yamamoto Lectures focus on specific cases illustrating the application and significance of nursing theory to nursing practice.</p> <p>【Lectures 5 & 6】 Student presentations and discussions ① Yoshiko Wazumi, Toshie Yamamoto Presenting students examine one existing nursing theory, analyze its development process through its theoretical structure and the careers and historical backgrounds of its proponents, and present cases of its use in practice. Students conduct discussions based on the presentations.</p> <p>【Lectures 7 & 8】 Student presentations and discussions ② Yoshiko Wazumi, Toshie Yamamoto 【Lectures 9 & 10】 Student presentations and discussions ③ Yoshiko Wazumi, Toshie Yamamoto 【Lectures 11 & 12】 Student presentations and discussions ④ Yoshiko Wazumi, Toshie Yamamoto 【Lectures 13 & 14】 Student presentations and discussions ⑤ Yoshiko Wazumi, Toshie Yamamoto 【Lecture 15】 Summary of presentation assignments and discussion on the theory building in disaster nursing, Yoshiko Wazumi, Toshie Yamamoto</p>		
Textbooks	F. Nightingale, Compiled by H. Usui, Notes on Nursing, Second edition, Gendaisha Publishing, 2001. Alligood, M.R., Tomey, A.M., Nursing Theorists and Their Work, eighth edition, Mosby, 2014.		

Reference materials	正木治恵, 酒井郁子編, 看護理論の活用 看護実践の問題解決のために, 医歯薬出版, 2012.
Grading	<p>Comprehensive evaluation of participation in lectures and results of assignment reports</p> <p>Class participation(submission of response sheet), presentations, participation in discussions: 40%, Assignment reports: 60%</p> <p>About assignment reports</p> <p>Assignment topic: Examine one existing theory in nursing, analyze its development process through its theoretical structure and the careers and historical backgrounds of its proponents, and present your own cases of its use in practice. On the basis of the above, state your own opinions regarding the significance of your chosen theory to practice, nursing science, and the theory building in the disaster nursing discipline. (Submission deadline: Within 3 weeks of the end of class)</p>
Cautions and prerequisites	Students must work together to prepare for presentations before the presenting student begins.
Notes	Not required

Class title	Theories in Nursing II 理論看護学Ⅱ	Section	Required
Class code	301	Year of study	3
Credits	2	Semester	1
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance learning
Instructors	Sayumi Nojima, Sawa Fujita, Yoko Nakayama	Affiliation	University of Kochi
Office hours / location	E-mail	Contact details	nakayama@cc.u-kochi.ac.jp fujita@cc.u-kochi.ac.jp nojimas@cc.u-kochi.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<p><u>Objectives</u></p> <p>The purpose of learning is to understand philosophy and history of science, and to analyze their relationship to science and society in contemporary society. Through utilization of this knowledge, nurturing of the ability to make comparative analysis of theories relating to the science of nursing and practical nursing, as well as the basic ability for building a nursing theory is carried out.</p> <p><u>Attainment targets</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • To be able to comprehend the influence of the philosophy and history of science on nursing. For the students themselves to be able to hold a way of thinking concerning the question of "What is science in the context of nursing?" • To gain the ability to discuss the relationship between science and nursing (care) based on a historical understanding. • To gain the ability to analyze and evaluate nursing theories, as well as the ability to explain the unique features of those theories (such as comprehensive theories and mid-range theories). • To gain the ability to explain the relationship between practice, research, and theory in the context of nursing. • To obtain the ability to make conceptual analysis of concepts utilized in nursing and concepts in which the students themselves have interest. 		
Class description	<p>(Omnibus style/15 sessions)</p> <p>【Lecture 1-7】 Yoko Nakayama</p> <p>These sessions provide learning of the philosophy and history of science, and analysis of their relationship between science and society in contemporary society.</p> <p>In addition, an overview of the philosophy of nursing is reviewed, and considerations are made concerning the basis of philosophy for the purpose of forming concepts of the actual conditions and practical application of nursing.</p> <p>【Lecture 8-11】 Sayumi Nojima</p> <p>Teaching is carried out on the subjects of the history of nursing theories, the concepts that constitute the basis of theories, and methodology of analysis and evaluation of nursing theories, alongside training in examples of practical theory structuring in the context of the relationship between practice, research and theory.</p> <p>【Lecture 12-15】 Sawa Fujita</p> <p>General training is provided in methodology for analyzing concepts, as well as practical concept analysis in terms of dealing with both concepts that are utilized in the theory of nursing and concepts in which the students themselves have interest.</p> <p>Then review the course and summarize in the last session.</p>		

Textbooks	None in particular
Reference materials	<ul style="list-style-type: none"> ・ 村上陽一郎, 人間にとって科学とは何か, 新潮社, 2010. ・ A.F.チャルマーズ著, 高田紀代志・佐野正博訳, 新版 科学論の展開—科学と呼ばれているのは何なのか? 恒星者厚生閣, 1983. ・ Polifroni, E. C. & Welch, M. Perspectives on Philosophy of Science in Nursing: An Historical and Contemporary anthology, Lippincott, 1999. ・ Fawcett, J.著, 太田喜久子・筒井真優美監訳, フォーセット看護理論の分析と評価 新改版, 医学書院, 2008. ・ Walker, L. O & Avant, K. C.著, 中木高夫・川崎修一訳, 看護における理論構築の方法, 医学書院, 2008. ・ Rodgers, B. L. & Knafl, K. A. Concept Development in Nursing: Foundations, Techniques, and Applications. Second edition. Saunders, 2000. ・ Others introduced when appropriate.
Grading	Evaluation is carried out on the degree of class participation (preliminary learning, discussion, and post-learning) as well as overall presentations and reports.
Cautions and prerequisites	Not required
Notes	None

Class title	Ethics in Nursing 看護倫理	Section	Elective
Class code	110	Year of study	1
Credits	2	Semester	2
Class type	Lecture	Mode of instruction	Class presentation and discussion
Instructors	Maki UMEDA	Affiliation	University of Hyogo
Office hours / location	Appointments as requested	Contact details	
Class objectives and attainment targets	<p><u>Objectives</u> Students learn the relationship between normative / applied ethics and nursing ethics. Through the course work the students understand their own positions with respect to ethical problems encountered in the field.</p> <p><u>Attainment targets</u></p> <ul style="list-style-type: none"> Students can discuss social backgrounds which ethical issues occur with reference to historical and cultural factors. Students can analyze conflicts that occur due to differences in peoples positions, values, and opinions under conditions in which ethical problems arise. 		
Class description	<p><u>Class plan</u></p> <p>1) Students state their own approach to nursing ethics and share their basic positions with respect to learning (Includes orientation)</p> <p>2-3) Defining Normative Ethics and Values. Individuals/ Organizations / Society / Culture</p> <ul style="list-style-type: none"> Students search from their own experience for materials and discuss the important aspects of normative ethics in each material. <p>4-5) History of Applied Ethics and Nursing Ethics. Life / Medical Science / Medical Treatment / Nursing / Individual</p> <ul style="list-style-type: none"> Students examine and discuss the backgrounds and issues in which applied ethics is relevant for each historical phase. <p>6-7) Ethical Principles in Medicine</p> <ul style="list-style-type: none"> Students explain and discuss each principle with reference to <u>culturally different</u> phenomena that have occurred in practice to date. <p>Beneficence/Justice/Autonomy/Veracity/Fidelity</p> <p>8) Organizing Ethical Concepts Relevant to Nursing Practice</p> <p>Advocacy/Accountability/Responsibility/Caring/Cooperation</p> <p>9) Methods of Analyzing Ethical Problems and Cases in Nursing</p> <ul style="list-style-type: none"> Students learn methods of analysis and discuss nursing issues and ethical problems. <p>10) Research Ethics and the Protection of Research Participants</p> <ul style="list-style-type: none"> Students review the ethics of scientists, nursing researchers, and research participants and study ethical perspectives of various types of research. <p>11-15) Discussion and Presentation of Assignments (group work and presentations.)</p> <p>The class will be conducted through distant learning. * Students each select two themes, such as actual social problems and issues faced during disasters, and summarize the basic approaches to and recent trends in the major ethical issues and concepts included in these themes. Students analyze and present typical examples of themes. In the class discussion, students transcend their individual backgrounds and subject areas and consider how to interpret</p>		

	common or different problems. Following the discussions, each student will submit a report.
Textbooks	Fry, ST & Johnstone, M-J. Ethics in Nursing Practice 3 rd ed., International Council of Nurses, 2008.
Reference materials	Davis, AJ; Tschudin, V.; Raeve, L. Eds. Teaching and Learning Nursing Ethics, Translation by Konishi, E., Japanese Nursing Association Publishing Company, 2008. Searching and accumulate latest perception according to subject.
Grading	Comprehensive evaluation of presentations, prepared materials, and reports
Cautions and prerequisites	As a rule, classes will be conducted in the seminar style.
Notes	Reading lists compiled by each student will be shared during the final class.

Class title	Nursing Information Statistics 看護情報統計学	Section	Elective
Class code	111	Year of study	1
Credits	2	Semester	2
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance learning
Instructors	Yasuko Ogata ¹⁾ Shinichi Tokunaga ²⁾ Yuki Yonekura ³⁾	Affiliation	1) Graduate School of Health Care Sciences, Tokyo Medical and Dental University 2) College of Liberal Arts and Sciences, Tokyo Medical and Dental University 3) St.Luke's International University
Office hours / location	Anytime by appointment	Contact details	yogata.gh@tmd.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<u>Objectives</u> So as to be capable of utilizing statistical knowledge in an expert way for disaster nursing activities, students will learn important knowledge and skills in statistics and understand how to apply the knowledge and skills in their practice and research. <u>Attainment targets</u> <ul style="list-style-type: none"> • To learn basic knowledge of statistics. • To understand how to use statistics in nursing, medical care, and related fields. • To acquire statistical skills, through classroom scenarios drawn from real-world situations and the use of software analysis tools, to apply in nursing practice and research 		
Class description	<u>Learning purpose</u> Students learn the basic principles of statistics, and perform statistical analysis using real data. Then they report the results to others. By doing so, they acquire statistical skill for nursing practice and research. <u>Class plan</u> 1) Orientation, Basic knowledge of statistics 2-15) *Basics of statistical analysis, difference tests, correlation analysis, ANOVA, regression analysis, logistic regression analysis, factor analysis *Student will learn basics of statistics and perform statistical analysis using software analysis tools.		
Textbooks	Textbook: Will be introduced during the course as necessary. SPSS: IBM SPSS Statistics Premium Grad Pack 23 (for Student)		
Reference materials	Will be introduced during the course as necessary.		
Grading	Class participation (70%), and written reports (30%)		
Cautions and prerequisites	Each student is required to provide his/her own laptop PC with calculation functions and SPSS.		
Notes	The contents and the schedule are subject to change.		

Class title	Research Methods for Public Health and Epidemiology 保健学の・疫学の研究法	Section	Elective
Class code	201	Year of study	2
Credits	2	Semester	1
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance learning
Instructors	Tadashi Kitaike	Affiliation	Chiba University
Office hours / location	Appointments as required	Contact details	kitaike@faculty.chiba-u.jp
Class objectives and attainment targets	<u>Objectives</u> To acquire the ability to quickly grasp health problems in the community and create documents that form the basis of intervention measures <u>Attainment targets</u> <ul style="list-style-type: none"> Understand the procedures of descriptive epidemiology Understand information processing for analytical epidemiology Understand how population and health statistics are used 		
Class description	Aims Students learn the basic elements of Public Health and Epidemiology and acquire the ability to put these into practice in the community. Course plan 1) Introduction to Epidemiology 2) Epidemiological Indices 3) Epidemiological Research Methods I (Descriptive Epidemiology) 4) Epidemiological Research Methods II (Analytical Epidemiology) 5) Bias and Confounding 6) Causality 7) Ethics in Epidemiology 8) Health Statistics 9) Disease Statistics 10) Disease Registry and Surveillance 11) Screening 12) Epidemiology of Infectious Diseases 13) Epidemiology of Cancer 14) Epidemiology of Cardiovascular Diseases 15) Epidemiology of Health Promotion		
Textbooks	はじめて学ぶやさしい疫学（改訂第2版）日本疫学会監修，南江堂（2010年）		
Reference materials	Introduced during lectures where appropriate		
Grading	Comprehensive evaluation of class participation and reports		
Cautions and prerequisites	Not required		
Notes	Not required		

Class title	Nursing Research Methods I (International) 看護研究方法論 I (国際比較研究)	Section	Elective
Class code	202	Year of study	2
Credits	1	Semester	1
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance learning
Instructors	Akiko Kondo ¹⁾ Keiko Nakamura ¹⁾ Keiko Sugimoto ²⁾ Ezeonwu, MC ³⁾	Affiliation	1) Tokyo Medical and Dental University 2) Tsukuba University 3) University of Washington
Office hours / location	Anytime by appointment	Contact details	akondo.ind@tmd.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<u>Objectives</u> Students will deepen their understanding of databases useful for international comparison in nursing and health fields. They will gain an overview of proposing international comparison research and adjusting research proposals, methodologies including fieldwork, and methods of comparative analysis. They will learn about generating discussion and conclusions.		
	<u>Attainment targets</u> • Students understand and actually use databases useful for international comparison in nursing and health fields. • They gain an overview of proposing international comparison research and adjusting research proposals, methodologies including fieldwork, and methods of comparative analysis. • They can discuss and write conclusions in English.		
Class description	1. Students will deepen their understanding of database characteristics and analytical perspectives concerning health, healthcare, and medicine in the world. They will be familiarized with methods of international comparison research (e.g., reality of fieldwork and quantitative and qualitative research).		
	2. Actual examples of international comparison research will be presented and analyzed. Students will learn about extracting and conceptualizing nursing problems and determining scale use and perspectives of comparative analysis. They will also become familiar with methods of refining discussions through comparisons between Japan and overseas.		
	3. Method of Critiquing International Comparison Research		
	4. Method of international comparison in medical economy		
		Contents	Instructors
	1	Introduction of international comparative study	Akiko Kondo
	2	Reading research paper about international comparative study	Akiko Kondo
	3	Meaning and importance of international comparative study 1	Keiko Sugimoto
	4	Critique of international comparative study	Akiko Kondo
	5	Meaning and importance of international comparative study 2	Keiko Nakamura
6	Critique of international comparative study	Akiko Kondo	
7	Example of international study (qualitative study)	Ezeonwu, MC	
8	Presentation for final assignment	Akiko Kondo	

Textbooks	Not required
Reference materials	Show as necessary
Grading	Participation for discussion 20% Presentation 40% Final assignment 40% Theme of final assignment “Theme, importance and overview of methods for international comparative study that you want to conduct”
Cautions and prerequisites	Basically class will be conducted in English. Students who have English conversation and writing skills are recommended to take.
Notes	Order and contents of classes can be changed.

Class title	Nursing Research Methods II (Ethnography) 看護研究方法論Ⅱ (エスノグラフィー)	Section	Elective
Class code	112	Year of study	1
Credits	1	Semester	2
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance Learning
Instructors	Mayumi Tsutsui	Affiliation	Japanese Red Cross College of Nursing
Office hours / location	Appointments as required	Contact details	tsutsui@redcross.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<u>Objectives</u> Students learn about the meaning of research in nursing science, the world view of qualitative research, and research methods associated with ethnography and ethnonursing. <u>Attainment targets</u> <ul style="list-style-type: none"> • Students understand the position and research methods of ethnography and ethnonursing in nursing science. • Students understand the culture of the field and can make the necessary preparations for fieldwork. • Students can implement fieldwork that corresponds to objectives. 		
Class description	<u>Aims</u> Students develop and understanding of ethnography and ethnonursing in nursing research and, having considered the necessary preparations and methods for fieldwork, conduct fieldwork and clarify issues. <u>Class plan</u> <ol style="list-style-type: none"> 1. The position of nursing research in nursing science, world views of qualitative and quantitative research, history, research methods, and ethical issues of ethnography and ethnonursing, etc. 2. Conduct fieldwork 3. Analyze field notes and discuss the issues 4. " 5. Conduct fieldwork 6. Analyze field notes and discuss the issues 7. " 8. Summary of ethnography and ethnonursing, discussion of issues, etc. Students will actually conduct fieldwork, write field notes, conduct analysis that correspond to objectives, and discuss issues etc. in class. 		
Textbooks	<ul style="list-style-type: none"> • Emerson, R., Fretz, R., & Shaw, L. (1995)/佐藤郁哉・好井裕明・山田富秋訳(1998). 方法としてのフィールドノート. 新曜社. • Emerson, R., Fretz, R., & Shaw, L. (1995). Writing ethnographic fieldnotes. Chicago, IL; The University of Chicago Press. • Leininger, M. M.(1992)/稲岡文昭監訳(1995). レイニンガー看護論. 医学書院. • Leininger, M. M.(1992). Culture care diversity & universality. New York, NY; National League for Nursing, Inc. 		
Reference materials	<ul style="list-style-type: none"> • Bogdan, R. C. & Biklen, S. K. (2006). Qualitative research for education: An introduction to theory and methods fifth edition. Boston, MA: Allyn & Bacon. Inc. • Burns, N. & Grove, S. K.(2005). The practice of nursing research fifth edition. Philadelphia, PA: W. B. Saunders Company. • Denzin, N. K. & Lincoln, Y. S. (2005). The SAGE handbook of qualitative research third 		

	<p>edition. Thousand Oaks, CA: SAGE.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Flick, U. (1995)/小田博志・山本則子・春日常・宮地尚子(2002). • 質的研究入門. 春秋社. Flick U: Qualitative Forschung. Rowohlt, Reinbek, 1995 • Gubrium, J. F. & Holstein, J. A. (2001). Handbook of interview research: Context & method. Thousand Oaks, CA: SAGE. • Hinshaw, A. S., Feetham, S. L., & Shaver, J. L. F.(1999). Handbook of clinical nursing research. Thousand Oaks, CA: SAGE. • Leininger, M. M. (Ed.). (1992). Culture care diversity & universality: A theory of nursing. New York: National League for Nursing press. • Lincoln, Y. S. & Guba, E. G. (1985). Naturalistic inquiry. Newbury Park, CA: Sage. • Munhall, P. L. (2007). Nursing research: A qualitative perspective fourth edition. Sudbury, MA: Jones & Bartlett Publishers. • Streubert, H. J. & Carpenter, D. R. (2011). Qualitative research in nursing fifth edition. Philadelphia, PA: Lippincott.
Grading	Class participation: 50%, Presentations: 50%
Cautions and prerequisites	Not required
Notes	Not required

Class title	Nursing Research Methods III (Case Studies & Action Research) 看護研究方法論Ⅲ（ケーススタディ・アクションリサーチ）	Section	Elective
Class code	203	Year of study	2
Credits	1	Semester	1
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance learning
Instructors	Yayoi Iwasaki Teruko Yoshimoto	Affiliation	Chiba University
Office hours / location	Appointments as required	Contact details	yiwasaki@faculty.chiba-u.jp yoshimt@faculty.chiba-u.jp
Class objectives and attainment targets	<p><u>Purpose</u></p> <p>This elective course is developed for graduate nursing students to acquire basic knowledge and skills in planning and implementing case study research and participatory action research. This course emphasizes sociocultural background or situational conditions of a case study in examining the life process and phenomena of specific groups, communities, events or situations. This course also emphasizes a problem solving process: identifying issues in communities or clinical settings, planning and implementing problem solving actions, verifying the effectiveness of the actions, and developing new actions for further improvement.</p> <p><u>Objectives</u></p> <p>(1) Describe the purpose, method, and characteristics of case studies.</p> <p>(2) Discuss the significance and limitations of case studies.</p> <p>(3) Describe the background from which action research emerged and discuss the purpose, characteristics and type of action research along with the roles and behavior of research leaders.</p> <p>(4) Discuss the creation of knowledge and method of argument in action research.</p>		
Class description	<p>1. Goal setting: Formulate personal goals and a timeline for the course by combining prior learning and research achievements.</p> <p>2. Purpose, methods, and characteristics of the case study research method: Engage in self-directed learning on case study research. In the class, discuss the purpose, methods, and characteristics of the case study research. Also discuss ethical considerations and responsibilities of researchers in case study research.</p> <p>3. The significance and limitations of case study research (i): Review one or two case studies related to disaster (preferably papers in English) prior to the class. In the class, compare and examine the purpose, method, and findings of each case study. Also discuss tactics to generalize case study findings and examine reliability and validity in case study research.</p> <p>4. The significance and limitations of case study research (ii): Review one or two case studies related to disaster (preferably papers in English) prior to the class. In the class, examines its strengths and weaknesses, and discusses recommendations for further research.</p> <p>5. Purpose, characteristics, types, and planning of action research: Read the textbooks and materials prior to the class. In the class, discuss the purpose, characteristics, and types of action research to integrate their learning.</p> <p>6. Roles and activities of action research leaders: Read the textbooks and materials prior to the class. In the class, discuss the roles and</p>		

	<p>behaviors of action research leaders.</p> <p>7. Knowledge creation and method of argument in action research: Select and review a research article related to the area of your specialization, present the summary of the research article, and discuss findings and implications for disaster nursing.</p> <p>8. Planning action research: Plan action research to explore a phenomenon of your interest.</p>
Textbooks	<p>Yin, R.K. (2013). Case study research: Design and methods, fifth edition, Sage.</p> <p>Stringer, Ernest T. (2013). Action Research, fourth edition, Sage.</p>
Reference materials	<p><u>Action research</u></p> <p>Kiefer, Christie W. Doing Health Anthropology: Research Methods for Community Assessment and Change, Springer Pub Co., 2006.</p>
Grading	Comprehensive evaluation of class participation, presentations, and reports
Cautions and prerequisites	Not required
Notes	<p>Students must submit the following two reports: Further details will be given in the first lecture.</p> <p>1) Read a case study from the area of your interest and develop a proposal for a further case study. The report should include: a) brief summary of purpose, method and results of the article; b) evaluation of the significance, strengths and weaknesses of the study; and c) recommendation for a further study (include purpose, method and rationales).</p> <p>2) Plan action research to explore the area of your interest and make a brief proposal. The proposal should include purpose, method, and expected outcomes.</p>

Class title	Nursing Research Methods IV (Grounded Theory) 看護研究方法論 (グランデッドセオリー)	Section	Elective
Class code	113	Year of study	1
Credits	1	Semester	2
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance Learning
Instructors	Yoshiko Sasaki ¹⁾ Mami Kayama ²⁾	Affiliation	1) Tokyo Medical and Dental University 2) St. Luke's International University
Office hours / location	Appointments as required	Contact details	y-sasaki.dn@tmd.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<u>Objectives</u> First, student understand the transition of the philosophical foundation and analysis method of Grounded Theory, then learn about the Qualitative descriptive research method applying the Grounded Theory methodology, and acquire the ability to utilize it to student's own research. <u>Attainment targets</u> <ul style="list-style-type: none"> • Student can understand the transition of the philosophical foundation and method of the Grounded theory. • Student can understand the characteristics of the Qualitative descriptive method of applying Grounded theory methodology. • Student can understand basic analysis by the Qualitative descriptive method including Grounded Theory Approach. • Student can critique the findings of research conducted by Grounded Theory Approach and think about the possibility of applying the learning to own research 		
Class description	1) Outline : Guidance of Course Transition of the philosophical foundation and method of the Grounded Theory (Yoshiko Sasaki) 2)-3) Outline and analytic method of the Qualitative descriptive research method applying the Grounded Theory (Mami Kayama) 4)-6) Analytical work by the Qualitative descriptive research method (Yoshiko Sasaki) 7)-8) Discussion on the use of research critique and research findings of research articles conducted by Grounded Theory Approach (Yoshiko Sasaki)		
Textbooks	Not required		
Reference materials	<ul style="list-style-type: none"> • Beck, C.T. Ed. (2013) Routledge International Handbook of Qualitative Nursing Research, Routledge. • Corbin, J. & Strauss, A. (2015) Basics of Qualitative Research: Techniques and Procedures for Developing Grounded Theory Approach, 4th ed., SAGE. • Charmaz, K. (2014) Constructing Grounded Theory 2nd ed., SAGE 		
Grading	Learning attitude 60% and reports 40%		
Cautions and prerequisites	If it is necessary for students to study and do your assignment in advance, Lecturer will tell students accordingly.		
Notes	The contents and schedules of lesson may change as needed.		

Class title	Nursing Research Methods V (Phenomenology) 看護研究方法論V (現象学的研究方法)	Class type	Elective
Class code	114	Year of study	1
Credits	1	Semester	2
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance learning
Instructors	Yoko Nakayama, Takashi Yoshikawa	Affiliation	University of Kochi
Office hours / location	E-mail	Contact details	nakayama@cc.u-kochi.ac.jp yosikawa@cc.u-kochi.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<p><u>Objectives</u> Students understand the historical and philosophical currents and basic assumptions of phenomenology and study phenomenology as a method for understanding phenomena and conducting nursing research.</p> <p><u>Attainment targets</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • Students can understand the philosophical foundations of phenomenology. • Students can understand the methods of interpreting phenomena, perspectives, and approaches that form the foundations of phenomenology. • Students can understand the connection between research assignments and phenomenological research methods. • Students can critique research based on phenomenological research methods. 		
Class description	<p>【Lectures 1 – 3】 Takashi Yoshikawa</p> <p>1) The place of phenomenology viewed through historical and philosophical currents. 2) What is phenomenology? Philosophical foundations. 3) Developments in phenomenology and disciplinary differences in outlooks and approaches.</p> <p>【Lectures 4 – 6】 Yoko Nakayama</p> <p>4) The place of phenomenology as a qualitative research method in nursing. 5) The phenomenological approach as method of nursing research. 6) Selection of research assignments and phenomenological research methods. (research design)</p> <p>【lectures 7 & 8】 Yoko Nakayama / Takashi Yoshikawa</p> <p>7) - 8) Methods for critiquing research based on phenomenological research methods and their reality.</p>		
Textbooks	No textbooks will be used; however, materials will be presented for preparatory study.		
Reference materials	<ul style="list-style-type: none"> • Moran, D.: Introduction to Phenomenology, Routledge, 2000. • Spiegelberg, H.: The Phenomenological Movement, Third edition, Martinus Nijhoff Publishers, The Hage, 1982. • Sokolowski, R.: Introduction to Phenomenology, Cambridge University Press, 1999. • Zahavi, D.: Husserl's Phenomenology, Stanford University Press, 2002. • Benner, P. (Ed) : Interpretive Phenomenology: Embodiment, Caring, and Ethics in Health and Illness, Sage Publications, Inc., 1994, • Giorgi, A.: The Descriptive Phenomenological Method in Psychology: A Modified Husserlian Approach, Duquesne University Press, 2009. • Cohen, M. Z.: Hermeneutic Phenomenological Research, Sage Publications, Inc., 2000. 		

	<ul style="list-style-type: none"> • Langdridge, D. : Phenomenological Psychology: Theory, Research and Method, First edition, Prentice Hall, 2007
Grading	Comprehensive evaluation of class participation, presentations, and reports
Cautions and prerequisites	Students will be given preparatory study assignments and lectures will center on discussion.
Notes	Not required

Class title	Nursing Research Methods VI (Intervention Research and Development of Scale) 看護研究方法論VI (介入研究・尺度開発含)	Section	Elective
Class code	204	Year of study	2
Credits	1	Semester	1
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance learning
Instructors	Hirofumi Takagi	Affiliation	College of Nursing Art and Science, University of Hyogo Part-time instructor
Office hours / location	Appointments as required	Contact details	halwin@nifty.com
Class objectives and attainment targets	<u>Objectives</u> Students learn research methods for performing nursing interventions on factors that may be linked to health problems and verifying the effectiveness of these interventions. In addition, students study appropriate scaling methods for objectively measuring the effects of nursing intervention. <u>Attainment targets</u> <ul style="list-style-type: none"> Understand research methods for nursing intervention in specific health problems Understand statistical methods for verifying the effects of specific nursing interventions Understand the statistical methods used as the basis for scaling Understand the various problems that occur in nursing research, from concept analysis and scaling, and be able to develop scales 		
Class description	<u>Aims</u> Develop the ability to design research plans for nursing intervention aimed at solving specific health problems in a scientific manner, develop scales for measuring the effects of this intervention, and appropriately use statistical methods. <u>Class plan</u> <ol style="list-style-type: none"> 1) Statistical Sample Surveys and Intervention Studies 2) Correct Causal Inference and Research Planning 3) Statistical Methods in Intervention Studies 4) Necessary Sample Sizes in Research 5) Basic Multivariable Analysis for Developing Scales I 6) Basic Multivariable Analysis for Developing Scales II 7) Scaling Basics 8) Problems in Scaling 		
Textbooks	None specified, however necessary materials will be distributed during lectures.		
Reference materials	Polit, D. F. & Beck, C. T. Nursing research : Principles and Methods 7th Edition		
Grading	Comprehensive evaluation of class participation, presentations, and reports		
Cautions and prerequisites	Numerical formulas are often referred to in lectures, but students should endeavor to develop their point of view and logical reasoning without being constrained by these.		
Notes	Not required		

Class title	Crisis Management Theory 危機管理理論	Section	Required elective
Class code	205	Year of study	2
Credits	2	Semester	1
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance learning
Instructor	Reo Kimura	Affiliation	University of Hyogo
Office hours / location	Appointments as required	Contact details	rkimura@shse.u-hyogo.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<u>Objectives</u> Students study the basic theory of human security and crisis management and learn about issues related to disaster crisis management from the perspective of human security by studying examples of disasters that have occurred in Japan. <u>Attainment targets</u> Understand the basic approaches and foundations of crisis management, survey the overall picture and pursue the essence of the social crisis of disaster, and propose mechanisms for overcoming these crises		
Class description	<u>Aims</u> Students focus on issues in disaster crisis management, learn about the state of crisis management systems and the measures used within them, study the standard processes and methods used in crisis management, learn how to utilize experience and lessons learned from disasters, and develop practical ability for successful crisis management. <u>Class plan</u> Students study issues in disaster crisis management through examples such as the Great Hanshin Awaji Earthquake, the Niigata-Chuetsu Earthquake / Chuetsu-Oki Earthquake, and the Great Hanshin Awaji Earthquake. In addition, students study mechanisms of the ICS (Incident Command System), the standard disaster crisis management system / process, and consider its method of application in disasters and issues.		
Textbooks	林春男他、組織の危機管理入門ーリスクにどう立ち向えばいいのか、丸善、2008 木村玲欧、災害・防災の心理学ー教訓を未来につなぐ防災教育の最前線、北樹出版、2015		
Reference materials	Not required		
Grading	Comprehensive evaluation of class participation, presentations, and reports		
Cautions and prerequisites	Not required		
Notes	Not required		

Class title	Environmental Disaster Studies 環境防災学	Section	Required elective
Class code	115	Year of study	1
Credits	2	Semester	2
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance learning
Instructor	Akihiko Kondoh Makoto Omura	Affiliation	Chiba University University of Kochi
Office hours / location	Appointments as required	Contact details	kondoh@faculty.chiba-u.jp omura@cc.u-kochi.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<u>Objectives</u> Students use extensive knowledge of earth sciences and acquire the basic academic grounding necessary for addressing regional development, conservation, and environmental problems and the basic ability to apply this to solving problems in a wide range of settings. <u>Attainment targets</u> Students learn about the relationship between disaster occurrence and natural and urban environments and can propose local disaster mitigation methods, approaches to post-disaster reconstruction plans, and methods of implementation.		
Class description	<u>Aims</u> Focusing primarily on natural disasters, students develop an understanding of the properties of hazards, external forces that cause disasters, and acquire empirical knowledge for ensuring that hazards do not develop into disasters. <u>Class plan</u> (Akihiko Kondoh: 8 lectures) Students learn about how to operate during disasters, policies regarding reconstruction plans, and preparations in times of non-disaster through past examples of disasters by understanding the mechanisms of disasters based on basic knowledge of hazards such as earthquakes and torrential rain and the geological features (factors) of each region. (Makoto Omura: 7 lectures) Building on the content of the first half of the class, students primarily examine urban environments through examples of natural disasters facing disasters nurses in the near future and study examples of flood, landslide, and tsunami disasters caused by “flows” and destruction, fire-damage, and foundation damage to structures caused by earthquake “tremors.” In addition, students consider the response in society to the multiply occurring Nankai earthquake against the backdrop of the declining birthrate.		
Textbooks	Materials will be provided online where required.		
Reference materials	Not required		
Grading	Comprehensive evaluation of class participation and reports.		
Cautions and prerequisites	Not required		
Notes	Not required		

Class title	Global Health and Policy-making グローバルヘルスと政策	Section	Elective
Class code	211	Year of study	2
Credits	2	Semester	2
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance learning
Instructors	Tomoko Komagata ¹⁾ ・ Takeo Fujiwara ¹⁾ Hiroki Fukahori ²⁾ Yoko Shinpuku ³⁾ Takashi Izutsu ⁴⁾ Takashi Kawazoe ⁵⁾ Nobuyuki Nishikiori ⁶⁾	Affiliation	1) Tokyo Medical and Dental University 2) Former Tokyo Medical and Dental University 3) Kyoto University 4) The University of Tokyo 5) CarePro Co. Ltd. 6) WHO
Office hours / location	Anytime by e-mail	Contact details	komadn@tmd.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<p><u>Objectives</u></p> <p>Students are expected 1) to understand organizations, systems and policies, and policy making process regarding global health and 2) to acquire skills both for summarizing issues regarding global health and for offering innovative solutions to them.</p> <p><u>Attainment targets</u></p> <p>Through this course, students are expected to become able to</p> <p>1) understand organizations, systems and policies and policy making process about global health,</p> <p>2) summarize global health issues on system and policy and consider strategies for resolution,</p> <p>3) express their own idea clearly to solve the issues on global health, and</p> <p>4) declare how they aspire to struggle with issues on global health in future.</p>		
Class description	<p>1) Course Guidance / Introduction to Policy in Nursing ① (Komagata・Fukahori)</p> <p>2) Introduction to Policy in Nursing ② (Fukahori)</p> <p>3・4) Nurses' role in global health (Shinpuku)</p> <p>5・6) Solutions for global health issues; Social Epidemiology (Fujiwara)</p> <p>7・8) Policymaking process in global health (Izutsu)</p> <p>9) Solutions for global health issues; Visiting Nursing (Kawazoe)</p> <p>10・11) Solutions for global health issues; Role of International Organizations (Nishikiori)</p> <p>12) Process of Policy recommendation (Komagata)</p> <p>13) Policy process exercise (Komagata)</p> <p>①Agenda clarification</p> <p>Among issues and problems greatly needed for solutions in global health, students will identify one according to their shared interest and will specify agenda through analysis of current situation. (group work)</p> <p>②Considering strategies for resolution</p> <p>Students will analyze situation surrounding the specified agenda and create the strategic planning for solutions (group work) .</p> <p>③Preparation for presentation</p> <p>Students will prepare for presentation to express effectively their accomplishments: the specified agenda, the analyzed situation surrounding the agenda and the created strategic plan (group work) .</p>		

	<p>14) Policy process exercise Presentation (Shinpuku, Komagata)</p> <p>Students will be required to make a presentation in English in principle.</p> <p>15) Discussion with policy maker</p> <p>With cooperation of a policymaker including a nurse working as lawmakers, students will introduce themselves to her/him and discuss nurses' leadership. Schedule and class contents should be modified depending on the policymakers' schedule.</p> <p>Note. Sequence of the classes is supposed to be changed according to lecturer's convenience.</p>
Textbooks	Not required
Reference materials	<ul style="list-style-type: none"> ・私の仕事（緒方貞子、2017） ・危機の現場に立つ（中満泉、2017） ・社会疫学 上・下（イチロー・カワチ、2017） ・日本の医療 制度と政策（島崎謙治、2011） ・看護職者のための政策過程入門 第2版（見藤隆子ほか、2017）
Grading	<p>Participation to the class and exercise (30%)</p> <p>Presentation (30%)</p> <p>Discussion with policy makers (10%)</p> <p>Response sheets (30%)</p>
Cautions and prerequisites	Course schedule, plan and the learning system may be changed for instructors' and the policymakers' reasons. We will consider some alternatives in that case.
Notes	Not required

Class title	Professional Collaboration and Practice Theory 専門職連携実践論	Section	Required elective
Class code	103	Year of study	1
Credits	2	Semester	1
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance Learning
Instructors	Ikuko Sakai	Affiliation	Graduate School of Nursing, Chiba University
Office hours / location	Tuesday, period I & II	Contact details	ikusakai@faculty.chiba-u.jp
Class objectives and attainment targets	<p><u>Objectives</u></p> <p>Students can discuss about the collaborative practices of organizations, strategies adopted, challenges, and solutions and understand the basic knowledge and skills necessary for making improvements.</p> <p><u>Attainment targets</u></p> <ul style="list-style-type: none"> Students understand the attitude that values IPE and respects the opinions and points of view of other profession. Students understand the roles and relationships of various professions and the current state of collaborative efforts from national to local level. Students understand strategies and theoretical models for improving collaboration. Students understand the skills necessary for distinguishing collaborative initiatives requiring improvement in other occupations and their own organization and designing and implementing improvement plans. Students understand the skills necessary for selecting, implementing, and revising joint strategies involving multiple organizations that correspond to specific care situations. 		
Class description	<p><u>Aims</u></p> <p>The class aims to review the concepts, types and theoretical frameworks of IPW. In addition, the class explores educational intervention, practical intervention, and organizational management for improving IPW and reviews methods for evaluating team performance.</p> <p><u>Class plan</u></p> <ul style="list-style-type: none"> Orientation, understanding IP competence (Lectures 1 - 4) Students discuss about the history of IPE, why it became necessary, social problems to be solved in the future, and the process of acquiring IP competence through independent study and lectures. Students understand attitudes and knowledge for improving collaborative initiatives (Lectures 5 - 10) Students discuss about team building, organizational development, interprofessional collaboration, communication, ethical attitudes, and professionalism through independent study and lectures. Students understand knowledge, theory, and strategies for improving services through collaboration with other professionals (Lectures 11 - 15) Students analyze, evaluate, and discuss their own examples of IPW initiatives based on the lecture content. 		
Textbooks	A reading list will be provided before the class begins.		
Reference materials	A reading list will be provided before the class begins.		

Grading	Participation in lectures: 60% (Students are evaluated on how well they apply their independent study by actively speaking in lectures.) Final report: 40% (Report topic: Self-evaluation of practical professional collaboration capacity and future challenges)
Cautions and prerequisites	Students who intend to take Disaster Professional Collaboration are encouraged to take this class
Notes	Not required

Class title	Disaster Medical Sciences 災害医療学	Section	Required elective
Class code	104	Year of study	1
Credits	2	Semester	1
Class type	lecture	Mode of instruction	Distance Learning
Instructors	Yumi Tamura Mariko Ohara Yoshikazu Maruyama ¹⁾ Munehiro Hayashi ¹⁾ Kozo Ueda ²⁾ Taketsune Kobuchi ²⁾	Affiliation	Japanese Red Cross College of Nursing Guest lecturer 1) Japanese Red Cross Medical Center 2) Kobe Kyodoh Hospital 3) Fukui University
Office hours / location	By emailing	Contact details	y-tamura@redcross.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<p><u>Objectives</u> To learn basic abilities to apply in disaster medical systems of diverse disasters, and medical knowledge to address disaster medical activities.</p> <p><u>Attainment targets</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Understand the context of disaster medical science and disaster nursing, including cooperation. 2. Be able to explain different kinds of disasters, disaster cycle, and necessary knowledge to medical activities associated with the disaster site. 3. To understand the role of disaster medical coordinator and develop nursing coordinator methods. 4. Understand the basics of pathology and treatment of disaster surgery 5. Understand the basics of pathology and treatment of radiation medicine, correspondence to inhabitants, nursing care 6. Understand the background and pathology of disaster-related deaths and their preventive measures. 		
Class description	<p><u>Overview</u> Further deepen the basic knowledge of disaster medical activities. Cultivate the practical ability to be able to exercise a role as a leader from the nursing perspective at scenes of the disaster medical activities</p> <p><u>Class plan</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Disaster Medical Science orientation(Yumi Tamura), Issues and measures through medical/health support activities for large-scale disasters (Mariko Ohara ①) 2. Disaster Medical activities on site features and their structures(Yoshikazu Maruyama ①) 3. Disease structure by type of disaster, disaster cycle and disaster site (Yoshikazu Maruyama ②) 4. 3T of disaster medicine's medical response, mechanisms of CSCA supporting 3T(Yoshikazu Maruyama ③) 5. Disaster Medical coordinator role and challenges(Yoshikazu Maruyama ④) 6. Simulation: CSCA3T medical response in localized and large-scale disasters (Yoshikazu Maruyama ⑤) 7. Emergency surgical management of critical patients at the time of a disaster, part I.(Munehiro Hayashi ①) 		

	8. Eemergency surgical management of critical patients at the time of a disaster, part II.(Munehiro Hayashi ②) 9. Identification of medical needs and interventions for mobile clinics in affected areas (Munehiro Hayashi ③) 10. Disaster of Physical assessment: START system and examination of priority by simulation (Mariko Ohara ②) 11. Outline of radiation medicine, residents support and activities after the Great East Japan Earthquake (Taketsune Kobuchi ①) 12. Role of nursing on acute radiation medicine(Taketsune Kobuchi ②) 13. Disaster-related deaths : the legal meanings compared among the Great Hanshin-Awaji Earthquake and the Great East Japan Earthquake(Kozo Ueda ①) 14. Disaster-related deaths mechanism : the context of the evacuation life and the difference between shelter and home evacuation(Kozo Ueda ②) 15. Prevention of disaster-related deaths, collaboration with nursing and care (Kozo Ueda ③)
Textbooks	Handout before lecture
Reference materials	<ul style="list-style-type: none"> ・ 石井正:東日本大震災 石巻災害医療の全記録, ブルーバックス, 2012. ・ MIMMS 日本委員会訳:第3版 MIMMS 大事故災害への医療対応, 永井書店, 2012. ・ 山本保博等:災害医学, NPO 災害人道医療支援会 2011. ・ ICRC: War Surgery, 2011. ・ Mark E. Byrness etc. Nuclear, Chemical,and Biological Terrorism,Emergency Response And Public Protection, Lewis Publishers. ・ 箱崎幸也等: 基礎からわかる被曝医療ガイド, 日経メディカル開発, 2011. ・ 医療問題研究会編: 低線量・内部被曝の危険性, プライム, 2011. ・ 上田耕蔵:東日本大震災 医療と介護に何が起こったのか/震災関連死を減らすために, 萌文社, 2012. ・ 神戸医療生活協同組合編: お前らもはよ逃げてくれ、阪神淡路大震災- 神戸医療生協の活動記録 (ネット上で公開)
Grading	Written exam or report for each instructor. Participation in classes.
Cautions and prerequisites	<ul style="list-style-type: none"> ・ While it is omnibus class, along with the characteristics of each course contents, students should capture the overall picture of disaster medical science. Participate actively in simulations and exercises.
Notes	<ul style="list-style-type: none"> ・ Please read several books reporting true stories related to the disaster medical activities. On a daily basis, collect information from the media (newspaper and website, through TV, etc.) about types of disasters, the magnitude of the damage, victims, actuality of medical relief activities.

Class title	Disaster Information Science 災害情報学	Section	Required elective
Class code	105	Year of study	1
Credits	2	Semester	1
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance Learning
Instructors	Satoru Aikawa	Affiliation	Graduate School of Engineering, University of Hyogo
Office hours / location	Appointments as required	Contact details	aikawa@eng.u-hyogo.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<u>Objectives</u> Students study the meaning and role of information and communication in human society, its desired form during disasters, and the basics of ICT (information and communication technology). <u>Attainment targets</u> <ul style="list-style-type: none"> Students understand the meaning of information and communication. Students can consider transmission of information and means of communications during disasters based on problems related to the transmission of information. Students acquire knowledge of communication methods based on ICT technology and can examine methods of information transition during disasters. 		
Class description	<u>Aims</u> Students understand the meaning of information in human society and issues of communication methods and acquire the ability to efficiently use information transmission systems in difficult situations such as disasters. <u>Class plan</u> #1: What is Communication? #2: Information / Communication Models #3: Discussion on Communication , Mutual Understanding and Code #4: Agents of the Mind and Realms of Thought #5: Discussion on Agents of the Mind and Realms of Thought #6: Easy Decision (Decision without Enough Information) #7: Discussion on Easy Decision #8: Meta-Message, Safety / Security and Communication on Disasters #9: Discussion on Meta-Message #10: Information Transmission, Media, Broadcasting Low #11: Discussion on Information Manipulation #12: ICT Technology #13: Medical Information Engineering(1) #14: Medical Information Engineering(2) #15: General Discussion		
Textbooks	Not required		
Reference materials	<ul style="list-style-type: none"> 西垣通著『基礎情報学』NTT 出版, 2004 矢守克也著『巨大災害のリスクコミュニケーション』ミネルヴァ書房, 2013 船津衛著『コミュニケーション入門・改訂版』有斐閣アルマ, 2010 西澤真理子著『リスクコミュニケーション』エネルギーフォーラム新書, 2013 ロバート・チャルティニーニ著『影響力の武器』誠信書房, 1991 		
Grading	Comprehensive evaluation of class participation and reports		
Cautions and prerequisites	Not required		
Notes	Not required		

Class title	Disaster Psychology 災害心理学	Section	Required elective
Class code	106	Year of study	1
Credits	2	Semester	1
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance learning
Instructors	Shoji Tsuchida	Affiliation	Part-time instructor, University of Hyogo
Office hours / location	Appointments as required	Contact details	tsuchida@kansai-u.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<u>Objectives</u> Students study the characteristics of psychological reactions and behaviors of people who are at emergencies or disasters, such as natural disasters and accidents while considering strategies, including those for preparing and responding to disasters, based on these characteristics. <u>Attainment targets</u> <ul style="list-style-type: none"> Students can correctly understand the psychology and behaviors of people who have encountered emergencies and disasters. Students develop psychological preparedness for emergencies and disasters by understanding disaster in terms of risk. Students deepen their understanding by examining specific examples of emergencies and disasters. 		
Class description	<u>Aims</u> Students understand psychology and behavior during disasters by dividing problems into the disaster preparation (pre-disaster), mid-disaster, and post-disaster stages. In particular, students develop the ability to understand specific examples of disasters from a psychological perspective. <u>Class plan</u> <ol style="list-style-type: none"> Organizing the Concepts of Risk and Safety/ Security Organizing the Concepts of Emergency, Crisis, Disaster, and Accident Psychology in Disasters(controllability, emotion and reason, myths of panic) Crisis Response during Disasters (role of leaders, crisis communication, self / community/ public help) Risk Perception during Disasters(various cognitive biases, the affect heuristic) Experiencing Loss (Losing loved ones and close friends and relatives) Critical Incident Stress and Feelings of Guilt Risk Communication on the Fukushima Dai-ichi NPP accident [Case Study] Specific Examples of Emergencies and Disasters(discussions based on student report presentations) 		
Textbooks	Not required		
Reference materials	Not required		
Grading	Comprehensive evaluation of class participation, presentations, and reports		
Cautions and prerequisites	The Class will center on lectures and discussion. And the students will be required to present their reports for discussion.		
Notes	Not required		

Class title	Disaster and Culture 災害と文化	Section	Required elective
Class code	107	Year of study	1
Credits	1	Semester	1
Class type	Lecture, fieldwork	Mode of instruction	Sessions 1 - 8: Distance learning (Sessions 6 - 8: Face-to-face class is selectable)
Instructors	Harue Masaki ¹⁾ Yutaka Iwasaki ²⁾ Yuki Mochizuki ³⁾	Affiliation	1) Graduate School of Nursing, Chiba University 2) Graduate School of Horticulture, Chiba University 3) Tohto College of Health Sciences, Faculty of Human Care
Office hours / location	Appointments as required	Contact details	hmasaki@faculy.chiba-u.jp
Class objectives and attainment targets	<u>Objectives</u> First, to understand the significance of cultural perspectives at disaster support and to improve their cultural sensitivity. Second, to survey relevant concepts and theories, and deliberate the cultural approach through practical examples. <u>Attainment targets</u> To develop the cultural perspectives and sensitivity necessary to disaster support. To practice the appropriate care and communication considering the culture of the disaster area.		
Class description	Omnibus course (Harue Masaki : 3 sessions, Yuki Mochizuki : 2 sessions, Yutaka Iwasaki : 3 sessions) <u>Distance learning</u> 1) Foundations of Cultural Care in Disaster Nursing 2) Cultural nursing and care 3) Basic Concept of Culture in Disaster Nursing 4) Methods of Cultural Care through Practice Examples (1) 5) Methods of Cultural Care through Practice Examples (2) <u>Distance learning (Face-to-face class is selectable)</u> 6) Methods of Administering Care Using the Natural Features and Culture of the Disaster Area as a Tool 7) Fieldwork Using Plants as Communication Tools 8) Regional hands-on cultural learning experiences through plants.		
Textbooks	Not required		
Reference materials	<ul style="list-style-type: none"> Christie W. Kiefer, Doing Health Anthropology: Research Methods for Community Assessment and Change, 2006, Springer Pub Co; Madeleine M. Leininger, Culture Care Diversity and Universality: A Theory of Nursing, 2001, Jones & Bartlett Pub 		
Grading	Comprehensive evaluation of class participation, presentations, and reports		
Cautions and prerequisites	Herbs used in the Lecture 7-8 will be cultivated by each student.		
Notes	Sessions 6 - 8: Face-to-face class is selectable		

Class title	Disaster Sociology 災害社会学	Section	Required elective
Class code	212	Year of study	2
Credits	1	Semester	2
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance learning
Instructor	Kamon Nitagai	Affiliation	Professor Emeritus, University of Tokyo
Office hours / location	At the end of the day of intensive lectures	Contact details	nitagai@l.u-tokyo.ac.jp
Class objectives and attainment targets	Students examine approaches to supporting victims during disasters and consider new ways of thinking about support and hearing the “voices” of victims through the examples of the 1995 Great Hanshin Awaji Earthquake and the Great Hanshin Awaji Earthquake while examining the theories of support and care that emerged from these support activities.		
Class description	<ol style="list-style-type: none"> How Does Sociology View Humans in Disasters and Crises? (Course introduction) Methods are necessary when addressing subtle changes in society. Support Theory I: What is Practical Knowledge? Differences with reasoning (metaphysics), technical knowledge, and empirical knowledge Support Theory II: The “Speaking – Listening” Relationship between Victims and Supporters What is fundamental communication? Support Theory III: What is Co-Presence? Understanding and responding to difficulties of co-presence “Voices” of Victims I: The “Murmurs” of <i>Ashiyu</i> (footbath) Volunteers and Disasters Victims What are the “murmurs” of victims? What can we learn from them? “Voices” of Victims II: “Spiritual Autonomy” and “Independence in Society” Caring for “Spiritual Problems” and “Spiritual Autonomy” “Voices” of Victims III: Toward a Method of Sympathy Consider sympathetic methods that arise from the interactive relationship between victims and supporters Support and Care Consider the practical aspects of support. Establishing social mechanisms for support. Toward knowledge that transcends the closed nature of specialist knowledge. Aiming for diverse attempts and their connections 		
Textbooks	Not required		
Reference materials	<ul style="list-style-type: none"> Kamon Nitagai, Disaster-time Economy and an Economy of Morals: A Different Economic Order from the Market Economy Under Globalization, <i>International Journal of Japanese Sociology</i> 2012, Number 21. (p.77~P83) 関西看護出版、似田貝香門・吉原直樹編著 『震災と市民—自立と復興』（第2巻支援とケア） 似田貝香門・村井雅清編 『被災者と足湯ボランティア —被災者の自立へ向かう新たなケアの試み』（生活書院） 		
Grading	Reports		
Cautions and prerequisites	Questions are welcome any time. Instructors will also ask questions. Discussion focused.		
Notes	Not required		

Class title	Disaster Social Welfare 災害福祉学	Section	Required Elective
Class code	206	Year of study	2
Credits	1	Semester	1
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance learning
Instructor	Yoshiteru Murosaki	Affiliation	Director, University of Hyogo Education Center for Disaster Reduction
Office hours / location	As required / inquire by email	Contact details	y.murosaki@mist.ocn.ne.jp
Class objectives and attainment targets	After gaining an understanding of the structure and characteristics of disasters, students develop a specific understanding of the approaches and measures for damage reduction based on these according to the disaster cycle of preparedness, emergency response, and recovery. In particular, students examine fields such as social welfare, disaster nursing, and livelihood protection and consider their ideal state in relation to disaster mitigation.		
Class description	<p>I. Theory of Disasters: Students learn about the structure and characteristics of disasters by considering examples.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Examples and Classification of Disasters 2. Structure and Characteristics of Disasters <p>II. Introduction to Disaster Prevention: Students grasp the overall picture of disaster prevention strategies and systems.</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. Learning about Disaster Prevention from Catastrophes 4. Basic Frameworks for Disaster Prevention 5. Approach to Disaster Mitigation and Its Implementation <p>III. Theory of Disaster Prevention: Students learn about prevention measures for different types and stages of disasters</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. Disaster Response and Social Welfare 7. Emergency Response and Disaster Nursing 8. Reconstruction and Livelihood Support <p>IV. Disaster Welfare Theory: Students learn about welfare from the perspective of disaster mitigation.</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. Protecting Lives and Livelihoods through Welfare 10. Disaster Welfare for Persons in Need of Support 11. Life Revival and Disaster Welfare 12. Disaster Welfare and Disaster Nursing 13. Disaster Welfare and Related Laws <p>V. Summary</p>		
Textbooks	Not required		
Reference materials	メディカ出版「災害の統合と実践③災害看護」		
Grading	Reports		
Cautions and prerequisites	Students are advised to study examples of disasters well before the class begins		
Notes	Not required		

Class title	Professional Writing	Section	Elective Course
Class code	207	Year of study	2
Credits	1	Semester	1
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance learning
Instructor	Hyeon Ju Lee	Affiliation	University of Kochi
Office hours / location	Appointments <u>upon request</u>	Contact details	hyeonster@gmail.com
Class objectives and attainment targets	<p>1) Students will learn to be able to compose paragraphs, academic essays, synopses, and abstracts in English for academic/professional purposes. Students will gain skills to differentiate academic writing from everyday English expressions and put the skills to practice in written communication.</p> <p>2) Students will gain appropriate knowledge on technical nursing writing style, and the “Disaster Lexicology” (main technical terms in use in disaster/humanitarian field) and methodology to communicate or publish one's work.</p>		
Class description	<p>Writing is an essential element of academic career. Particularly for those who are interested in global/international collaboration/career/engagement, it is essential to be well versed in professional/academic English. The demands for English writing has heightened in recent years due to increased use of electronic communication technology, such as email, SNS, and other online devices, and not to mention the crucial responsibility to engage in academic activities by publishing and exchanging idea in writing. Thus it is crucial for DNGL students to be fluent in academic English expressions to perform excellence in the field of global disaster nursing. This course offers the basic tools for creating better sentences and critical thinking for formulating ideas for writing academic papers.</p> <p>Week 1: Semantics, vocabulary, and phrases in academic English writing</p> <p>Week 2: Effective sentence writing</p> <p>Week 3: Technical terminology for disaster nursing</p> <p>Week 4: Syntax: Technical tools for writing (1)</p> <p>Week 5: Syntax: Technical tools for writing (2)</p> <p>Week 6: Writing paragraphs</p> <p>Week 7: Writing process: from paragraphs to an essay</p> <p>Week 8: Transition and connecting expressions.</p> <p>Week 9: Structure of a research paper (1)</p> <p>Week 10: Structure of a research paper (2)</p> <p>Week 11: Writing summaries, part 1</p> <p>Week 12: Writing summaries, part 2</p> <p>Week 13: Writing abstract, part 1</p> <p>Week 14: Writing abstract, part 2</p> <p>Week 15: Writing annotated bibliography</p>		
Textbooks	<p>1) Swales, J. and C. Feak. 2004. Academic Writing for Graduate Students. Michigan University Press;</p> <p>2) Bailey. S. 2001. Academic Writing: A Handbook for International Students. London and New York: Routledge.</p>		

Reference materials	1) Glenn and Grey. 2012. The Hodges Harbrace Handbook. International Edition. Heinle. 2) Roget's 21st Century Thesaurus, 3rd Edition. Princeton Language Institute
Grading	Assessments criteria: weekly assignments and in-class performance.
Cautions and prerequisites	Students are required to know how to write sentences in English. Students are expected to know how to type in English in order to participate in-class discussion and complete assignments. All assignments must be submitted by specified deadlines. No late submissions are accepted.
Notes	Course materials and contents are open to changes. The language of instruction for this class is English with some Japanese explanations, only when necessary.

Class title	Proposal Writing (Research proposal writing skill)	Section	Required elective
Class code	208	Year of study	2
Credits	1	Semester	1
Class type	Seminar	Mode of instruction	Distance learning
Instructors	Akiko Kondo Erika Ota Ann L. Eckhardt	Affiliation	Tokyo Medical and Dental University St Luke's International University School of Nursing, Illinois Wesleyan University
Office hours / location	Anytime by appointment	Contact details	akondo.ind@tmd.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<u>Objectives</u> Students will learn doctoral dissertation writing skills including the components and specialized terminologies used in research proposals. Students will critique actual research proposals and practice writing proposals in English, and deepen their contents through presentation and discussion, aiming to acquire practical English composition skills.		
	<u>Attainment targets</u> <ul style="list-style-type: none">• Students will understand composition of research proposals to be submitted to professionals and non-professionals.• Students will learn how to conduct systematic review and summarize literature.• Students will learn about the system of US nursing research grants and the evaluation and grading method for research proposals.• Students will actually formulate a research proposal according to its components.		
Class description	【Lectures 1-3, 6】 Akiko Kondo Students will understand simple, clear methods of expression for effective composition of research proposals to be submitted to professionals and non-professionals. They will duly consider differences between academic and daily English expressions, with a view to international joint research with multi-disciplinary professionals in local communities and overseas.		
	【Lecture 4-5】 Erika Ota Students will learn how to conduct systematic review and summarize literature. 【Lecture 13】 Ann L. Eckhardt Students will learn about the system of US nursing research grants and the evaluation and grading method for research proposals. Examples of outstanding proposals and research products will be analyzed, and students will reinforce their understanding about the characteristics of outstanding proposals. 【Lecture 7-12, 14-15】 Akiko Kondo / Ann L. Eckhardt (2 sessions) Students will actually formulate a research proposal according to its components: a proposal outline, grounds (literature review), a budget, ethical considerations, and expected results. They will present full-page research proposals, critique and discuss each other's proposals, and refine their contents.		
		Contents	Instructors
	1	Orientation, The way of presentation in English	Akiko Kondo
	2	How to write a research proposal	Akiko Kondo
	3	Example of research proposal, substruction	Akiko Kondo
	4-5	How to conduct a systematic review	Erika Ota
	6	How to write a research paper, points of writing a manuscript, example of published paper	Akiko Kondo

	7	Selection of study theme background	Akiko Kondo
	8	Selection of study theme background Theoretical framework, and definition of terms	Akiko Kondo
	9	Theoretical framework, and definition of terms	Akiko Kondo
	10	Study design, targeted subjects Method for data collection Data analysis	Akiko Kondo
	11	Study design, targeted subjects Method for data collection Data analysis	Akiko Kondo
	12	Expected results / Limitation of study / Ethical consideration	Akiko Kondo
	13	The system of US nursing research grants and the evaluation and grading method for research proposals	Ann L. Eckhardt Akiko Kondo
	14	Proposal presentation and discussion	Akiko Kondo Ann L. Eckhardt
	15	Proposal presentation and discussion	Akiko Kondo Ann L. Eckhardt
Textbooks	Not required		
Reference materials	Elizabeth M. Torniquit, From Proposal to Publication: An Informal Guide to Writing about Nursing Research (Japanese translation), Igaku-Shoin, 2007		
Grading	Participation for discussion 20% Presentation 30% Final proposal 50%		
Cautions and prerequisites	Lecture, discussion, presentation, and proposal writing will be done basically all in English. It is necessary for students to have oral conversation and writing skills in English. Please submit 1page essay about the motivation of yours to take this class beforehand. It is desirable for students to have a specific research theme in order to complete a research proposal, but they can create an imaginary proposal.		
Notes	Order and contents of classes can be changed.		

Class title	Program Writing (Program proposal writing skill)	Section	Required elective
Class code	305	Year of study	3
Credits	1	Semester	2
Class type	Seminar	Mode of instruction	Distance learning
Instructors	Arturo Pesigan	Affiliation	WHO South East Asia Regional Office (University of Hyogo)
Office hours / location	Appointment bases	Contact details	c/o sonoe_mashino@cnas.u_hyogo.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<p><u>Objectives</u> In many organizations, new agenda or necessary activity plan need to be proposed on the table before accepted as the organizational activity. This course will focus on not only how to write the proposal, but to understand what is the program.</p> <p><u>Attainment targets</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Students will be able to state what the unit and structure necessary for composed of the WHO program. 2. Students will be able to make a successful proposal for given agenda. 		
Class description	<p>The class will be offered in concentrated schedule in late October via TV system.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction of WHO actions which require proposal for project and/or program will be given as an example of international organization. Several example will be given according to the nature of the division of Health Emergency and Humanitarian Effort. 2. What is the program component according to the purpose. 3. What kind of proposal would move the acceptance. 4. Exercise for the skill aquisition to write the proposal. <p>Dr. Pesigan is a WHO officer specialized in Health Emergencies and Humanitarian Action.</p>		
Textbooks	Announce in later time.		
Reference materials	Announce in later time.		
Grading	Draft of project proposal in English.		
Cautions and prerequisites	None		
Notes	None		

Class title	Disaster Nursing Activity I 災害看護活動論 I	Section	Required
Class code	108	Year of study	1
Credits	2	Semester	1
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance learning
Instructors	Yoshiko Sasaki ¹⁾ Yasuhiro Ootomo ¹⁾ Tomoko Komagata ¹⁾ Yuki Takamura ²⁾ , Mieko Ishii ³⁾ , Yoshiko Fukushima ⁴⁾	Affiliation	1) Tokyo Medical and Dental University 2) Tokyo Medical and Dental University Medical Hospital 3) International University of Health and Welfare 4) Nagasaki University
Office hours / location	Appointments as required	Contact details	y-sasaki.dn@tmd.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<p><u>Objectives</u></p> <p>Students will become familiar with the following features: disaster risk reduction in the seismic quiescence, the principles and the activities of medical, nursing, and healthcare in the super-acute to the semi-acute disaster stage. Especially, they will learn roles of nursing in characteristic medical response, support for evacuees and people who cannot return home, care for the disaster victims and their families in the acute outbreak stage.</p> <p>They will also learn the industry-university-government cooperative activity and the roles of nursing for collaboration.</p> <p><u>Attainment targets</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To understand the characteristic (including the structure of injured people classified by disaster type) and the principal of the correspondence of major natural disaster and specific disaster from the seismic quiescence to the semi-acute disaster stage. 2. To understand the overview of emergency medical activity and nurse's role in specific disaster situation. 3. To understand the role of medical institute required to accept patients and offer a space for evacuation despite it being a damaged facility 4. To understand the disaster site, medical problems of evacuees and life support in evacuation center, and a system of cooperation with community medicine. 		
Class description	<p>【Lecture1】 Yoshiko Sasaki</p> <ul style="list-style-type: none"> • Orientation • Definition of the disaster, the classification of major natural disaster and the specific disaster, and the outbreak situation of the disaster at home and abroad. • The feature of disease structure of injured people classified by the disaster type in an acute to semi-acute phase, and medical problems and effects on the lives that were brought to disaster victims and supportive people. <p>【Lecture2】 Yoshiko Sasaki</p> <ul style="list-style-type: none"> • Definition of the disaster nursing, the history and the national policy change on a disaster and the disaster nursing • Role of the nurse along the disaster cycle and competency necessary for nursing activity <p>【Lecture3】 Yoshiko Sasaki</p> <ul style="list-style-type: none"> • The principals of the disaster response (e.g. Disaster risk reduction, acute medicine and care, and public health) in the acute to the semi-acute disaster phase of major natural disaster and 		

Class description	<p>specific disaster.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Basic concepts of the disaster prevention measures against large-scale disasters in big cities during the disaster preparation period, efforts of industry, government and academia, and expected role in nursing . <p>【Lectures4-5】 Mieko Ishii</p> <ul style="list-style-type: none"> • Nursing activity in the acute phase of a domestic disaster, and nursing activity in the acute phase of a disaster in an overseas intercultural environment. <p>【Lecture6】 Tomoko Komagata</p> <ul style="list-style-type: none"> • Infectious diseases and countermeasures in the acute to subacute phase of disaster <p>【Lectures7-8】 Yasuhiro Ootomo</p> <ul style="list-style-type: none"> • Overview of the disaster medical system at home and abroad. (The activities of international disaster relief teams, and domestic disaster medical assistance team.) <p>【Lectures9-10】 Yasuhiro Ootomo</p> <ul style="list-style-type: none"> • Overview of relevant Nuclear-Biological-Chemical disasters, and the medical activities in hospitals.(mainly on a chemical disaster). <p>【Lectures11-12】 Yuki Takamura</p> <ul style="list-style-type: none"> • Medical team activity and the nursing role in a disaster situation at home and abroad (e.g.in the JDR and the DMAT activity). <p>【Lectures13-14】 Yoshiko Fukushima</p> <ul style="list-style-type: none"> • The principles of the medical and the nursing activities in nuclear and radiation disaster. <p>【Lecture15】 Tomoko Komagata</p> <ul style="list-style-type: none"> • Health problems that disasters bring to people with chronic disease, mothers and children, elderly people and the support for them in the acute to the semi acute disaster phase.
Textbooks	Introduce in timely
Reference materials	<ul style="list-style-type: none"> • International disaster nursing / edited by Robert Powers and Elaine Daily ; Cambridge University Press, 2010.
Grading	Learning attitude 30%, assignment 70%
Cautions and prerequisites	When being required an assignment, each student should submit it on time.
Notes	The contents and schedules of lesson may change as needed.

Class title	Disaster Nursing Activity II 災害看護活動論 II	Section	Required
Class code	109	Year of study	1
Credits	2	Semester	1
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance Learning
Instructors	Yumi Tamura , Mie Naiki Mariko Ohara	Affiliation	Japanese Red Cross College of Nursing Guest Lecture
Office hours / location	1hr. following each lecture • room 408/406 or email	Contact details	y-tamura@redcross.ac.jp m-naiki@redcross.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<p><u>Objectives</u></p> <p>This subject focuses on the sub-acute phase and later restoration/reconstruction phase in the disaster management cycle. To understand the fundamental knowledge to nursing activities including hospital disaster preparedness, regional disaster prevention, related legal system, etc., based on public health, basic knowledge of nursing management theories such as organizational theory and human resource utilization theory.</p> <p>Specifically learn about cooperation and collaboration systems with other organizations, etc., and understand the need for a social system and disaster-related legal and organizational system in Japan and overseas.</p> <p><u>Attainment targets</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • Learning the knowledge of the public health in the event of a disaster. • To understand the perspective of disaster management based on the fundamental knowledge of nursing management theory, such as human resources utilization theory. • To understand of the role of nursing leaders in a hospital and an affected area for risk reduction and disaster response, likely information management and related legal system, operation of set up a shelter and special support activities for evacuees/survivors needed. 		
Class description	<p><u>Overviews</u></p> <p>Public health perspectives are an important point of view in disaster nursing activities. Students are able to learn knowledge and skills that can be used for their inter-professional/agency collaborative activities.</p> <p><u>Class plan</u> Omnibus</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Health management in disaster response ① (Yumi Tamura) 2) Health management in disaster response ② (Yumi Tamura) 3) Public Health Perspectives in disaster response ① (Yumi Tamura) 4) Public Health Perspectives in disaster response ② (Yumi Tamura) 5) Disaster-related surveillance, hazard assessment, vulnerability analysis, risk assessment and rapid health assessment (Yumi Tamura) 6) Disaster Management and IPW (coordination between the inter-professional/Agency) ① (Yumi Tamura) 7) Disaster Management and IPW (coordination between the inter-professional/Agency) ② (Yumi Tamura) 8) Vulnerable people/Survivors: who they are and what their care needs are (Mie Naiki) 9) Preparation and narrative listening skills for the disaster relief activities ① (Mie Naiki) 10) Preparation and narrative listening skills for the disaster relief activities ② (Mie Naiki) 11) Importance of public health in the shelter (Mariko Ohara) 12) Initial response of leader nurses in the affected hospital (Mariko Ohara) 		

	13) Assess the shelter, response based on the legal system when vulnerable group require evacuation assistance (Mariko Ohara) 14) Disaster Preparedness① Coordination and cooperation with other departments and organizations in terms of the hospital disaster prevention (Mariko Ohara) 15) Disaster Preparedness② Cooperation and collaboration with public and private sectors and institutions on the Regional Disaster Prevention (Mariko Ohara)
Textbooks	No specifying. Presenting related materials and hand-out during the lecture
Reference materials	<ul style="list-style-type: none"> • WHO :「Framework for Action on Inter Professional Education & Collaborative Practice」2010 • Royeen, C.B., Jensen G.M., Harvan R.A.: Leadership in Inter Professional Health Education and Practice, Jones and Bartlett Pub. 2009 • Tener Goodwin Veenema Editor: Disaster Nursing and Emergency Preparedness 3rd Edition, Springer Publishing Company,2013. • Linda Young Landesmann :Public Health Managements of Disasters 2nd Edition: American Public Health Association,2005. • シリーズ 災害と社会第 1 巻～第 8 巻, 弘文堂, 2007. • 勝見敦・小原真理子編集: 災害救護—災害サイクルから考える看護実践、ヌーベル廣川, 2012.
Grading	Summative evaluation with class participation presentation and report
Cautions and prerequisites	Using VTR and kinds of simulated learning. To obtain theory-in use and Skills.
Notes	On a daily basis, peruse newspapers and websites, TV, etc., regarding reports of disaster situations, its size, victims, actual information about the relief activities, and strive to collect information.

Class title	Disaster Nursing Activity III 災害看護活動論Ⅲ	Class type	Required
Class code	116	Year of study	1
Credits	2	Semester	2
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance learning
Instructor	Misako Miyazaki Takako Ito	Affiliation	Graduate School of Nursing, Chiba University
Office hours / location	Appointments as required	Contact details	miyamisa@faculty.chiba-u.jp tito@chiba-u.jp
Class objectives and attainment targets	<p><u>Objectives</u></p> <p>Students clarify the health issues and needs that should be dealt with during disasters in the long- to medium-term and learn methods for constructing activity frameworks.</p> <p><u>Attainment targets</u></p> <ul style="list-style-type: none"> Students can understand methods for continuously capturing and analyzing needs at the community level. Students can understand methods for connecting necessary activities to collaborative initiatives, frameworks and policy establishment, and the creation of health culture in the community. Students can understand the leadership roles necessary for responding to health issues in disasters in the long- and medium-term. 		
Course description	<p><u>Aims</u></p> <p>Students develop perspectives for continuously capturing and understanding disaster health needs at the community level and planning, promoting, and evaluating activities from managerial and systematic perspectives.</p> <p><u>Class plan (15 lectures)</u></p> <p>Lectures 1: Basic Approach and Methods for Community Level Nursing Activities (Misako Miyazaki)</p> <p>Lectures 2: Constructing Frameworks for Disaster Activities and Establishing Policy (Misako Miyazaki)</p> <p>Lectures 3 : Government (National, Prefectural, and Municipal) Disaster Response Systems and the Role of Nurses (Misako Miyazaki)</p> <p>Lecture 4: Creation of Community Health Culture in Disasters (Misako Miyazaki)</p> <p>Lecture 5: Concept of Primary Health Care and Interprofessional Cooperation (Takako Ito)</p> <p>Lecture 6: Usage of PCM (Project Cycle Management) for Community Regeneration (Takako Ito)</p> <p>Lecture 7: Epidemiological Methods for Collecting and Analyzing Information in Disasters (Takako Ito)</p> <p>Lecture 8: Assessment of the target area (Takako Ito)</p>		

	<p>Lecture 9: Reproduction of the culture in the community (Takako Ito)</p> <p>Lecture10: Support System for Foreign Victims in Japan at Disaster (Takako Ito)</p> <p>【Lectures 11– 15】</p> <p>Using examples of disaster activities, students examine community level health needs that should be considered in the long- to medium-term and, in order to respond to these needs, consider methods for constructing activity frameworks from managerial and systematic perspectives. In lectures 11 - 14, students conduct preparatory study (individual work) and discuss and reflect on their findings during the lectures. The following health needs are included in activity case studies:</p> <p>Lecture 11-12: Latent Health Needs; Independence Support for Victims and Community Regeneration (Ito)</p> <p>Lecture13-14: Exhaustion among Support Workers and Others Involved and Support for them; Interpreting and Transmitting Disaster Experiences. (Misako Miyazaki)</p> <p>Lecture 15 will provide an overall summary of the course.(Misako Miyazaki / Takako Ito)</p>
Textbooks	Not required
References	<p>宮崎美砂子、北山三津子、春山早苗、田村須賀子編集：最新公衆衛生学 総論.日本看護協会出版会、2014.</p> <p>ローレンス・W. グリーン、マーシャル・W. クロイター：実践ヘルスプロモーション—PRECEDE - PROCEED モデルによる企画と評価. Health Program Planning: An Educational and Ecological Approach 4th ed. 2005.（翻訳版、医学書院）</p> <p>日本国際保健医療学会編集：国際保健医療学 第3版、杏林書院、2013.</p>
Grading	Comprehensive evaluation of class participation, presentations, and reports
Cautions and prerequisites	Not required
Notes	Not required

Class title	Advanced Disaster Nursing Theory 災害看護学特論	Class type	Required
Class code	302	Year of study	3
Credits	2	Semester	1
Class type	lecture	Mode of instruction	Distance learning
Faculty	Aiko Yamamoto	Affiliation	University of Hyogo
Office hours / location	Tuesday	Contact detail	a_yamamoto@cnas.u-hyogo.ac.jp
Class objective and attainment targets	<p><u>Purposes</u></p> <p>Purpose of this class is to explore about disaster, disaster nursing emotionally, cognitively, and sensuously. Further, students explore disaster nursing as discipline by practicing conceptual analysis.</p> <p><u>Attainment aims</u></p> <p>①Students describe what disaster, disaster nursing, and anshin are with concrete examples. Students also explore these concepts by hearing others and discussion.</p> <p>②Students perform concept analysis based on own concern.</p> <p>③Students describe what disaster nursing is.</p>		
Class description	<p>Class schedule</p> <p>1 Orientation</p> <p>2—7 the first step : To describe and present the following terms briefly with own experience, cartoon, picture, poem, essay and others, not include specialized book and professional articles. To explain the reason of your choice and actively discuss each other.</p> <p>①What disaster is. (2—3)</p> <p>②What disaster nursing is. (4—5)</p> <p>③What Anshin is. (6—7)</p> <p>8—9 the second step : To describe what disaster and disaster nursing is integrate with specialized book and professional articles. Students hear each other and discuss actively.</p> <p>10—13 the third step : Students perform concept analysis with choosing the concept. To summarize situation-specific theory.</p> <p>①Concept which student chose (10—12)</p> <p>②Situation-specific theory (13)</p> <p>14—15 To describe and present of disaster nursing</p>		
Textbooks	None		
References	Theories nursing II		
Grading	Total evaluation with presentation in the classroom and report		
Caution and prerequisites	None		
Note	None		

Class title	Theory in Disaster Nursing Global Coordination 災害看護グローバルコーディネーション論	Section	Elective
Class code	303	Year of study	3
Credits	1	Semester	1
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance Learning (Biweekly in general)
Instructors	Hiroshi Higashiura, Yumi Tamura	Affiliation	Japanese Red Cross College of Nursing
Office hours / location	1hr. following each lecture / room 601	Contact details	h-higashiura@redcross.ac.jp y-tamura@redcross.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<p><u>Objectives</u></p> <p>To learn the various treaties and humanitarian charters such as International Humanitarian Law (IHL), Convention and Protocol Relating to the Status of Refugees, and International Disaster Response Laws, Code of Conduct for International Red Cross and Red Crescent Movement and NGOs in Disaster Relief, Sphere Project etc., which are essential knowledge and skills when you be deployed for the international relief activities;</p> <p>To examine policies and activities of the international agencies playing an active part in the event of a disaster, namely UN agencies, International Red Cross Movement, and International NGOs, and</p> <p>To consider the role required for global leader in connection with the coordination and cooperation with these international organizations.</p> <p><u>Attainment targets</u></p> <ul style="list-style-type: none"> · Able to understand and utilize the fundamental frameworks for international relief activities, such as treaties, codes of conduct, and minimum standards. - Review the major actors of international relief so that you will be able to cooperate and collaborate with various agencies and organizations in time of a disaster. 		
Class description	<p><u>Lecture 1 Yumi Tamura</u></p> <p>Orientation and overview on disaster nursing and global coordination</p> <p><u>Lectures 2-8 Hiroshi Higashiura</u></p> <p>To review the disaster management (DM) of UN agencies, International Red Cross/Red Crescent Movement and International NGOs</p> <p>To learn various conventions relating to victims and refugees, code of conduct and principles of relief activities and study "Continuum" of relief to development</p> <p>To learn in depth how to utilize treaties and norms in disaster management effectively.</p> <p><u>Class plan</u></p> <p>2) UN & its Agencies and DM: OCHA, UNICEF, WFP, UNISDR, etc.</p> <p>3) International Red Cross/Red Crescent Movement (ICRC, NSs, IFRC), International NGOs (MSF, CARE, World Vision, Save the Children, etc.) and DM</p> <p>4) Rights and duties of medical personnel in armed conflict (IHL), Convention and Protocol Relating to the Status of Refugees, IDPs</p> <p>5) Cluster Approach, Code of Conduct for International Red Cross/Red Crescent Movement and NGOs in Disaster Relief and Sphere Project (1)</p> <p>6) Sphere Project (2)</p> <p>7) Coordination and Range of Interfaces for Humanitarian-Military Liaison; Relief-Development Continuum</p>		

	8) To learn from experiences and activities by a disaster nursing global leader
Textbooks	Not required
Reference materials	Alma Baccino-Astrada: Manual on the Rights and Duties of Medical Personnel in Armed Conflicts, 1982 Sphere Project, 2018 (in preparation) The Journal of Humanitarian Studies, Vol.1—IV, 2011-2015 Web sites of International Red Cross Movement (ICRC / IFRC / Japanese Red Cross Society), UN agencies (UNHCR, UNICEF, WHO, OCHA, etc.) and the international NGOs (Save the Children, MSF, etc.)
Grading	Class Participation (10%), Presentation (50%), Written report (40%)
Cautions and prerequisites	Preliminary study on the subject is required as the related presentation(s) by the student(s) be made and followed by the lecturer's supplemental comments.
Notes	Lectures will be in biweekly in principle. Before lectures commence all participating students will have their respective tasks allocated.

Class title	International Disaster Response 災害国際活動論	Section	Elective
Class code	306	Year of study	3
Credits	1	Semester	2
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance Learning (biweekly in principle)
Instructors	Yumi Tamura, Hiroshi Higashiura	Affiliation	Japanese Red Cross College of Nursing
Office hours / location	1hr. following each class / room 601	Contact details	y-tamura@redcross.ac.jp h-higashiura@redcross.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<p><u>Objectives</u> To study system and tools utilized by UN agencies, International Red Cross/Red Crescent Movement and International NGOs, assessment of disaster situations, as well coordination with the government and institutions, assistance teams, residents representatives in affected area, etc.</p> <p><u>Attainment targets</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • Able to utilize the system and tools provided by international relief agencies • Able to understand various assessment methods of disaster situations. • Able to understand the knowledge of adjustment to and negotiation with the government and residents representatives of affected areas and transform them into relief operations. 		
Class description	<p><u>Lectures 1 (Yumi Tamura)</u> Meaning and effectiveness of inter-professional work (IPW) for global/international disaster nursing activities.</p> <p><u>Class plan</u> 1) Inter-agency collaboration</p> <p><u>Lectures 2-8 (Hiroshi Higashiura)</u> To examine systems and tools for information gathering and analysis, and master these knowledge through experiences of a global coordinator who have been working in various operations. Also, think about the method of negotiation under stress and crisis management, and learn about the role of global coordinator in disaster management.</p> <p><u>Class plan</u> 2) Risk assessment for humanitarian crises and disasters (INFORM), UNDAC, INSARAG, EMTs 3) Tools for Assessment of disaster situations 4) experiences by a global coordinator 5) Persuasive negotiation under stress (1) 6) Persuasive negotiation under stress (2) 7) Crisis management (Security) 8) The role of global coordinator</p>		
Textbooks	Not required		
Reference materials	Web-site relating to OCHA, IASC, ISDR, ICRC, IFRC, etc.; Web-site relating to effective negotiation and influencing, security		
Grading	Class Participation (10%), Presentation (50%), Written report (40%)		
Cautions and prerequisites	Preparatory learning is assumed for students' presentations and discussions. Role play for negotiation is included in the learning activities.		
Notes	Lectures will be in biweekly in principle. Tasks for each student will be allocated in advance.		

Class title	Disaster Nursing Management 災害看護管理・指揮論	Section	Elective
Class code	307	Year of study	3
Credits	1	Semester	2
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance Learning
Instructors	Satoru Yamada Sakiko Kanbara	Affiliation	University of Kochi
Office hours / location	By e-mail	Contact details	yamada@cc.u-kochi.ac.jp kanbara@cc.u-kochi.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<p><u>Objectives</u> To understand the disaster response system for ensuring the survivor's health and life. And learn multidisciplinary collaboration and the role of management and supervision towards the restoration and reconstruction, from point of view as a disaster nursing global leader.</p> <p><u>Attainment targets</u> Students will be able to consider disaster response system through disaster cycle to ensure survivor's the health and life and propose an action such as business continuity planning in health care.</p>		
Class description	<p>Understand importance of IPW (cooperation and cooperation of multidisciplinary) and the disaster response system, toward to ensuring the survivor's health and life just after the disaster as well as restoration and reconstruction, to learn about the role of management and supervision to how to the management resources to take advantage of human, goods, money, information, from the point of view of the disaster nursing a global leader.</p> <p>(VA system / total 8 class) (Satoru Yamada / 4 class) Disaster Nursing management and supervision theory Introduction, Disaster Nursing global leader, IPW and team building, management theory (Sakiko Kanbara / 2 times) Basic and logic of health risk communication, and application to disaster practice, Fostering social capital and the role of leader (Satoru Yamada, Sakiko Kanbara / 2 class) (Joint) Using the actual national and international case, analyze the problem in the event of a disaster; consider the role of management and supervision, to create an action plan.</p>		
Textbooks	Necessary materials, distributed during lecture		
Reference materials	<ul style="list-style-type: none"> ・ 林春男、危機対応標準化研究会、世界に通じる危機対応—ISO22320:2011(JIS Q22320:2013)社会セキュリティ - 緊急事態管理 - 危機対応に関する要求事項解説、日本規格協会 ・ 林春男、田村圭子、井ノ口宗成、牧紀男、組織の危機管理入門—リスクにどう立ち向えばいいのか、丸善 		
Grading	Comprehensive assessment including class participation or the report		
Cautions and prerequisites	We value active participation during the class.		
Notes	Not required		

Class title	Ethics in Disaster Nursing 災害看護倫理	Section	Required
Class code	308	Year of study	3
Credits	1	Semester	2
Class type	Seminar	Mode of instruction	Distance learning
Instructors	Noriko Katada	Affiliation	College of Nursing Art and Science, University of Hyogo
Office hours / location	Appointment base	Contact details	katadan@hirakata.kmu.ac.jp cnaskatada@gmail.com
Class objectives and attainment targets	<p><u>Objectives</u></p> <p>To understand the current situation about the ethical issues that arise in connection with the disaster, to understand the experience of the people. arising from the situation. We based on the principles of security of the person, to speculate how should respond nursing</p> <p><u>Attainment targets</u></p> <p>I believe in the circumstances of people encountered in the event of a disaster, to be able to act as nurses, based on the security of the people.</p>		
Class description	<p><u>Lectures</u></p> <p>In this lesson, as the caregiver, to stimulate the ethical sensitivity to understand the experiences and the situation of the people. Therefore, class discussion will be encouraged based on the pre-class assignment.</p> <p><u>Class plan</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation: carry out a review of the basic principles and methods of analysis of the nursing ethics. 2. Ethics and law at the time of the extraordinary incident. 3. Ethical issues related to disaster 4. Events that may be ethical issues related to the disaster nursing 5. Support culture at the time of the ethical standards 6. Presentation about the ethical phenomenon in each of the focus areas, to expand the class discussion. 		
Textbooks	<p>Fry, TS and Johnstone, M-J. International Council of Nurses Ethics in Nursing Practice 3rd ed. (Chapter 10.) Blackwell, 2008.</p> <p>Veenema, TG, Disaster Nursing and Emergency Preparedness, Springer Publication, 2013.</p>		
Reference materials	Students are requested to do literature review accordingly.		
Grading	Material prepared for discussion in the class and participation during the class period. Report: Each student will make a report for the topic each initiated the discussion.		
Cautions and prerequisites	The students are expected to have basic ethical knowledge used in the practice.		
Notes	None		

Class title	Building Disaster Nursing Theory 災害看護理論構築	Section	Required
Class code	309	Year of study	3
Credits	2	Semester	2
Class type	Lecture with class discussion	Mode of instruction	Distance learning
Instructors	Hiroko Minami Noriko Katada	Affiliation	University of Kochi Kansai Medical University
Office hours / location	Appointment	Contact details	minami@cc.u-kochi.ac.jp katadan@hirakata.kmu.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<p><u>Objectives</u> Purpose of this class is for the students to inquire a theory and phenomena of their interest with their own thought..</p> <p><u>Attainment targets</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.The students will describe the experience of the people and phenomena in their environment related disaster. 2. Through Theory Analysis, the students will analyze theory component. 3. The students will conduct concept clarification. 		
Class description	<p>The class will be modified and planned with discussion with students. Aiming the students will express their understanding with their own articulation, Concept clarification will be a part of Theory construction to clarify and describe the phenomena.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation: Course out line will be discussed with the students for adjustments.]] 2. Theory Analysis: Review own knowledge base 3. Discuss important phenomena in Disaster time 4. Theory Development/Construction 5. Choosing the concept and making a theory 		
Textbooks	Meleis, AI (2017). Theoretical Nursing: Development and Progress Sixth Edition, Wolters Kluwer, ISBN/ISSN 9780060000424		
Reference materials	Will be posted at the start of the class.		
Grading	Class preparation, Presentation, Participation in the Class		
Cautions and prerequisites	Nursing Theory I & II		
Notes	None		

Class title	Disaster Nursing Seminar I 災害看護活動論演習 I	Section	Required
Class code	117	Year of study	1
Credits	2	Semester	2
Class type	Seminar	Mode of instruction	Distance learning
Instructors	Yoshiko Sasaki ¹⁾ Tomoko komagata ¹⁾ Mieko Ishii ²⁾ Yasuo Sugiura ³⁾ Yuzuru kawashima ⁴⁾ Yoshiko Fukushima ⁵⁾ Atsuko Aurues ⁶⁾ Faculty members of DNGL Sim-PT ⁵⁾	Affiliation	1) Tokyo Medical and Dental University 2) International University of Health and Welfare 3) National Center for Global Health and Medicine 4) National Disaster Medical Center 5) Nagasaki University 6) Former National Defense Medical College 7) Faculties of DNGL Universities
Office hours / location	Appointments as required	Contact details	y-sasaki.dn@tmd.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<p><u>Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Students will understand causes, occurrence mechanisms of major disaster, the records and agendas of medical and nursing activities of the past disaster, the relief system and the low, and the current situation of preparation for new disaster. 2. Students will also engage to critique an English articles and make presentation along to themes they selected. 3. Students will also engage in simulation and workshop using hypothetical cases; they will examine, through nursing assessment, medical relief in disaster areas, and nursing support activity and then consider to a nursing reader's role in each situation. <p><u>Attainment targets</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To understand the principle of medical activities in a disaster acute phase, and the nurse's role in the team medication. 2. To pursue knowledge and skills required for medical aids in disaster areas. 3. To acquire an ability to consider necessary support contents (including the policy recommendation). 		
Class description	<p>【Seminars1-2】 Yoshiko Sasaki & Tomoko Komagata</p> <ul style="list-style-type: none"> • Orientation, confirmation of themes, and planning of learning schedules. • How to take advantage of information from the records and literatures of medical and nursing activities of past disasters. <p>【Seminars3-12】 Yoshiko Sasaki & Tomoko Komagata</p> <ul style="list-style-type: none"> • Prior to a class, students select one disaster of interest and select one original article relevant to that disaster. • Disasters to be picked up are decided by advice of teachers and consultation and adjustment among students so that the theme will not be imbalanced. <p>Examples of theme; Earthquake & Tsunami／Typhoon & Flood including sediment disaster)／Snow disaster, Cold-weather damage／Traffic disaster (e.g. Railway, Automobile, Air plane, Ship／Nuclear disaster／Chemical disaster／Explosion／Terrorism／Air pollution／Pandemic ／Explosion／Volcanic disaster</p>		

Class description	<ul style="list-style-type: none"> • Presentation will be given on the contents of selected English articles and related information (cause of the disaster, the mechanism of occurrence, actual results and problems of medical and nursing activities in the past case, and research method of the article) , then all students have a discussion on it. <p>【Seminars 13・14】 Yuzuru Kawashima</p> <ul style="list-style-type: none"> • Psychological response of survivors (including children) and bereaved families and mental care to them • Psychological response of disaster supporters and mental care to them (Workshop／Distance class by TV) <p>【Seminars 15・16・17】 Yoshiko Sasaki , Tomoko Komagata, and Faculty members of DNGLSim-PT</p> <ul style="list-style-type: none"> • Medical activities for the critically injured disaster victim; Second assessment, reaction to a sudden change in the victim, supporting for distant delivery of patients. (Labo-simulation by Skype) <p>【Seminars 18・19】 Mieko Ishii</p> <ul style="list-style-type: none"> • Planning, operation and evaluation of nursing activities in an acute phase of the domestic disaster. (Lecture & Desk-sim by TV) <p>【Seminars 20・21】 Yoshiko Sasaki</p> <ul style="list-style-type: none"> • Nursing response at a medical facility responsible for medical activities while suffering a large-scale disaster. (Desk-sim by TV) <p>【Seminars 22・23】 Yoshiko Fukushima</p> <ul style="list-style-type: none"> • Medical correspondence to a person with urgent radiation exposure in the radiation disaster <p>【Seminars 24・25】 Atsuko Aurues</p> <ul style="list-style-type: none"> • Management of nursing activities on international disaster support activity (Lecture & Desk-sim by TV) <p>【Seminars 26・27】 Yasuo Sugiura, Tomoko Komagata</p> <ul style="list-style-type: none"> • Healthcare activities for Outbreak in global setting (Lecture & Desk-sim by TV) <p>【Seminars 28・29】 (under selection), Tomoko Komagata</p> <ul style="list-style-type: none"> • Support for local government in domestic catastrophic situation (Lecture & Desk-sim by TV) <p>【Seminar30】 Yoshiko Sasaki , Tomoko Komagata</p> <ul style="list-style-type: none"> • Discussion and feedback. (Distance class by TV)
Textbooks	Introduce in timely
Reference materials	<ul style="list-style-type: none"> • International disaster nursing / edited by Robert Powers and Elaine Daily; Cambridge University Press, 2010.
Grading	Learning attitude 30%, presentation 50%, reports 20%
Cautions and prerequisites	For Simulation, each student should be set one's own objective according to his/her readiness.
Notes	The contents and schedules of lesson may change as needed.

Class title	Disaster Nursing Seminar II 災害看護活動論演習 II	Class type	Required
Class code	118	Year of study	1
Credits	2	Semester	2
Class type	Seminar	Mode of instruction	Distance learning
Instructors	Sonoe Mashino, Mie Sasaki Miwako Konishi, Rie Chiba DNGL SimPT Member	Affiliation	University of Hyogo
Office hours / location	Appointments as required	Contact details	sonoe_mashino@cnas.u-hyogo.ac.jp miwako_konishi@cnas.u-hyogo.ac.jp rie_chiba@cnas.u-hyogo.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<p><u>Objectives</u></p> <p>Students examine the provision of necessary care to individuals and communities, including assessment of daily life and health conditions in the long- to medium term. Based on the assessment, students examine necessary care and its provision, including disaster preparedness. In addition, students learn about collaboration and coordination among relevant organizations and groups while having managerial and organizational views. Students also learn on leadership under disaster situations.</p> <p><u>Attainment targets</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Students can assess the health of individuals after a disaster and examine the provision of necessary care. 2. Students can assess health conditions in temporary housing after a disaster and examine the provision of necessary care. 3. Students can determine and propose concrete measures for collaboration and coordination between organizations and groups which involve in disaster management, regarding to the mid- and long-term health issues. 4. Students can propose concrete policies for community disaster preparation from the view point of maintaining health of community residents at the time of a disaster 		
Class description	<p><u>Class plan</u></p> <p>Session 1: Course Orientation</p> <p>Sessions 2: An overview of daily life and health conditions at mid- and long-term after a disaster</p> <p>Session 3 - 4: Health issues and nursing activities at mid- and long-term after a disaster: Psychological Care in Disasters</p> <p>Session 5-10: Daily life and health conditions at mid- and long-term after a disaster <Student presentation and discussion></p> <ul style="list-style-type: none"> ♦ <i>Students select one event or theme of interest about daily life and health issues of disaster-affected people / disaster-affected areas at mid- and long-term after a disaster / long-term area. Review reports and/or articles relating to the selected specific events and themes of interest, analyze the concrete situation, background, related factors, etc. from the past disaster cases etc. and present them at class.</i> ♦ <i>Based on the presentations from each student, discuss about the events and themes of the victims, the viewpoints and points of assessment of living and health problems in the afflicted areas, discussions throughout the class and deepen their understanding.</i> <p>Sessions 11 - 13: Information and data utilization on assessing health issues within a disaster affected area.</p> <p>Session 14-18: Health conditions and necessary care after disaster #14: introduction for simulation exercise</p>		

	<p>#15-17: Care for survivors living in temporary housing (simulation)</p> <p>#18: Supports for temporary housing residents and collaboration with related organizations</p> <p>Session19-21: Organizational collaboration at mid- and long-term after a disaster</p> <p>#19: Major organizations for disaster response</p> <p>#20-21: Case study: organizational collaboration and coordination</p> <p>Session22-24: Leadership in Disaster Management</p> <p>#22: Effective leadership in disaster situations</p> <p>#23-24: Improving your leadership (workshop)</p> <p>Session25-30: Disaster preparedness for community</p> <p>#25-26: Case study: Preparing for a disaster in terms of health</p> <p>#27-29: Planning and proposing a program for preparing disaster in community (Group Work)</p> <p>#30: For policy proposition in community disaster preparedness (Presentation)</p>
Textbooks	Introduced as required
Reference materials	Introduced as required
Grading	Attendance on class discussion 30%, presentation 40%, assigned course reports 30%
Cautions and prerequisites	None
Notes	The class schedule may be changed.

Class title	Disaster Professional Collaboration Exercise (Disaster IP Exercise) 災害時専門職連携演習 (災害 IP 演習)	Section	Elective
Class code	119	Year of study	1
Credits	2	Semester	2
Class type	Seminar	Mode of instruction	Orientation: Distance learning (October) Data collection / task-based learning / Group work: (October - March) Face-to-face: (Early in March 2018)
Instructors	Ikuko Sakai, Akihiko Kondo, Yutaka Iwasaki	Affiliation	Graduate School of Nursing, Center for Environmental Remote Sensing, Graduate School of Horticulture, Chiba University
Office hours / location	Appointments as required	Contact details	ikusakai@faculty.chiba-u.jp
Class objectives and attainment targets	<u>Objectives</u> Students develop the ability to practice professional collaboration focusing on disaster victims in accordance with the types and dimensions of disasters. (Joint / omnibus format / 30 sessions) <u>Attainment targets</u> <ul style="list-style-type: none"> Students can understand the forms of IPW (interprofessional work) necessary for the various types and dimensions of disasters based on theory and knowledge of professional collaboration. Students understand the attitudes and communication skills necessary when practicing professional collaboration during disasters and can identify issues that they themselves face when actually implementing these practices. Students understand the abilities needed to conduct interorganizational negotiations and construct and manage collaborative practices in their own organization. In addition, students can evaluate and improve these practices and implement them in simulations. 		
Class description	<u>Aims</u> Students develop the ability to practice IPW by acquiring attitudes, knowledge, thinking skills, and the ability to take action in accordance with the types and dimensions of disasters. In response to the various issues that occur in the period between a disaster and recovery, graduate students with different specialties form interdisciplinary teams and aim to improve their IP practice capacity through practical classes in which they collaborate professionally and produce results under the supervision of cooperative instructors with different specialist fields. <u>Class plan</u> 【October: Sessions 1 - 2】 Ikuko Sakai Seminar orientation, explanation of cases, group formation, allocation of responsibilities Each group formulates a plan for task-based learning after assignments after presenting assignments and determining a location for field observations. 【October - January: Sessions 3 - 15】 Ikuko Sakai, Akihiko Kondo, Yutaka Iwasaki Students actually collect the necessary data for conducting multi-faceted data analysis for each for each disaster phase from A.the disaster stage and B. the recover stage. 【February-March 2019: Sessions 16 - 30】 Ikuko Sakai, Akihiko Kondo, Yutaka Iwasaki, Students perform the scenario based simulation for each phases of disaster and receive feedback from faculty members and Collaborators.		

	Students clarify issues for interprofessional collaborative competency focus on the disaster victims and improving their own IP practice competence and the performance of their affiliated organization and team when administering disaster support.
Textbooks	Not required
Reference materials	Not required
Grading	Participation in group work (students actively participation in discussion and cooperate with team members): 50%, presentations: 30% (students summarize of opinions in interdisciplinary teams and conduct presentations using expressions and methods that other students can understand), final reports: 20%
Cautions and prerequisites	Students are encouraged to take this class in conjunction with Professional Collaboration and Practice Theory (year 1, semester 1).
Notes	Not required

Class title	Disaster Nursing Global Leader Seminar 災害看護グローバルリーダー演習	Section	Elective
Class code	209	Year of study	2
Credits	2	Semester	1
Class type	Seminar	Mode of instruction	Distance learning
Instructors	Yumi Tamura Mie Naiki Mariko Ohara	Affiliation	Japanese Red Cross College of Nursing Guest Lecture
Office hours / location	1hr. following each seminar/ 408/406 or email	Contact details	y-tamura@redcross.ac.jp m-naiki@redcross.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<u>Objectives</u> Students are able to learn global leadership skills through disaster cases by analyzing and evaluating the characteristics of disasters and affected communities. <u>Attainment targets</u> The Students will be able to demonstrate their abilities of disaster management skills such as coordination, collaboration, negotiating and policy making on virtual scenarios.		
Class description	<u>Overviews</u> omnibus seminars. Students are expected experimental learning to develop necessity competencies to become a global leader. <u>Class plan</u> ①② Guidance, Disaster Global Leader: Leadership theories. (Yumi Tamura) ③④⑤ Examine hospital management when disaster occurred, like the East Japan Great Earthquake. (Mie Naiki) ⑥⑦⑧ Examine the management of relief teams and their organizations on the cases of the East Japan Great Earthquake. (Mie Naiki) ⑨⑩⑪ Examine the management of support after the Fukushima Nuclear accident. (Mie Naiki) ⑫⑬⑭ Examine the management in conflict and armed areas in foreign countries. (Mie Naiki) ⑮⑯⑰ Discussion about leaders' activities of International disaster management in terms of IPW (Yumi Tamura) ⑱⑲ Set up evacuation places and its management, and the role of the leader, including hygiene of toilets I (Mariko Ohara) ⑳㉑ Set up evacuation places and its management, and the role of the leader, including ㉒㉓㉔ Construction of command system and leaders role in acute medical relief activities on site [I] (Mariko Ohara) ㉕㉖㉗ Construction of command system and leaders role in acute medical relief activities on site [II] (Mariko Ohara) ㉘㉙㉚ Reflection on students learning: Students presentation (Yumi Tamura, Mie Naiki)		
Textbooks	Not required		
Reference materials	Handouts if needed		
Grading	Class participation(10%), Presentations(30%), Written report(20% each teacher)		

Cautions and prerequisites	Student required management knowledge. This subject is scenario-based learning requiring active participation and understanding of strengths and weaknesses of one's developing competency.
Notes	There may change in the order of classes depending progress of learning.

Class title	Independent Study A インディペンデントスタディ(演習) A	Class type	Elective
Class code	120	Year of study	1
Credits	1	Semester	2
Class type	Seminar	Mode of instruction	Seminars, fieldwork
Instructors	Sakiko Kanbara, Yoko Nakayama Hiroko Minami	Affiliation	University of Kochi
Office hours / location	E-mail	Contact details	kanbara@cc.u-kochi.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<p><u>Objectives</u> Students address disaster nursing phenomena, gather and analyze previous research and information on their chosen phenomenon, and develop the basic ability to formulate disaster countermeasures and mitigation plans based on their findings.</p> <p><u>Attainment targets</u> Students learn methods for gathering information and materials about their chosen phenomenon.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Students methods for analyzing previous research and accumulated information 2. Students understand the process of how to use analyzed data to formulate disaster countermeasures and mitigation plans. 3. Students understand the ideal nature of collaboration among organizations in industry, government, and academia and the role of nurses. 4. By conducting actual fieldwork activities, students learn about the role of leaders and the abilities required in this role. 		
Course description	<p>Students address a phenomenon that they are interested in, consult with instructors about objectives, contents, and methods of development, and formulate plans. The seminar is administered by three instructors; however, primary instructors will be selected through discussion on the basis of students' chosen themes.</p> <p><u>Examples of seminar themes</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • Formulating disaster mitigation plans for people, families, and organizations • Constructing systems to support the lives of vulnerable people living in evacuation centers • Analyzing of the effects of disasters on mental health and constructing support systems • Preparation of support system for survivors whose culture or country are different. <p><u>Class plan</u> Session 1: Analyze the disaster situations that will be addressed Sessions 2 - 3: Gather and analyze information and materials Sessions 4 - 5: Fieldwork Sessions 7- 8: Formulate disaster countermeasures, support methods, and disaster mitigation plans Sessions 9 - 13: Fieldwork (including collaboration with industry, government, and academia) Sessions 14-15: Evaluate disaster countermeasures, support methods, and mitigation plans formulated by students and discuss the role of nurses</p>		
Textbooks	Introduced as required in accordance with students' chosen themes		
Reference materials	Introduced as required in accordance with students' chosen themes		
Grading	Comprehensive evaluation of presentations, reports, and development of fieldwork content		
Cautions and prerequisites	Not required		
Notes	Not required		

Class title	Independent Study B インディペンデントスタディ(演習) B	Section	Elective
Class code	121	Year of study	1
Credits	1	Semester	2
Class type	Seminar	Mode of instruction	Face-to-face
Instructors	Sonoe Mashino, Maki Umeda, Mie Sasaki	Affiliation	University of Hyogo
Office hours / location	Appointments as required	Contact details	sonoe_mashino@cnas.u-hyogo.ac.jp/
Class objectives and attainment targets	<u>Objectives</u> Students discover areas of disaster nursing that they wish to further pursue by expanding learning necessary for research, including methods for gathering, analyzing, and integrating information. <u>Attainment targets</u> <ul style="list-style-type: none"> Students learn methods for systematically investigating existing knowledge in their area of interest and reading literature and materials. Students learn methods for analyzing and integrating existing knowledge. Students learn methods for integrating existing knowledge and describing it in reports. 		
Class description	<p>In the seminar, students make plans based on a phenomenon that they are interested in after discussing their objectives, content, and development plans with instructors. Seminar formats include literature searches, fieldwork, and internships depending on the students' area of interest. Students select instructors on the basis of their phenomenon of interest then proceed with the seminar.</p> <p><u>Class plan</u></p> <p>Sessions 1: Orientation</p> <p>Discuss and determine phenomenon or theme which students are interested in</p> <p>Sessions 2 – 3: Decide theme which each student is going to work on, determine objectives, contents and methods and make an individual study plan.</p> <p>Session 4 -10: Conduct literature searches and reviews and summarize findings</p> <p>Fieldwork (if necessary)</p> <p>Sessions 11-14: Students analyze and integrate knowledge related to their area of interest and summarize their findings in writing.</p> <p>Session 15: Students present the summarized content and discuss it constructively with their peers.</p>		
Textbooks	Introduced as required		
Reference materials	Introduced as required		
Grading	Handling of the overall assignment process and reports		
Cautions and prerequisites	Not required		
Notes	Not required		

Class title	Independent Study (seminar) C インディペンデントスタディ(演習)C	Section	Elective
Class code	122	Year of study	1
Credits	1	Semester	2
Class type	Seminar	Mode of instruction	Face-to-face
Instructors	Yoshiko Sasaki, Tomoko Komagata	Affiliation	Tokyo Medical and Dental University
Office hours / location	Appointments as required	Contact details	y-sasaki.dn@tmd.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<p><u>Objectives</u> In the field of disaster nursing of interest to each student, he/she analyze information from the literature on the current situation of disaster and countermeasures, disaster prevention measures and countermeasures, and then discuss needs and problems for various organizations and individuals. Thereby students find problems of disaster nursing practice and research, and then cultivate the basic ability as a disaster nursing global leader.</p> <p><u>Attainment targets</u> 1. Students can gather and analyze information on cases of countermeasures in the past, such as major disasters occurred in the past and the current situation of preparation for expected disaster in the future, and can extract the needs and problems of various organizations and individuals. 2. Students can describe the issue of practice and research for developing a new disaster-related care delivery system.</p>		
Class description	<p>【Seminar1】 Yoshiko Sasaki Orientation, confirmation of themes, and planning of learning schedules.</p> <p>【Seminar 2-11】 Yoshiko Sasaki, Tomoko Komagata Collecting and analyzing information</p> <ul style="list-style-type: none"> Analyze past literature on disasters both in and outside Japan and literature on preparation for future disasters and organize the needs and problems of various organizations and individuals. Participate in activities such as disaster countermeasures at disaster hospitals and voluntary disaster prevention organizations in the region, and understand the current disaster prevention and disaster reduction initiatives and the current situation of multi-occupational collaboration. If necessary, grasp the current status and problems of municipalities, medical institutions, enterprises for new disasters (inspection and hearing) In order to deepen the interpretation and understanding of information, consult with experts as appropriate. <p>【Seminar 12-13】 Yoshiko Sasaki, Tomoko Komagata Integration of information and discussion</p> <p>【Seminar 14-15】 Yoshiko Sasaki, Tomoko Komagata Presentation of results</p> <ul style="list-style-type: none"> Summary of literature review The issue of practice and research for developing a new disaster-related care provision system 		
Textbooks	Introduce in timely		
Reference materials	Introduce in timely		
Grading	Learning attitude 70%, report 30%		
Cautions and prerequisites	Class schedule will be presented later		
Notes	Contents and the class schedule may be changed as needed		

Class title	Independent Study D インディペンデントスタディ(演習) D	Section	Elective
Class code	123	Year of study	1
Credits	1	Semester	2
Class type	Seminar	Mode of instruction	Face-to-face
Instructors	Yayoi Iwasaki Takako Ito	Affiliation	Chiba University
Office hours / location	Appointments as required	Contact details	yiwasaki@faculty.chiba-u.jp tito@chiba-u.jp
Goals and objectives	<u>Goals</u> Students synthesize research results and theories related to disaster nursing practice in order to discuss disaster nursing practice including the aspects of “human security” and “leadership”. <u>Objectives</u> (1) Students engage in literature review and fieldwork (or internship) to explore, analyze, and synthesize phenomena and information related to disaster nursing practice. (2) Students examine disaster nursing practice in terms of “human security” and “leadership”.		
Class description	<p>[Sessions 1 – 5] While consulting with the instructor, students clarify issues related to disaster nursing practice and develop a study plan for literature review and fieldwork (or internship) to examine the addressed issues. The study plan should include the following:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Title of the project - Issues to be addressed and its background - Purpose and objectives of literature review and fieldwork (or internship) - Methods and activities to achieve the proposed objectives - Letter of inquiry for fieldwork (or internships) - A time frame and work schedule to achieve the proposed objectives - Meeting schedule for mid-term report and supervision - Schedule for presentation and submission of the report - Evaluation criteria of the independent study - Reference list <p>To organize the study plan, refer to an outline for research proposal or project proposal.</p> <p>※ Students are encouraged to clarify their research questions, analyze key concepts, and construct a study framework.</p> <p>※ The instructor helps students develop skills for literature review, concept analysis, data analysis and synthesis, and report writing.</p> <p>[Sessions 6 – 14] Students engage in literature review and fieldwork/internship to examine, analyze, and synthesize information and phenomena related to disaster nursing practice.</p> <p>※ The instructor will provide consultation and instruction on how to conduct literature review and fieldwork as required.</p> <p>[Session 15] Students integrate the results of their literature review and fieldwork/internship and write a report on disaster nursing practice. They also present and discuss disaster nursing practice including the aspects of “human security” and “leadership”.</p> <p>* To organize your paper, refer to an outline for research paper or project report.</p>		
Textbooks	Gray JR, Grove SK, & Sutherland S (2016) Burns and Grove's The Practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence (8th ed). Elsevier. Veenema TG (2013) Disaster nursing and emergency preparedness: for chemical, biological, and radiological terrorism and other hazards (3rd ed). Springer. Walker LO & Avant KC (2004) Strategies for Theory Construction in Nursing. Prentice Hall.		
Reference materials	American Psychological Association. Publication Manual of the American Psychological Association. The Sphere Handbook 2018 Draft 2. http://www.sphereproject.org/handbook/revision-sphere-handbook/draft-ready-for-feedback/#download		
Grading	Comprehensive evaluation of the study plan, implementation, scholarly paper, and presentation according to the learning goals and objectives.		

Cautions and prerequisites	None
Notes	None

Class title	Independent Study E インディペンデントスタディ (演習) E	Section	Elective
Class code	124	Year of study	1
Credits	1	Semester	2
Class type	Seminar	Mode of instruction	Face-to-face
Instructors	Yumi Tamura Mie Naiki	Affiliation	Japanese Red Cross College of Nursing
Office hours / location	1hr. following each seminar/ 408/406	Contact details	y-tamura@redcross.ac.jp m-naiki@redcross.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<u>Objectives</u> In order to acquire necessary Disaster Nursing global leader abilities (knowledge, skills, and attitude), study the important issues globally in disaster nursing through literature review and fieldwork, especially for clarifying survivors' health problems and to explore care management. <u>Attainment targets</u> Analyses of past domestic and international disaster nursing practice reports, research, etc. from a global leader perspective (coordination, collaboration, negotiation, policy-making, etc.), including a review through field work.		
Class description	<u>Overview</u> Study Past of disaster nursing practice reports and research reports published by various organizations and institutions. Consider from the perspective of a global leader, clarify the issues, and gain the ability to develop plans for preparation for disasters. <u>Class plan</u> Students plan the purpose of the exercises, content, deployment method in consultation with the professor. These activities will be carried out under supervision of the professor. Students take planning and implementation for the following things: ①② Identifying purpose of own work ③ - ⑤ Search related literature such as disaster report and research articles of own interest (including videos and VTR・DVD, etc.) ⑥⑦ Setting of analytical perspective ⑧ - ⑪ Examination and discussion of them (include field work, at this stage) ⑫⑬ Presenting study results ⑭⑮ Writing assignments (about 6000 words in Japanese/ 3000 words in English)		
Textbooks	Not required		
Reference materials	Not required		
Grading	Presentation and reflective essay		
Cautions and prerequisites	Since the disaster nursing practice scene ever-changing, we expect the active participation, including the self-learning.		
Notes	Not required		

Class title	Disaster Nursing Practicum I 災害看護学実習 I	Selective	Required
Class code	210	Year of study	2
Credits	2	Semester	1
Class type	Practicum	Mode of instruction	Practical Training
Instructor	Sonoe Mashino Mie Sasaki	Affiliation	University of Hyogo
Office Hours / location	By email	Contact details	sonoe mashino@cnas.u-hyogo.ac.jp
Class objectives and attainment target	<p><u>Objectives</u></p> <p>This class is designed to understand the living environments and health issues of disaster survivors and to provide them with the necessary care in the middle- and long-term period after disaster. Students will also learn how to collaborate and coordinate with related people involved for the adjustment of care provision plan as well as develop the necessary system to solve the health issues and lifestyles in the evacuation areas. It attempts to evaluate care, collaboration, and coordination implemented.</p> <p><u>Attainment targets</u></p> <p>① to understand the living environments and health issues of disaster survivors in the middle- and long-term evacuation stage after the disaster.</p> <p>② to acquire the ability (1) to evaluate the current conditions of living environments and health issues of the survivors at the evacuation sites in the middle- and long-term evacuation stage; (2) to implement planning and providing the necessary care and (3) to collaborate with professionals involved for the coordination of care provision.</p> <p>③ to evaluate all the care implemented and identify the better provision as professionals.</p>		
Class description	<p>A Practicum procedure</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. The practicum will take place for two weeks, including the prior self-learning, orientation, record, and the final conference. 2. Students are required to investigate the characteristics of the areas they go for practicum beforehand in order to gather the basic information of population and health condition. 3. During the program, students must write daily reports. There is no fixed format, but it must include all the activities to be conducted, information on living environments and health issues, assessment and implementation of a plan based on the assessment. <p>B Class description and Method</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) This practicum focuses on the middle- and long-term evacuation stage after the disaster. 2) It identifies refugees' living environments and health issues in the evacuation sites. It will do so by attending home visits, health consultations and local events. 3) Students provide with healthcare according to the refugees' health needs. At that time they must have collaboration, coordination and consultation with local residents and other professionals involved. 4) During the program, students must consult with the instructor and local nurses for support. There are opportunities for students to discuss the progress of practicum, problems and ethical issues emerged during the program. 5) The practicum report will be a case study report, either individual or community as group) <p>C Practice location</p> <p>Evacuation sites in Japan (incl. temporary housing)</p> <p>Detailed information will be notified later.</p>		
Textbooks	Materials will be distributed accordingly.		
References materials	References will be distributed accordingly.		

Grading	Students must submit a report including planning, implementation and assessment. Performance on activities (30%) and Activity report (70 %)
Cautions and prerequisites	The period and/or length of the practice depends on students' individual goals and /or characteristics of practice field. Therefore students must ensure an appropriate period of time for the practicum in order to achieve the goals agreed with the instructor.
Notes	Not required

Class Title	Disaster Nursing Practicum II 災害看護学実習 II	Selective	Required
Class code	401	Year of Study	4
Credits	2	Semester	1
Class Type	Practicum	Mode of Instruction	Practical Training
Instructor	Mie Naiki Yumi Tamura	Affiliation	Japanese Red Cross College of Nursing
Office hours/location	Email	Contact details	y-tamura@redcross.ac.jp m-naiki@redcross.ac.jp
Class objectives and attainment target	<p>【Objectives】</p> <p>This class is designed to cultivate as global leaders, students will learn about the actual international agencies' activities in preparation and/or respond for disaster risk reduction and strengthen community resilience. Students also learn disaster education system for developing human resources at the institutions, such as WHO, ISDR, OCHA, ICN, IFRC/ICRC, JICA and Universities, etc.</p> <p>【Expected Outcomes】</p> <p>Students are:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Able to understand the disaster management organizational structure and functions on the organizations and institutions. 2) Able to consider disaster management activities from narratives of past experiences of the organizations and institutions. 3) Able to analyze own disaster management skills (negotiation, coordination, collaboration, policy making etc.) critically and planning for improve their skills through various activities. 4) Able to discuss future disaster management activities on site from observation and partial participation 		
Class Description	<p>【practicum overall】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Practice period: from June to the end of September. 2) Practical training institutions・Organizations shall be disaster response organizations etc. (domestic or overseas) 3) Practice under the supervision of local disaster management director and counterpart (person in charge of practical facility / institution). 4) As a general rule, practical training time follows the opening hours of training facilities / institutions. 5) Establish a practical training plan, negotiate with practical facilities / institutions, and at times change the plan flexibly to proceed. 6) Regardless of domestic and overseas, we will look back at the practical training facility and the person in charge of the institution on the final day of practical training (have the opportunity to present the learning) 7) After completing practical training for all students, implement practical training session for publication and sharing of learning. 8) Practical training expenses will be borne by the main home college to which the student belongs. <p>【Practice content・method】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Create a summary of practical training facilities / institutions, reports on disaster-related projects and activities. (preparatory work) 2) Take one case of disaster management in practical facilities / institution and analyze it to clarify the task and present a suggested improvement plan. 3) Provide presentation and discussion opportunities for the organizations and obtain feedback. 4) During practical training, get advice on achieving the goal to the personnel and faculty of the practical institution / institution that is the counterpart him / herself. 		

	<p>5) At the end of every day practical training, with the attendance of the person in charge, have a short reviewing time.</p> <p>6) In daily practical training, plan the activities to achieve the goals and individual goals, and write a practice record. The format of the training record is free, but students should describe and reflect their activities.</p> <p>7) Ensure yourself (including health care) safety from any daily activities, and follow the counterparts' orders when anything happened.</p> <p>【Safety Issues】</p> <p>· In addition to taking the prescribed procedures for DNGL's safety management, observe the rules concerning the safety management of the university. Particularly in the case of overseas, observe the standards of safety management of both parties (clarify the person in charge at the main college of the student and make it possible to cooperate closely with the person in charge of the course during the practical training period).</p> <p>* Briefing session will be held in April.</p>
Textbooks	None
References materials	None
Grading	Attendance and contribution to the program (50%)、Presentations(30%)、Assignment (20%)
Cautions and prerequisites	Students are expected to participate actively, including self-learning, because they will conduct procedures at the student body, such as practical training plan, communication and adjustment with practical parties.
Notes	Not required

Class title	Independent Study Practicum A インディペンデントスタディ(実習) A	Class type	Elective
Class code	402	Year of study	4
Credits	1	Semester	1
Class type	Practicum	Mode of instruction	Fieldwork
Instructors	Sakiko Kanbara, Yoko Nakayama Hiroko Minami	Affiliation	University of Kochi
Office hours / location	E-mail	Contact details	kanbara@cc.u-kochi.ac.jp nakayama@cc.u-kochi.ac.jp minami@cc.u-kochi.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<p><u>Objectives</u> Students aim for acquirement various abilities required disaster nursing global leaders, such as information-gathering, situation analysis, cooperation with industrial-government-academic, management, support, coordination, consultation and policy proposal through actual involvement of disaster prevention and mitigation to support/recovery in disaster area.</p> <p><u>Attainment targets</u> 1. To understand the situations and analyze needs/problems of relevant organizations and people in community through disaster related activities. 2. To discuss and consider the proposals and action for problem solving in disaster situations collaborating with relevant organizations and people through commitment in the activity field.</p>		
Class description	<p>Students consult with teachers about purpose, contents and method of development based on disaster related phenomena and issues according to his/her interest. Students will receive practical training at the actual field in domestic/overseas. For example, disaster prevention and mitigation for individual, family, organization in the community; evacuation and daily life at the shelter of vulnerable people; how disaster affects mental health to victims; medium and long term support and recovery in the affected area; educational training of nurses who support disaster victims etc.</p> <p>Method of practicum is field work (including internship) at the industrial-government-academic agencies, government and private organization and medical facilities ex. hospitals.</p>		
Textbooks	None		
Reference materials	Introduced as required.		
Grading	Comprehensive evaluation of presentations, reports, and development of fieldwork content		
Cautions and prerequisites	Not required		
Notes	None		

Class title	Independent Study Practicum B インディペンデントスタディ(実習) B	Class type	Elective
Class code	403	Year of study	4
Credits	1	Semester	1
Class type	Practicum	Mode of instruction	Fieldwork
Instructors	Sonoe Mashino, Maki Umeda, Mie Sasaki	Affiliation	University of Hyogo
Office hours / location	E-mail	Contact details	sonoe_mashino@cnas.u-hyogo.ac.jp
Class objective and attainment targets	<p><u>Purpose</u> Based on the concerns or issues of students, students foster the necessary abilities for global leaders through practical activities, such as disaster risk reductions, disaster responses, rehabilitation and others as nursing profession.</p> <p><u>Attainment aims</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Students can make the plan for practice while identifying on own learning issues. 2. Students can implement the plan for attainment of own purposes in relation with related persons/organizations with collaboration and cooperation. 3. Through this subject, students can further understand about own concerns in disaster nursing. 4. Students can explain the abilities that students strengthen with evidences. 		
Class description	<ol style="list-style-type: none"> 1. Students make the plan for this practice while discussing about the purpose, content and way of this practice with faculties. 2. Students decide the venue for the practice with support of faculties. By this process, students learn on negotiation and coordination. 3. Based on the planning, students implement nursing activities with supervise from related persons/organizations and faculties. <p>Students can evaluate and report about own activities and results to related people/organizations.</p>		
Textbooks	None		
Reference materials	Introduced as needed		
Grading	Comprehensive evaluation of report and practical content/way		
Caution and prerequisites	None		
Notes	None		

Class title	Independent Study Practicum C インディペンデントスタディ(実習)C	Section	Elective
Class code	404	Year of study	4
Credits	1	Semester	1
Class type	practicum	Mode of instruction	Practical Training
Instructors	Yoshiko Sasaki, Tomoko Komagata	Affiliation	Tokyo Medical and Dental University
Office hours / location	Appointments as required	Contact details	y-sasaki.dn@tmd.ac.jp
Class objectives and attainment targets	<p><u>Objectives</u></p> <p>In the field of disaster nursing of interest to each student, he/she conduct fieldwork with the goal of conducting deeper inquiries and interventions on disaster nursing practices and research issues found through previous learning and research, thereby developing the ability as the disaster nursing global leader.</p> <p><u>Attainment targets</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. With regard to the needs and problems of disaster nursing of target organizations and individuals, student can organize issues while building relationships with stakeholders and discussing them. 2. For the tasks, student can put nursing practice or research activities while collaborating with stakeholders. 		
Class description	<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation, theme confirmation and planning Yoshiko Sasaki & Tomoko Komagata 2. Preliminary learning and concrete planning on fieldwork 3. On-campus discussion on fieldwork 4. Implementation of field work <ul style="list-style-type: none"> ・ Establish relationship with stakeholders of target organizations ・ Explain about activities to stakeholders, consultation, and negotiation ・ Implementation of Investigation, intervention, etc. ・ Evaluation 5. Results and recommendations in the disaster nursing field (report) 		
Textbooks	Introduce in timely		
Reference materials	Introduce in timely		
Grading	Learning attitude 70%, report 30%		
Cautions and prerequisites	The contents and schedules may be changed.		
Notes	Set the time and duration of field work separately		

Class title	Independent Study Practicum D インディペンデントスタディ（実習）D	Section	Elective
Class code	405	Year of study	4
Credits	1	Semester	1
Class type		Mode of instruction	Face-to-face
Instructors	Yayoi Iwasaki Takako Ito	Affiliation	Chiba University
Office hours / location	Appointments as required	Contact details	yiwasaki@faculty.chiba-u.jp tito@chiba-u.jp
Goals and objectives	<p><u>Goals</u> Through the internship (or fieldwork) in domestic and/or overseas organizations, students develop knowledge and skills for policy making relevant to disaster risk reduction, recovery, or humanitarian aid; skills for global leadership; and/or skills for industry-academia-government cooperation.</p> <p><u>Objectives</u> (1) Students clarify knowledge and skills they want to develop as a disaster nursing global leader and plan and implement internship (or fieldwork) to acquire those skills. (2) Students analyze, synthesize, and evaluate the knowledge and skills gained through the internship (or fieldwork) and discuss roles of nurse leaders in disaster management.</p>		
Class description	<p>[Sessions 1–5] While consulting with the instructor, students clarify knowledge and skills they want to develop as a disaster nursing global leader and develop a plan for internship (or fieldwork) to acquire those skills. The plan should include the following:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Title of the internship (or fieldwork) - Knowledge and skills you want to develop - Purpose and objectives of internship (or fieldwork) - Site, period and duration of internship (or fieldwork) - Methods and activities to achieve the proposed objectives - Letter of inquiry for internship (or fieldwork) - A time frame and work schedule to achieve the proposed objectives - Meeting schedule for mid-term report and supervision - Schedule for presentation and submission of the report - Evaluation criteria of the independent study - Reference list <p>To organize your plan, refer to an outline for project proposal or internship proposal.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><u>Examples of linternship</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • Participation in policy making of disaster risk reduction, preparation, response, and/or recovery • Participation in an interdisciplinary team to plan, implement, and evaluate disaster risk reduction, response, and/or recovery • Collaboration and cooperation with residents and local government in developing a community-based system for disaster risk management • Collaboration with hospitals, schools, or other organizations to plan, implement, and evaluate disaster drills </div> <p>[Sessions 6–14] Students engage in internship (or fieldwork) and keep a reflective journal of activities and experience. ※ The instructor will provide consultation and instruction related to internship (or fieldwork) as required.</p> <p>[Session 15] Students integrate, evaluate, and write a report regarding their experience and skills acquired through the internship (or fieldwork). They also present and discuss roles of nurse leaders in disaster management.</p>		
Textbooks	Gray JR, Grove SK, & Sutherland S (2016) Burns and Grove's The Practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence (8th ed). Elsevier.		

	<p>University of Cambridge Institute for Sustainability Leadership (2017) Global definitions of leadership and theories of leadership development: Literature review. https://www.britishcouncil.org/sites/default/files/final_leadership_literature_review.pdf</p> <p>内島典子（2012）産学連携の現状に対する課題認識．産学連携学， https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjsip/9/1/9_1_27/_pdf/-char/en</p>
Reference materials	<p>Sendai Framework for Disaster Risk Reduction 2015-2030. http://www.unisdr.org/we/inform/publications/43291</p> <p>United Nations Plan of Action on Disaster Risk Reduction for Resilience. http://www.preventionweb.net/files/49076_unplanofaction.pdf</p> <p>Incident Command System (ICS). https://training.fema.gov/emiweb/is/icsresource/assets/reviewmaterials.pdf</p>
Grading	Comprehensive evaluation of the study plan, implementation, scholarly paper, and presentation according to the learning goals and objectives.
Cautions and prerequisites	None
Notes	None

Class Title	Independent Study Practicum E インディペンデントスタディ(実習) E	Selective	Elective
Class code	406	Year of Study	4
Credits	1	Semester	1
Class Type	Fieldwork	Mode of Instruction	Practical Training
Instructor	Mie Naiki Yumi Tamura	Affiliation	Japanese Red Cross College of Nursing
Office hours/location	Email	Contact details	y-tamura@redcross.ac.jp m-naiki@redcross.ac.jp
Class objectives and attainment target	<p><u>Purpose</u> Disaster Nursing In order to cultivate necessary skills (knowledge, skills, attitudes) for global leaders, we clarify global important issues in disaster nursing from literature, field work, etc.. and in particular explore health problems and care management of victims .</p> <p><u>Target</u> 1. Past reports of disaster nursing practice at home and abroad. From the research and feed work etc., it is possible to critically examine the management on the health and living issues of the victim. 2. Through learning in 1 above, you can find a strategy that leads to improvement of your disaster nursing practice. 3. You can embody methods to explore your own problems, doubts, phenomena of interest.</p>		
Class Description	<p><u>Learning procedures</u> ・ Consult with the academic supervisor on the purpose of the practical training and the deployment method, and plan on a subjective basis. ・ Practicum will proceed while receiving the supervision of teachers. ・ Students plan and implement the following matters. ① About the details of this practice At the time of orientation, the student announces his plan at the time of orientation. ② Plan and operate the report meeting.</p> <p>* Detailed practical fieldwork plan for each student will be determined by mutual dialogue between students and faculty on orientation day in April.</p>		
Textbooks	None		
References materials	None		
Grading	Attendance and contributions(50%)、Presentations(30%) Assignment(20%)		
Cautions and prerequisites	As field work destination is student entity, we will conduct procedures such as selection / request etc, so we expect active participation including self-learning.		
Notes	None		

Class title	Field Research 実践課題レポート	Section	Required
Class code	213	Year of Study	2
Credits	5 (One credit from each university)	Semester	2
Class type	Seminar	Teaching method	Face-to-face, Field work
Instructors (Affiliation)	Hiroko Minami Yoko Nakayama Sakiko Kanbara Soneo Mashino Maki Umeda Mie Sasaki Yayoi Iwasaki Takako Ito Yoshiko Sasaki Tomoko Komagata Yumi Tamura Mie Naiki	University of Kochi University of Kochi University of Kochi University of Hyogo University of Hyogo University of Hyogo Chiba University Chiba University Tokyo Medical and Dental University Tokyo Medical and Dental University Japanese Red Cross college of Nursing Japanese Red Cross college of Nursing	
Office hours/ location	Appointments as required	Contact Information	Above professor's e-mail address
Class Objectives and attainment target	<p><u>Objectives</u></p> <p>Based on the knowledge and skills that students gained through exercises and practices in the first year course work, they will conduct field research. Students will identify the problem in disaster nursing, collect the data and analyze through making the plans of support activities in disaster nursing and implement in community. They are expected to gain the ability to evaluate and study an interdisciplinary perspective.</p> <p><u>Attainment targets</u></p> <p>1) To investigate the nursing issues with grasp the situation of disaster</p> <p>2) To analyze disaster situation by collecting information</p> <p>3) To practice or propose a support plan as “being healthy” during disaster situation</p> <p>4) To create an academic report of analyzing problems and practice of support activities.</p> <p>“Disaster situation” include meaning of disaster reduction / disaster mitigation. Also creating support system and cooperation between hospitals and community include “support activities”.</p>		
Class description	One chief advisor for the Practical Issue Report (Field research) and four vice advisor for the practical issue report will carry out according to students' research theme.		
Textbook	To be introduced depend on a research theme of student		
Reference materials	To be introduced depend on a research theme of student		
Grading	Evaluation is carried out by advisors of field research from 5 universities by a report processing and contents.		
Cautions and prerequisites	Students are expected to discuss the contents of field research with a full time faculty in cooperative doctoral program for disaster nursing before start the class.		
Notes	Students required earning credits of this class due to apply the Preliminary Examination.		

Class title	Dissertation Research Proposal 災害看護研究デベロップメント	Section	Required
Class code	304	Year of study	3
Credits	5 (One credit from each university)	Semester	1
Class type	Seminar	Mode of instruction	Distance learning
Instructors	Hiroko Minami, Yoko Nakayama, Sakiko Kanbara Sonoe Mashino Yayoi Iwasaki Yoshiko Sasaki Tomoko Komagata Yumi Tamura Mie Naiki	Affiliation	University of Kochi University of Kochi University of Hyogo Chiba University Tokyo Medical and Dental University Tokyo Medical and Dental University Japanese Red Cross College of Nursing Japanese Red Cross College of Nursing
Office hours / location	Appointments as required	Contact details	e-mail address
Class objectives and attainment targets	<u>Objectives</u> Aiming toward creating the dissertations of each student, the process for creating research planning proposals is discussed by the instructors and student involved in this curriculum. In the context of proposing research plans, full consideration of documents and advance information gathering is carried out, and full consideration is given concerning both the significance of research and ethical considerations and actively seeking consultation with and advice from instructors and specialists in the relevant fields, and the possibility of execution. <u>Attainment targets</u> (1) To obtain an understanding of the conditions required in a dissertation as a DNGL. (2) To obtain an understanding of the process of focusing on the academic or global viewpoint as a research subject on the present situation in disaster nursing. (3) To obtain the ability to choose all matters from a research subject to appropriate research design, to incorporate new knowledge or knowledge from other academic fields, and to decide upon a research method. (4) To be able to create a draft of a research plan proposal, aiming toward writing a dissertation. (5) To obtain the ability to refine a research plan proposal through discussions with instructors and other students.		
Class description	Explanation concerning the salient points of dissertation writing is carried out as TV conference classes. After that, in accordance with the research plan of each student, the plan is drawn up with 1 main supervisor and 4 assistant supervisors, and executed (refer to the completion guidebook to find the special field of each guidance instructor.) In addition, discussion will be carried out among the students concerning research plan proposals, and they are promoted while sharing the process of plan design.		
Textbooks	Not required		
Reference materials	Indicated in accordance with necessity.		
Grading	Evaluation is carried out by supervisors from 5 universities who support the creation process of research plan drafts.		
Cautions and prerequisites	Discussion centered on students is carried out by means of a TV conference system.		
Notes	The reason that this subject is set up as a 3 rd year 1 st semester subject is for the purpose of providing support to preparations for writing dissertations. Since this is a system for support of research with sequential involvement of multiple supervisors in the process of writing a doctoral dissertation, it is aimed toward being a training aid for students to learn to summarize and reach their own conclusions concerning the opinions obtained from various instructors.		

Class title	Dissertation Research 博士論文	Section	Required
Class code	501	Year of study	4～5
Credits	5 (One credit from each university)	Semester	1 or 2
Class type	Seminar	Mode of instruction	Distance learning
Professors	Hiroko Minami, Yoko Nakayama, Sakiko Kanbara Sonoe Mashino, Maki Umeda Mie Sasaki Yayoi Iwasaki Yoshiko Sasaki, Tomoko Komagata Yumi Tamura, Mie Naiki	Affiliation	University of Kochi University of Hyogo Chiba University Tokyo Medical and Dental University Japanese Red Cross College of Nursing
Office hours / location	Appointments as required	Contact details	e-mail address
Class objectives and attainment targets	<p><u>Objectives</u> Based on doctoral dissertation proposal and the result of nursing research ethics review at affiliated university, students develop the ability to conduct the academic research independently through writing the doctoral dissertation. Especially, students study concretely the process of data collection and data analysis with ethical considerations under the supervision by professors and specialists.</p> <p><u>Evaluation points</u> (1) To identify the method to achieve the purpose of research and discuss the data collection and data analysis concretely. (2) To examine the ethical considerations carefully on the process of data collection and data analysis sufficiently. (3) To ensure the reliability and validity or trustworthiness on the process of data collection and data analysis. (4) To describe the findings based on evidence. (5) To step through the process of data collection and data analysis precisely using advices by research advisors for doctoral dissertation.</p>		
Class description	Students plan to get enough advices from assistant supervisors using TV conference system on the making process of doctoral dissertation.		
Textbooks	Not required		
Reference materials	Indicated in accordance with necessity.		
Grading	Evaluation is carried out by 1 main supervisor and 4 assistant supervisors from 5 universities in doctoral dissertation committee members.		
Cautions and prerequisites	Students who have finished the qualifying examination will be able to enroll the subject of "Dissertation Research".		
Notes			

